

withコロナ^{*} 制作業務 実施ガイドブック

Ver. 1.11

監修

医療コーディネータージャパン 株式会社

(一社) 日本アド・コンテンツ制作協会

※掲載内容は状況により変更する場合がございます

本ガイドブックは、「JAC制作見積ハンドブック」の別冊として、
緊急事態宣言解除後「withコロナ」において再開となる制作業務の「新しい在り方」について、
*現時点での実施推奨例を詳細に提案するものです。

*状況の変化に伴い、変更・追加・される可能性があります。

JACが既に配布している「感染予防マニュアル」や「再開ガイドライン」と重複する部分もありますが、
ここではそれらを「業務再開におけるビジネスの側面」からまとめ直しました。関係する皆様が全体で、
より円滑に日々の業務を実施していくことを目的として、考え方や具体例を盛り込んでいます。

withコロナ制作業務の再開では、引き続き可能な限りの「リモート」が推奨となりますが、
決定をいただいた制作内容によっては「リアル」な参集を必要とする場合も多くなっていきます。

JACは、「リアル業務の新・常態化」に向け、制作会社として下記を優先とすることを推奨します。

- ◎得意先・出演者・スタッフの皆様の健康・安全を第一とした実施環境を提供する
- ◎可能な限りの「感染拡大防止対策」を講じる

また、上記の実現のために、制作業務における「新たな・大きな実践課題」となる
次の2項目を具体的な「**実施上のポイント**」として明示します。

- I. 新たなスタッフ「*衛生管理部(メディック部)」の創設**
- II. 「企画のフィジビリティ(実現可能性)の変容」に伴う「企画方針策定打合せ」の励行**

*制作会社により部署名が異なる場合があります

Withコロナでの制作業務は長期化が想定されます。感染拡大防止策を実施しながら新しい業務
様式で制作業務にあたるため、参加する皆様のご理解とご協力が必要となります。

また、制作現場に関わらず日本国内の感染拡大防止につなげる意識も大切です。高い感染防止
意識をもって行動する取組みとして、国が勧奨している新型コロナウィルス接触確認アプリ(COCOA)
のご利用にもご協力いただけますようお願いいたします。

本ガイドブックで推奨する内容について、関係する皆様にご周知頂ますようお願いいたします。

「withコロナ」は制作業務の在り方を従来とは異なるものに変えます。

常にリスクを意識しなければならなくなった一方で、

これまで変え難く必ずしも効率的ではなかった構造を一気に改革する契機ともなります。

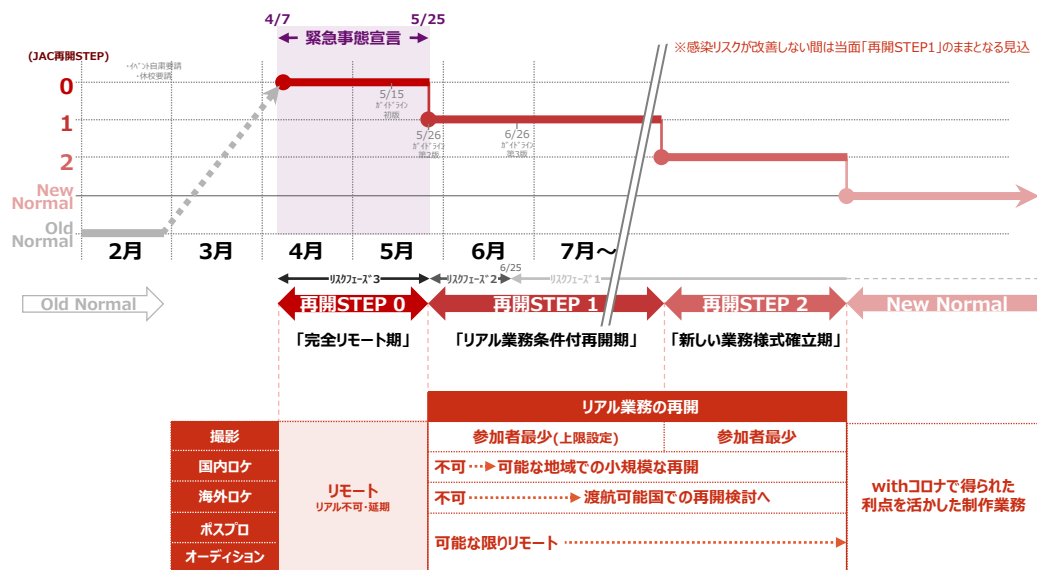
JACは、「withコロナ」で得られる新たな制作業務の利点を生かし、

感染リスクが低減する「New Normal」に向けて、新しい制作業務を確立していきます。

withコロナ制作業務

1. 参加人数を最少化し、全ての制作業務をシンプルに行う
2. 事前に仕様や決定プロセスを明確に合意し、手戻りの無駄を省く
3. *フィジビリティの変化をよく認識・共有し、企画段階から最適化を図る

*フィジビリティ：実現可能性



「withコロナ制作業務」は、beforeコロナの時のように「すべてが自由に行える」在り方とは異なるものです。

スペースやスケジュールの「圧縮＝密」を常としてコストの圧縮も求められていた「Old Normal」には戻れません。

「自分も感染源となる可能性」をいつも意識におき、これまで以上に「先々を見通した」「シンプルな編成」で

「3密」を避けつつ、「突発的な中断」にも対処できる構えを内外に共有しながら業務を進行していきます。

厚生労働省はHPで『新しい生活様式』の実践例を示し、これを各自が実行して、「自分・周囲・地域」を感染拡大から守ることを呼びかけています。また同HPで「業種ごとの感染拡大予防ガイドラインは関係団体が別途作成」と明記しています。これを受けJACは、まずここに記載されている事項の実施を大前提とし、我々のリアル業務の再開においても「新しい業務様式」を実践・励行していくことを推奨します。

厚生労働省『新しい生活様式』の実践例(抜粋)

(1)一人ひとりの基本的感染対策

(感染防止の3つの基本：①身体的距離の確保、②マスクの着用、③手洗い)

- ☐ 人との間隔は、**できるだけ2m(最低1m)**空ける。 ☐ 会話をする際は、可能な限り**真正面を避ける**。
 - ☐ 外出時や屋内でも会話をするとき、**人との間隔が十分とれない場合、症状がなくてもマスク**を着用する。
ただし、**夏場は、熱中症に十分注意**する。
 - ☐ 家に帰ったらまず**手や顔を洗う**。人混みの多い場所に行った後は、できるだけすぐに着替える、シャワーを浴びる。
 - ☐ **手洗いは30秒程度**かけて**水と石けんで丁寧に**洗う(手指消毒薬の使用も可)。
- ※高齢者や持病のあるような重症化リスクの高い人と会う際には、体調管理をより厳重にする。

移動に関する感染対策

- ☐ 感染が流行している地域からの移動、感染が流行している地域への移動は控える。
- ☐ 発症したときのため、誰とどこで会ったかをメモにする。接触確認アプリの活用も。

(2)日常生活を営む上での基本的な生活様式

- ☐ まめに**手洗い・手指消毒** ☐ 咳エチケットの徹底 ☐ こまめに換気(エアコン併用で室温を28℃以下に)
- ☐ 身体的距離の確保 ☐ 「**3密**」の回避(**密集、密接、密閉**)
- ☐ 一人ひとりの健康状態に応じた運動や食事、禁煙等、適切な生活習慣の理解・実行
- ☐ 毎朝の体温測定、健康チェック。発熱又は風邪の症状がある場合は無理せず自宅で療養



密集回避



密接回避



密閉回避



換気



咳エチケット



手洗い

(3)日常生活の各場面別の生活様式

買い物(抜粋)

- ☐ 通販も利用 ☐ 1人または少人数ですいた時間に ☐ 電子決済の利用

娯楽、スポーツ等(抜粋)

- ☐ 公園はすいた時間、場所を選ぶ ☐ 狭い部屋での長居は無用 ☐ 歌や応援は、十分な距離かオンライン

公共交通機関の利用(抜粋)

- ☐ 会話は控えめに ☐ 混んでいる時間帯は避けて

食事

- ☐ 持ち帰りや出前、デリバリーも ☐ 屋外空間で気持ちよく ☐ 大皿は避けて、料理は個々に
- ☐ 対面ではなく横並びで座ろう ☐ 料理に集中、おしゃべりは控えめに ☐ お酌、グラスやお猪口の回し飲みは避けて

イベント等への参加

- ☐ 接触確認アプリの活用 ☐ 発熱や風邪の症状がある場合は参加しない

(4)働き方の新しいスタイル

- ☐ テレワークやローテーション勤務 ☐ 時差通勤でゆったりと ☐ オフィスはひろびろと
- ☐ 会議はオンライン ☐ 対面での打合せは換気とマスク

前項「02 厚生労働省が示す『実践例』」を我々の制作業務の具体的な場面に適用し「新しい業務様式の実践」を考えると、「リアル」な参集が必要となる業務においては、例えば「下記①～⑤<5つのアクション>」を押さえた「感染予防対策」の実施協力を呼びかけ遵守していくことが必須となります。

【事前】

①「少なくする」 事前に・計画的に「少なくする」、作業時にも適宜「少なくする」



- ☐ リアル参加人数の最少化(絶対数を少なく)
- ☐ 密度の最少化(参加場所を広く／参加時間を分ける)
- ☐ 実施時間・参集時間を少なく

②「判断する」



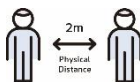
リアル参加の可否を医療従事者(メディック)の協力を得て「判断する」

- ☐ 事前に判断材料を参加予定者から提供していただく
指標：「体調(症状有無)」|「体温(ex.37～37.5℃以上(平熱により異なる))」
「海外滞在歴(直近2週間以内)」|「濃厚接触の可能性(直近2週間以内)」
※「PCR検査」「抗原検査」等の陰性証明も今後は要請に応じて要検討
- ☐ 集合時に検温、視診、問診
指標：「体調(症状有無)」|「体温(ex.37～37.5℃以上(平熱により異なる))」
- ☐ 作業中も定期的(例えば「朝」「午後」「夕方」等)に検温、視診、問診
※作業中に体調不良となった場合は申し出ていただく

【集合時】

【作業時】

③「離す」



「フィジカルディスタンス」を常に念頭におき「離す」

- ☐ 人との距離は常に2m(最低でも1m)以上とする(1名にあたり5m以上)
- ☐ 本番時等、換気ができない状況では、できるだけ離れる
- ☐ 充分に「離す」が難しいければ、必ず↓④「分ける」
- ☐ 集合・解散時刻は公共交通機関の「ラッシュ」に重ならないよう事前から調整しておく

④「分ける」



場所(「別スタジオ」「別室」「屋外(テント、待機用バス...)」等)を「分ける」
設備(「ビニール等の間仕切り」「パーティション(アクリル...)」等)で「分ける」

- ☐ 参加者の役割により基本的な居場所を分け、作業時間も分けて必要人員のみを入替えるなどして進行する
- ☐ 本番時等、換気ができない業務は、入室者と別所待機者を分け、密閉状態での進行は最少人数・最短時間とする

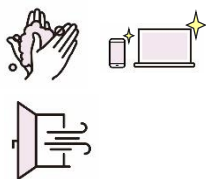


個々の装着品(「マスク」「フェイスシールド」等)で「分ける」

- ☐ 基本的に参加者全員が、常時、清潔な不織布マスクを着用
※小児等、着用が適さない場合は除く
- ☐ 他者との近接(1m以内目安)が必須となる参加者はゴーグルやフェイスシールドも使用
- ☐ 多くのモノを扱う場合は手袋を着用(ただし過信せず頻繁に交換すること)
- ☐ マスク等の装着時でも「咳エチケットを守る」「高唱は避ける」「手で顔に触れない」

※「分ける」ことができない場面(演技・メイク・食事等)では特に要注意
可能な限り対面を避ける|「会話は極力慎む」

⑤「消す」



消毒(体/物)・換気などを実施してウイルス残存リスクを極力「消す」

- ☐ 消毒液(濃度80%前後のアルコール等)を各所に設置
- ☐ 集合時～作業時、各自が頻繁・入念に「手洗い」「手指消毒」を励行
- ☐ 集合前～作業時、各自が頻繁・入念に「物の消毒」を継続する
(スタッフ動線上のよく触れる箇所等→衛生管理部(メディック部)、専門機材・車両→各スタッフ部署、個人携帯・PC等→各自)
- ☐ 人が参集する全ての場所で「換気」を継続的に実施する
(本番以外の作業時は全開、窓がない場合は複数の送風機を使用、移動車両では対角に窓を開ける...)
- ☐ ペーパーレスにする等、極力リアルな「物」の使用は抑える

✓ 全ての現場で「飛沫感染」「接触感染」「エアロゾル感染」に対する予防対策を実施することにより、「感染者」だけでなく、「濃厚接触者」発生の可能性をできるだけ低減するようにします。

*濃厚接触者：「症状のある感染者と症状出現2日前から」「症状のない感染者と検体採取2日前から」「1m程度の距離で」「マスクをせずに」「15分以上会話した」場合などが該当。濃厚接触者と判断された場合、保健所から14日間の健康観察と自宅待機を求められる

*「メディック部」とも呼ばれている

「現場」において感染拡大防止対策を十全に講じるためには、他のスタッフ部署(制作部、撮影部、照明部…)と並列に「*衛生管理部」をおき、独自の専門知識に裏付けられた「判断」を進言できる体制を構築する必要があります。

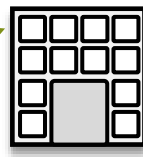
- ※制作業務は(とくにその中心である「撮影」は)元来、様々な役割のスタッフや出演者がリアルに集合しコラボレーションすることで成り立っていた表現＝業務です。
- ※さらには「スタジオ」という閉鎖空間での短期・集中的な制作技術がプロの業としてこれまで発展してきており、各スタッフはこれを職能・習慣として身に付けてきました。
- ※「新しい業務様式」を実践するには、上記のような「確立された従来の習慣」も部分的に変えていかなければならず、そのためには、専門の実務・判断を強力に推進できる「新たなスタッフ部署」が必要になります。

「*衛生管理部」の基本体制

※何れかが「感染予防管理責任者」を担う。

プロデューサー

※案件全体の総責任者

重要事態の場合は
社に仰ぎ最終判断

連携

※何れかのみの
参加でも可

メディック

※看護師など「医療従事者」
が担当

セイフティオフィサー

[感染予防管理担当者]
※メディックのナレッジを習得した
制作会社スタッフ

サポート

サポート

衛生管理PA

※*衛生管理部のアシスタント(制作会社スタッフ)

*衛生管理部

PM



PA

制作部

カメラマン



1st

2nd

撮影部

ライトマン



1st

2nd

照明部

案件の規模に関わらず専任の「*衛生管理部」を起用し、とくに撮影回りの現場ではそのリアル参加を推奨します。

※制作部は「最少人数編成」としながら「制作業務」に専念する必要があり感染予防対策には専念できません

※制作会社スタッフもメディック業務習得に努めますが、当面は専門家の指導の下で安全第一の進行とする必要があります

メディックは、医療従事者の立場で「得意先・出演者・スタッフの参加可否」などの重要判断をし、案件全体の総責任者であるプロデューサーは、「安全第一」の観点からこれを尊重し場合により社に仰いで最終判断をします。

※メディック(医療従事者)が不在の現場では、「セイフティオフィサー」が重要度に応じてメディックにリモートで相談し判断を要請します

※メディックは全体スケジュールや撮影香盤を決定する場合にも専門の観点からアドバイスを求めるべきスタッフです。
企画の段階からフィジビリティ(実現可能性)を共に検討することも有効であり、早い段階での相談を推奨します。

衛生管理部(メディック部)の業務について

衛生管理部(メディック部)は、「①メディック」「②セーフティオフィサー」「③衛生管理PA」3者からなり、独立した専門の制作部署として撮影等の現場に参加し、下記「感染予防関連等業務」を遂行します。

- ・感染予防対策の全体監修、現場指導
- ・検温・体調確認の実施、専門の立場からの「参加可否判断」進言
- ・体調不良者が発生した場合の応急対応（新型コロナウイルスに限らず、熱中症、けがなど）
- ・必要に応じた病院の手配
- ・現場に「メディックゲート」を設置し、医療的な対応センターとしてその運用を担う
- ・「救急キット（各種体温計、計測器、応急救急用具など）」の準備
- ・「感染予防キット（各種消毒液、マスク、フェイスシールド(orゴーグル)、手袋など）」の準備
- ・「各種注意喚起ポスター」などの準備、手配、現場各所・各スタッフへの配備
- ・現場「消毒」「換気」の作業事前および作業中の継続的な実施・指導
- ・感染予防実施促進・スタッフへの指導
- ・特に、飲みカット・食べカットなどがある場合の手順・感染予防指導

※ スタッフ5～60名につき、例えば、メディック：1名、衛生管理PA：1～2名が参加

①メディック

- ・看護師など医療従事者の資格を持つスタッフ。
- ・専門の知見をもって、必要に応じ企画段階から制作業務の設計に参画して感染予防策の全体を監修する。
- ・撮影等の「リアル参集」を伴う制作業務にも参加して直接指導を行う。
- ・医療面からの参加可否判断を担い、セーフティオフィサーに報告しプロデューサーに進言する。

②セーフティオフィサー

- ・制作会社の感染予防管理担当者。
- ・制作会社内の研修受講等により「感染予防管理業務」を遂行できるようトレーニングされ、医療従事者でないと実施不可の業務(問診や応急治療等)を除きメディック同様の役割を担う。
- ・医療面からの参加可否判断はできないが、メディックから受けた判断(リモートの場合もある)を尊重してプロデューサーに進言する。

※制作会社個々の感染予防対策についての考え方や、案件の規模により、「①メディック」、「②セーフティオフィサー」何れかのみ参加となることもある。

③衛生管理PA

- ・「衛生管理プロダクションアシスタント」。制作会社スタッフ。
- ・「①メディック」、「②セーフティオフィサー」のアシスタントとして撮影等の現場に参加し、専任で衛生管理部業務を担う。

※「衛生管理者」は国家資格名なので、この言い方は役職名に使用しません

受注時には、当面は下記のリスクが払拭しきれない「条件付制作業務」となることを得意先と共有する必要があります。

◎プロデューサーは「可能な限り早い段階」から企画に参加できるよう、広告会社の方に依頼を行ってください。

① 感染者発生リスク

新型コロナウイルス感染防止対策をすべての現場で徹底しますが、無症状の感染者の特定は困難であり、感染者発生リスクはゼロにはできません。また、多人数が参加する現場ではクラスター感染の発生リスクの可能性も排除できません。

感染対策実施により問題発生の確率を低減できますが、ゼロにはできません。

② 制作業務中断リスク

制作業務における使用施設の突然の封鎖、主要スタッフの感染などのやむを得ない突発的な要因により、撮影などの制作業務を、実施直前含め、中断せざるを得なくなるリスクがあります。

- ・突発的な中断が起きた場合は、納期、予算額などに影響を及ぼす可能性があります。
- ・このリスク回避のため予備的な「スタッフ」「出演者」「施設」などをダブルスタンバイする場合、予算額などに影響を及ぼす可能性があります。

ダブルスタンバイによりリスク軽減はできますが、飽くまで次善策です。

また、全てを二重三重に手配することは現実的ではなく、リスクはゼロになりません。

③ 風評リスク

- ・成果物の表現内容や設定によっては風評被害を招くリスクがあります。これは企画の段階で回避しておくことが望まれます。（次ページ「06 企画」で詳述）
- ・人目につく屋外撮影はもちろん、屋内において、たとえ最少人数での実施であっても「撮影を行っていること自体」が内容・状況によってはネガティブな風評となる可能性があります。
- ・万が一、タレント出演の撮影現場からタレント自身の感染やクラスターの発生などが起きてしまった場合は、広告主や得意先の撮影として報道されてしまう可能性があります。
- ・さらに屋外撮影の場合、関係者以外によるSNS等への書込みなどが起こる可能性も考えられます。撮影本番中だけでなく、ロケハン・ロケの移動/食事/宿泊時でも風評リスクには注意が必要です。
- ・一般的に各業界での感染予防対策の具体的なイメージが既に浸透しており、外部だけでなく出演者、スタッフ、様々な施設・機材提供社も意識的になっています。こうした現状では、「十分な感染予防対策を実施していないこと」自体が風評リスクを招くことも考えられます。

企画や設定の選択などにより、表現上の問題発生の可能性は事前にある程度回避できると考えられますが、感染者発生の結果としての実施上の風評リスクは①同様ゼロにはできません。

企画においては「風評リスク」「感染リスク」を考慮したフィジビリティ(実現可能性)の検証が重要課題となります。

● 企画

企画フェーズの業務は、打合せだけでなく、コンテライター/マッカー/Vコン(編集・Na録等)の業務も、社内外スタッフ共にリモートとし、データチェックでの進行に努めます。

企画フィジビリティ(実現可能性)の変化

「どのような条件でどうイメージが実現できるのか」の標準的な類型は、得意先、営業担当、CD、プランナー、プロデューサー、ディレクター等の間である程度「常識」として蓄積されてきましたが、withコロナではこれが変わります。こうした事件的な現実が我々の業界に生じていることに目を向け、十分に意識的にならなければなりません。

【風評リスク回避への配慮(表現面)】

日々変化する社会情勢から「多くの方が不安・不快と感じる表現」を見極め、要配慮とすべきを検討していく。

企画時、撮影時よりも「OA時点で状況が悪化している可能性」を想定して検討・協議する。

✓ 例えは下記表現・企画には要注意。

- ☐ 祝福表現 ex「お祝します!」「おめでとう!」など
- ☐ 人目につきやすいロケを伴う企画 ※個々のロケ地に特有の環境や近隣への配慮含め実現可能か要検討

✓ 下記は早い段階でメディックによる監修および、場合により出演予定者の理解が必要。

別撮り・合成等リスク回避策や感染対策が重くなる可能性が高い。

- ☐ 宴席・集会・人混み表現 ex.飲み会、居酒屋、BBQ、スーパー、行列など
- ☐ 飛沫拡散表現 ex.歌唱・合唱、合唱の応酬、エール交歓、近接した会話・対談など
- ☐ 営業規制対象ロケーション ex.海の家、居酒屋、スポーツジム、ライブハウス、カラオケ店など
※規制解除後も「3密」に見える表現は避ける
- ☐ 同時同所の2名以上の『密』な共存 ex.2m離れていない、画面割になっていない など
- ☐ 顔などに触れる表現、口に入れる表現 ex.食べカット、飲みカット、メイクシーンなど
- ☐ 2名以上の接触表現 ex.握手、ハグ、肩を組む など
- ☐ 出演者、エキストラの多数のリアル参加を要する企画
- ☐ 高齢/基礎疾患を持つ人/妊娠中の人が出演者でのリアル参加を要する企画
- ☐ リアル地方出張、海外出張、地方・海外からの移動・招聘などを伴う企画
- ☐ ネコ科やイヌ科の動物は感染リスクがあるとされているので要注意

【風評リスク回避への配慮(実施面)】

上記の表現の大半が、実施時の万全な感染予防対策またはリスク回避手法の選択が必須となるものだが、対策や回避を怠ると「無理を押し付けて実施したこと」自体が風評リスクに繋がることに留意する。

【感染者発生リスク回避への配慮】

企画時に従来の考えで「なんとかなるだろう」「できるだけ」と判断せず、実施面からもよく検討することが重要。

- ☐ 例えは従来以上に「そのまま一発撮りで撮影できない」ケースは増加する
ex. 場合により「単純な会話シーン」ですら別撮り・合成の必要が生じることも意識して企画を進める
- ☐ 「感染者発生リスク」の高い企画ほど、合成作業や感染対策が重くなり、「人・場所・時間」がより多くかかることに企画時は意識的になる必要がある
- ☐ どの程度の感染対策が必要となるか、ラフな方向性のみの提示しかない企画段階からでもメディックに相談し、「企画の手戻り」「実施時の紛糾」を招かないように予防しておくことも有効
- ☐ 大人数の企画は避け、関係者総数を抑えることも有効 (JAC「再開STEP1」推奨撮影参加のべ人数: ~100名/1日)

● 実施可能性の検討ミーティング

企画受注時やプレゼン前には、企画方針やプレゼンする企画の決定に向けた詳細な「企画方針策定打合せ」《フィジビリティミーティング》を実施して、従来無かった上記のリスクも考慮したフィジビリティ(実現可能性)の検討を充分に時間をとって行うことが必須となる。 ※巻末資料「(4)仕様書」を企画段階から活用する

- ☐ 企画内容によっては、beforeコロナ制作の1.2~1.3倍以上の予算・スケジュールになるとも考えられているwithコロナ制作での実施規模を、企画段階から与えられた規模の範囲に収めていくための重要会議であり、実施を推奨する
→ex.リモート撮影、既存素材、CG、合成等を活用し、主にリモートで実施が可能な企画とすることも検討する
- ☐ とくに低予算案件では不可欠・基本レベルの感染予防対策実施でも、企画フィジビリティに影響大となることに注意
→ex.「撮影でもリアル集合での業務を極力最小化する」「1回のリアル集合機会での『まとめ撮り』も検討する」

● プレゼンテーション 基本的にリモートでの実施とするよう努める。

- ☐ リモートの方法などに広告主の「ルール」「方針」があるか確認し、ある場合は広告会社担当者と相談の上、可能な限り尊重・対応して実施する

スケジュールは、制作設計の時間や感染対策も考慮し、従来より充分な余裕をもって組むようにします。
従来のように突然の特急要請などに柔軟に対応をすることは難しくなると考えられます。
事前に制作方針・仕様を握り、しっかりと見通しを立てて進行することが、これまで以上に重要になります。
※「withコロナ」は「新取引」のワークフローへの移行を加速します。

beforeコロナ (全てリアル作業)

企画フェーズ	企画受注 企画打合せ コンテ発注 プレゼン準備 企画案仕様・見積額検討 プレゼン ↓ 企画決定
--------	--



withコロナ (可能な限りリモート作業を推奨)

企画フェーズ	企画受注＝企画オリエン、方針検討 「企画方針策定打合せ(フィジビリティミーティング)」→企画方針確定 [ex. +1日] 企画打合せ 企画案仕様・見積額検討 コンテ発注 プレゼン準備 [ex. +1日] 企画案仕様・見積額検討 プレゼン↓ 企画決定
--------	--

[ex. +2日～]

制作フェーズ	制作受注 リサーチ 演出コンテ発注 演出コンテ上り→演出コンテ確定 スタッフティング 各種打合せ ロケハン オーディション オールスタッフ打合せ フィッティング PPM準備→リスクマネジメント会議 PPM PPM要望事項検討・実施反映 撮影準備 建込 前日ライティング、リハーサル 撮影 オフライン編集、Dir.、担当者チェック オフライン編集、広告主チェック 仮編試写(リアル) グレーディング、Dir.、担当者チェック オンライン編集、Dir.、担当者チェック オンライン編集、MA、広告主チェック 初号試写
--------	---



制作フェーズ	制作受注＝制作オリエン、方針検討 リサーチ、制作方針作成 「制作方針策定打合せ(キックオフミーティング)」→制作方針確定 [ex. +1日] 演出コンテ発注 演出コンテ上り 「制作方針策定打合せ(キックオフミーティング)」、スタッフティング検討 [ex. +1日] 演出コンテ確定、スタッフティング確定 各種打合せ [ex. +1日] ロケハン オーディション [ex. +1日] オールスタッフ打合せ フィッティング PPM準備→コロナ対策検討会議 PPM[撮影5営業日以上前に実施] [ex. +4日] PPM要望事項検討・実施反映 撮影準備 建込 前日ライティング、リハーサル [ex. +0.5日] 撮影 [ex. +0.5日] オフライン編集方針打合せ→確定 オフライン編集、Dir.チェック→担当者チェック(ファイル送りorリモート) [ex. +0.5日] オフライン編集、広告主チェック(ファイル送りorリモート) 仮編試写(ファイル送りorリモート) 仕上げ方針詳細打合せ→確定 グレーディング、Dir.チェック→担当者チェック(ファイル送りorリモート) オンライン編集、Dir.チェック→担当者チェック(ファイル送りorリモート) [ex. +0.5日] オンライン編集、MA、広告主チェック(ファイル送りorリモート) 初号試写(ファイル送りorリモート)
--------	---

[ex. +1～2週間]

搬入フェーズ	OA原版(HDCAM-SRテープ)作成 OA原版納品→検収完了 MXF作成[搬入事業者] MXFアップロード、メタ登録[搬入事業者] 放送局搬入[搬入事業者] (OA)
--------	---



搬入フェーズ	OA原版(ProRes422HQ)作成 OA原版アップロード納品→検収完了 MXF作成[搬入事業者] MXFアップロード、メタ登録[搬入事業者] 放送局搬入[搬入事業者] (OA)
--------	---

[ex. 場合により+1日～]

すべての工程において感染リスクを回避ワークフロー(リモート業務化/大人数作業回避/対策関連時間増)とするため、必要な日数・時間が従来よりも増加する可能性があります。

まず、「制作部」「衛生管理部スタッフ」の体制を調整・確立します。

- ☐ 衛生管理部スタッフ(外注メディックまたは社内専任者)を原則として必ずスタッフィングする
- ☐ 万一、制作部自体に感染もしくは感染の疑いが生じた場合でも、速やかに別チームで対応できるよう、事前に社内で調整しておく

リアル参集が必要な外注スタッフへは、「問合せ」の時点で感染予防対策に協力していただくことを確認します。

- ☐ 例えば下記のような「お願い」を業務依頼時にメール等で送付し、事前に同意をいただく
- ☐ スタッフとの資料の紙でのやり取りは上記「お願い」も含め感染防止対策上極力避け、原則データで行う

協力会社およびスタッフの皆様

2020年7月XX日

株式会社〇〇〇〇

新型コロナウイルス対策に関するご協力をお願い

当社（以下「〇〇〇〇」）の作業（以下「本件作業」という）へのご参加にあたり、〇〇〇〇の新型コロナウイルス感染拡大防止策に関し、下記についてご理解・ご協力をいただきたく、お願い申し上げます。

- 本件作業において、マスク着用、国が推奨する方法での手洗い・手指の消毒など 〇〇〇〇が求める新型コロナウィルス感染拡大防止策へのご協力をお願いします。
- 〇〇〇〇が、本件作業時にご提示いただいた個人情報（本件作業時に行われる体調チェックでの健康情報を含む）を、本件作業の実施・運営および新型コロナウイルス感染拡大防止策を目的として、必要な範囲に限り利用することに同意ください。
- 本件作業において、〇〇〇〇が新型コロナウイルス感染拡大防止策および社会情勢に考慮してご参加される方の活動や表現の制限を依頼した場合には、これに協力ください。
- ご参加いただく方、またはその同居人の方に過去 2 週間以内の感染を疑わせる体調不良や海外渡航歴がある、または感染の疑いがある方との濃厚接触が発生した場合、速やかに申し出てください。〇〇〇〇は、その申し出により、本件作業への不参加などを指示させていただくことがあります。その場合はこれにご協力ください。
- 基礎疾患（特に呼吸器系の疾患）をお持ちの方は、本件作業参加前にお申し出ください。
- 本件作業集合時、〇〇〇〇が検温を含む体調の確認をお願いする場合には、これにご協力ください。検温で 37～37.5℃以上（平熱により異なる）の発熱や感染を疑わせる体調不良（頻回な咳き込み、頻回や長時間続く息苦し、倦怠感、味覚異常、湿疹等の皮膚症状など）が判断される場合は、速やかなご帰宅をお願いしますが、これにご協力ください。 + 嗅覚異常
- 本件作業中に、37～37.5℃以上（平熱により異なる）の発熱が発覚した場合、作業へのご参加を中断し、速やかに感染予防管理責任者を兼務する〇〇〇〇プロデューサー（以下「〇〇〇〇プロデューサー」という）にご報告ください。
- 本件作業中に、6.に記載された感染を疑わせる症状を自覚された場合、速やかに〇〇〇〇プロデューサーにご報告ください。また、これにより、〇〇〇〇プロデューサーから本件作業への不参加などの指示をさせていただくことがあります。その場合はこれにご協力ください。
- 機材・車輛・小道具など本件作業に参加者ご自身が持ち込む物品の衛生管理（消毒など）は、自らの責任で行っていただくようお願いします。
- 本件作業後 2 週間以内に、新型コロナウイルスの感染を疑わせる症状が発症したとき、または感染が判明したときには、速やかにご自身が所属する会社および/または〇〇〇〇プロデューサーにご報告ください。
- 広告主・広告会社・制作会社および関連協力会社など、上記すべての感染防止策を遵守する必要最小限の人員が、本件作業に参加することにご同意ください。また、上記の通り、できる限りの感染防止策を徹底した上でも、新型コロナウイルス感染のリスクがゼロではないことを理解した上で、本件作業にご参加いただくようお願いします。

なお、本件作業へのご参加をもって、〇〇〇〇はご参加された方が上記に同意いただいたものとみなしますことをご了承ください。

以上

【個人情報の取扱いについて】
本同意書および本件作業時に提出いただいた個人情報は個人情報保護方針に基づき安全かつ適切に管理し、本件作業の実施・運営および新型コロナウイルス感染拡大防止策のために利用いたします。当該個人情報、貴社の同意を得ずに第三者へ提供することはありません。ただし、法令に基づき開示義務があった場合、または違法行為があった場合などの特別の理由がある場合は除きます。（株式会社〇〇〇〇）

09-01 打合せ

企画時・制作事前の「方針策定打合せ」は必ず実施

企画と制作のフィジビリティ事前確認は必須工程です。

基本はリモート実施

各種打合せ(プレゼン/PPM/試写含む)は可能な限り全てリモートで実施します。

- 「オンライン会議システム」「ファイル送り」を有効に使い分け、必要に応じ「リアル資料送り」も含め実施
- 参加スタッフ各自が事前に、打合せで決めるべき「ポイント」「選択肢の絞り込み」をよく考えて臨み、全員の努力において極力無理・無駄を省き短時間で効率的に実施(「リアル参集」も同様)

止むを得ずリアルに参集して「打合せ」を実施する場合

下記「基本対策」(「03 リアル参集業務<5つのアクション>」の要約)を必ず励行して実施します。

《基本対策》5つのアクション

- ①「少なくする」：参加人数・実施時間を極力最小化、広い部屋で密度を最小化
- ②「判断する」：検温・体調報告(事前&実施中)、その他感染可能性の報告に基づき参加可否判断
- ③「離す」：参加時はフィジカルディスタンス(2m以上)確保、移動時もラッシュを回避
- ④「分ける」：マスク着用義務化、密接時は「フェイスシールド/ゴーグル」、場合により「間仕切り」「別室」も活用
- ⑤「消す」：「手洗い」「手指・設備消毒」「換気(開放&送風)」を頻繁に実施、「ペーパーレス」「高唱回避」徹底

対策詳細例

①「少なくする」

- 得意先○人迄、主催者○人迄とするなど、予め基準を定めておく
- 会議室の定員を決めておき、事前に伝えておく(定員以上の椅子は予め撤去しておくことも有効)
- ex.「部屋の面積(テーブル等設置部除く)×0.3(作業バツァ)÷1名あたりの専有面積(4~5㎡)÷定員」とする
- 特に主体となるスタッフのみリアル参加とし、リモート参加スタッフと組み合わせる
- 場合によりスタッフ入替・時間差業務も検討する
- 最少時間にするため、時間厳守を確認し、打合せ内容を絞り迅速に進行する

②「判断する」

- 参加可否判断指標(基本)は「体調」「体温」「*海外滞在歴」「*濃厚接触の可能性」(*直近2週間以内) …「体調チェックシート(巻末資料(5))」を事前送付→前日中に記載・返信→当日参加時に再チェック
- 打合せ時間が長くなることが不可避の場合は、参加中に体調・体温に変化がないか再チェック
- 「判断指標」に対し「感染が疑わしい」参加予定者(参加者)は「参加しない(参加中断)」判断とすることが基本
- 実施事前に「感染が疑わしい」参加予定者が発生し、そのリアル参加が必須である場合は、メディックに相談し「(保健所未認定でも)PCR検査等」で「疑わしさ」を払拭して「参加」の判断を検討する場合も考えられる(ただし、明らかに健常で「疑わしくない」参加予定者に「PCR検査等」を課すことは効果的ではなく推奨しない)
- 多数参加が不可避の場合、簡易なメディックゲート(「13-3」参照)を設け、体調チェックを徹底することも検討
- 自社内での社員体調チェックルール(毎日検温・報告)、外来者入館ルール(自動検温機設置等)も検討する

③「離す」

- 座席を2m以上離し、正面着席は避ける等、十分なフィジカルディスタンスを確保する
- 集合・解散時間が公共交通機関の混雑時間帯と重なることはできるだけ避ける

④「分ける」

- 一時的に「密接」が不可避の場合はマスクに加え「フェイスシールド/ゴーグル/手袋」等を着用
※「密接していない状況でのフェイスシールド着用など、必要以上の装着はやめる
- 必要に応じ透明アクリル板等の「間仕切り」を活用し、別室に分けての進行も検討する

⑤「消す」

- 直近3日以内に使用があった室内は、必ず打合せ前に消毒する(デスク、椅子、床面、ドアノブ..)
- 参加者は「PC/携帯等を消毒」「手洗い」した上で業務を開始、手指、物品の消毒液は用意しておく
- 可能な限り大型モニター出力やデータ共有によりペーパーレスの進行とする(ペンや紙の共用・使い回ししない)
- 必要以上の発言や高唱は可能な限り避ける
- 扉・窓は極力開放、扇風機を屋外に向け換気を徹底、常時開放できない場合でも20分に1度は換気を励行する(エアコンは飛沫を拡散するので、エアコン使用時でも同様の換気が必要)
- 自社の洗面所用ハンドソープ・ペーパータオル等の設備、トイレ清掃ルールの充実も検討する

目的と
ポイント

業務再開

前提

アクション
5つの

衛生管理
部の創設

受注

企画
～
プレゼン

スケ
ジュール

スタッ
フ
イン
グ

打
合
せ
01

キャ
ス
テ
ィ
ン
グ

ロー
ケー
ション

P
P
M

撮
影

ポ
ス
タ
ー
シ
ョ
ン

サ
ポ
ー
ト
搬
入

見
積

09-02 打合せ

打合せに伴う「移動」「食事」についての注意点

「移動」は打合せ場所への往復のみとし、「食事」は可能な限り提供しない進行とすることが原則です

打合せに伴う「移動」 ※「ロケハン/ロケ」に伴う「移動」については「11-03」を参照

- 鉄道やバスなどの公共交通機関が混雑する時間帯を避けられるよう配慮する
- 公共交通機関を利用する際は、参加者各自がマスクを着用し、可能ならば窓を開けるようにする
- 感染リスク軽減の観点で、参加者がタクシー、社用車、自家用車、自転車等を利用することについては、各社規程と照らして費用や事故リスク(使用者個々の自己責任とできるか等)の面からも検討し、可能な範囲で利用する
- 「相乗り」を避ける観点から、個々が自車を使用することもあり得るが、上記同様の問題認識において各社で検討する(何らかの必要で「相乗り」となる場合は、フィジカルディスタンスを確保の上、マスクを着用し、窓を開け換気を行う)

打合せに伴い「食事」を提供する場合 ※「ロケハン/ロケ」「撮影」に伴う「食事」については「11-04」「13-07」を参照

「食事中」はマスクを外すことにより(飛沫の発散/吸引・付着)が不可避となるため「感染リスク」が高まります。また、感染者と同席した場合は、感染しなくても「濃厚接触者」となる可能性が高まるため、特に注意が必要です。

《食事提供時の基本原則》

- ・できるだけ「単独」環境で、「手洗い後」「個別・密閉性の高い弁当提供」が原則、「飲食店での提供(外食)は避ける」
- ・複数名同席の場合は、「手洗い後」「個別・密閉性の高い弁当提供」「飲食店での提供(外食)は避ける」だけでなく、「可能な限り広く風通しの良い場所で」「最少人数」「最短時間」「対面しない」「2m離れる」「会話は控える」「食事以外のことはしない(携帯にも触らない)」

提供する場合の方法

- 「飲料/菓子」「食事(弁当等)」は、「感染予防管理責任者」の下で「衛生管理PA」が管理・提供するのが原則
- ・提供方法【例1】 衛生管理PAが手袋(新品)をして一人一人に手渡す
- ・提供方法【例2】 衛生管理PAが手袋(新品)をして「飲料/菓子」を間隔を開けて並べ、スタッフは手指消毒の上1m以上離れて選択、衛生管理PAがチェックできる状況で自ら取ってもらう(要手指消毒等、提供手順を示すを貼紙も掲示しておく)
- ※衛生管理PAは、飲料/食品保管用の冷蔵庫やクーラーBOX等がある場合には、30分～1時間毎に消毒する
- 弁当種類選択の為の「サンプル」として「現物の蓋を開けて提示」することはやめ、写真サンプルデータで事前に選んでもらう
- 一度提供された(取った)ものは、決して戻さない

飲料/菓子

- 「飲料」は水筒等での各自持参が望ましいが、各自管理可能なもの(500ml以下のペットボトル等)に限り必要に応じ提供
- 誤って他者のペットボトルを口にしないよう記名を義務化し提供後は各自で管理してもらう
- 蓋のできない缶飲料や、お茶場やコーヒーのポットサービスからの(紙)コップ提供は避ける
- 「飲料/菓子」等の差し入れは基本的に「受けない」ことを関係者に予め共有しておく
- 「菓子(つなぎ的な軽食を含む)」の提供は基本的に行わないが、例えば熱中症対策のサプリメント用途等、必要性が明確な場合のみ、個包装のもの(1回で完食できるサイズ)を「衛生管理PA」が管理して提供する

食事(弁当・出前)

- 飲食前の手洗いを必須とし、食事直前には手洗い場所をアナウンスする等して徹底する
- 食事用のテーブルは使用前に消毒、テーブル毎に消毒液を配備、食後は各自が消毒するよう依頼する
- PC・携帯等、食事と無関係なものは可能な限り食事スペースに持ち込まないようにする
- 接触感染・飛沫感染リスクのあるケータリングスタイルは禁止
- 蓋なしの出前や大皿料理は提供しない、弁当の蓋を開けたままで放置することは厳禁
- 箸、フォーク、スプーン、調味料は個別包装されているものを用意、共用の調味料は使用しない
- 時間差(昼休憩を複数回設ける等)や場所を分け(従来よりテーブルを多く用意/パーティションで区切る/スペースごとに制限人数を決めておく等)、食事をする人の数を分散して少なくする
- 複数名同席の場合は、対面して食事をするのを避け、横並びで2mのフィジカルディスタンスを保つ
- 食事に集中し可能な限り短時間で済ませる(例えば15分を超えると万一の場合「濃厚接触者」となる可能性が高まる)
- 弁当ゴムの分別作業は感染リスクがあるので必要以上の分別は不要とし、弁当ゴミはできるだけ一つにまとめて処理する

食事(外食)

- 飲食店での食事提供(外食)は、関係者外からの感染リスクも増す為「回避」が原則
- どうしても「外食」となる場合は「ステッカーがある対策店舗」で、「弁当・出前」同様に自衛的に対策しながら提供する

※喫茶/会食について

- 喫茶しながらの打合せは「マスク無で長時間「意見交換」する」ことがそもそも不可避となる行為であり、当面は実施不可
- 打合せ・営業目的等の外食(マスク無・長時間のコミュニケーション)も当面は実施不可→必要に応じリモート会食を検討

※喫煙について

- 喫煙所(喫煙エリア)は、通気性・換気性の高い場所のみ使用可とし、人数制限を設けて密集しないよう配慮する
- 複数名での喫煙は、対面せず横並びを励行し、マスクを外した状態となる為、私語は慎む

目的と
ポイント

業務再開

前提

アクション
5つの

衛生管理
部の創設

受注

企画
～
プレゼン

スケジ
ュール

スタッフ
インテ

打合せ
02

キャス
ティング

ロケ
ション

P
P
M

撮影

ポスト
シヨク

サポー
ト
搬入

見積

オーディションは極力リモートで行います。フィッティングも可能な限りリモートを試み、リアルの場合は撮影当日を推奨。

● オーディション

基本はリモート実施

キャストینگ会社・モデル事務所にリモート、感染予防対策への協力をお願いする。

- (1)既存の写真・映像資料を従来以上に充実・活用して、候補者を最少限に絞り込む
- (2)可能なキャストは、リモートツールや自撮り活用した遠隔オーディションを行う
- (1)(2)で判断がつかない場合に限り、最少人数のキャストのみコールし、感染予防対策のもと最小規模で実施する

止むを得ずリアルに参集して「オーディション」を実施する場合

「09-01」の《基本対策》を必ず励行し、同じく「09-01」の「対応詳細例」に準じて実施します。

※可能な限り、「換気のできる広いスペース」を会場とするようにします。

追加注意事項例（□：「フィッティング」と共通）

- 高齢/基礎疾患を持つ人/妊娠中の人の出演参加は極力避ける
 - ※(社)日本モデルエージェンシー協会HP(URL : <https://www.j-m-a-a.com/>)も参照
- 最少限のオーディション実施者(制作又はキャストینگ担当者1～2名)のみで行い、接触を最小にする
- 得意先のリアル参加なしでの実施を基本とし、どうしても同時確認が必要な場合はリモート参加を推奨する
- 制作会社社内で行う場合は、スペースの規模に応じ例えば「1会議室に同時滞在〇名以内」と決めて進行する
- 参加者に対し短時間の滞在を徹底するため(混雑時間帯を避けた上で)到着時間厳守を確認しておく
- 参加者が待機室で複数滞留しないよう、コール時間を細かく区切り滞在時間が最短となるようタイムスケジュールを組む
- 参加者への体調確認(事前・当日)・参加可否判断は「09-01」の「対応詳細例②」に準じて実施
- 待機室も広いスペースを用意し、「2m以上離す」「パーティション活用」「待機中はマスク着用」「会話禁止」等を徹底する
- オーディション収録時はマスクを外す為、人物間に透明パーティション(アクリルorビニール、頭頂部より10cm以上)を設置する等して感染予防を、参加者交代の都度、必ず消毒をする
- 参加者に不用意に接触をしないよう、充分注意・配慮する
- 飲料等の提供はしない
- オーディションシートは現場で記入せず、事前にメールで送ってもらう
- 室内各所の事前消毒だけでなく、小道具を使用する場合はその都度消毒をする
- 待機室では各自携帯等を消毒できるよう消毒液を配備、また、回し読みのリスク排除のため雑誌・新聞等は配備しない
- 資料は出来る限り情報セキュリティも配慮してデータで共有、或いは待機室等に掲出し、紙資料共有は極力行わない
- 会場だけでなく待機室の扉と窓は極力開放し、換気を徹底する
- 得意先への確認は、基本的に事後取りまとめた資料を送りリモートで行う

選んだキャスト（特にメインキャスト、高齢の人・基礎疾患を持つ人・妊娠中の人）に「感染」又は「感染の疑い」が発生するリスクを考慮し、2ndキャストを選び撮影当日まで残す判断について、得意先とコストも含め協議・検討する。

- 「決定キャスト」「2ndキャスト」には、スタッフ同様「08」の「お願い」をメール等で送付し、事前に同意をいただく

● フィッティング

可能な限り事前リモート、リアルの場合は撮影当日を推奨

- 衣装等は資料で極力2～3点まで絞り込み→「事前リモートフィッティングで決定」or「撮影当日フィッティングで決定」

止むを得ず事前にリアル参集して「フィッティング」を実施する場合

最少人数・最少時間となるよう心がけ、「オーディション」同様「09-01」に準じて実施します。

追加注意事項例（上記「オーディション」の「□」にも注意）

- サイズ表を早期に提出してもらったり、Dir.と事前に確認を行う等、予めフィッティング時間の短縮に努める
- 出演者本人、事務所関係者(最少人数を相談)、スタイリスト(場合によりH&M)、制作部(1～2名)のみでの実施を推奨
- 衣装室や待機室等、作業スペースを可能な限り分けて、人が滞留しない環境をつくる
- 出演者の方がマスクを外す際は、「2m以上離れる」「パーティション活用」「全員マスク着用」「必要のない会話は控える」等を徹底し、最大限の注意を払う
- スタイリスト(場合によりH&M)には、必要に応じ、マスク・フェイスシールド(orゴーグル)・手袋の着用を依頼する
- ボウロイド含めリアルな出力等は極力使用せず、可能な限りデータでイメージ共有を行う
- 食事・菓子類の提供は控え、飲料は個別管理できる500mlペットボトル等に限り提供しラベリング等で識別可能にする
- 可能であれば撮影の3日以上前に行い、衣装類は本番当日まで触らない環境におき、本番時の消毒等の手間を省く

●スタジオ含む撮影ロケーション選定ポイント

スタジオ/ロケに関わらず、選定ポイントは「広さ」と「換気」

衛生管理部(メディック)と事前に相談し「充分な感染予防対策が実施可能であることを判断条件として選定。
＝「スタッフが密にならないスペースの確保」「換気状態の維持」が充分可能な場所に限ること。

「撮影スタジオ/ロケ共通」選定ポイント

【空間的バッファ】は確保可能か

- 美術セット等「撮影スペース」を除く「人が動くスペース」で、スタッフが密にならない十分な広さが確保できるか
ex. 「人が動くスペースの面積(セット部分除く) × 0.3(作業バッファ) ÷ 1名あたりの専有面積(4～5㎡)＝定員」
- 撮影スペース以外にも「スタッフの待機場所」「食事スペース」「手洗い場所」「メディックゲート」等の場所を確保できるか
ex. 撮影スタジオでも「別スタジオ」「ストックルーム」「控室」「屋外テント」「駐車スペース」等、余裕のある複数スペースが必要

【時間的バッファ】は確保可能か

- 照明や美術等の準備日として余裕のある日程を確保できるか(撮影当日に作業にあたる人数を減らす等の為)
- スタッフ入替の時間的段取りを考慮した余裕のあるタイムスケジュールが確保できるか
ex. 「1日20名以下(1日)」「同時・同所に5名以下」等、場所により目安を決めておき、スタッフ入替・時間差業務として作業

【換気状態】は維持可能か

- 「スタジオ大扉/ドア/窓を常時開放」「2方向換気」が可能か、また、換気が出るタイプのエアコンか
- 換気の為開放にする際、情報セキュリティ面での問題は生じないか(リスクがあれば得意先と協議・検討)

【その他要確認事項】

- ロケーション管理者が、必要な衛生管理を行っているか
- 「使用前中後の各所設備、備品、トイレ等の消毒」「消毒用品の準備」等、撮影スタジオ/ロケーションと役割分担可能か
- ロケ場所の中止条件(感染者発生等による直前キャンセル等)の確認、バックアップ撮影ロケーション・施設の確保は可能か
- 熱中症対策が必要となる環境・業務とならないか

「ロケーション」選定ポイント

- ロケ地の環境が、近隣への配慮を含め本当に実施可能であるか、「フィジビリティ」を十分に検討・確認する
- 一般の人に開放せずシャットアウトできる「クローズドな環境」を極力選択
- クローズドにできない場合、「近隣に住居や店舗等がない」「人通りが少ない」「人の出入りを制限できる」場所を極力選択
- 不特定多数の人が近接する場所は風評リスクだけでなく感染リスクも高まる為、基本的には選択回避が望ましい
- クローズドにできない場合は「特に要配慮であり、場合により風評リスク発生が懸念されること」を得意先に事前共有する
ex. 「群衆ができる」「批判の声があがる」「逆に被写体とされネットにUPされてしまう」等
- 事前の条件確認に関わらず、決定後に許可がもらえなくなる場合も想定し、バックアップロケーションも検討しておく
ex. 「感染が拡大し状況が悪化した」「想定よりロケ地近隣から撮影へのクレームが増える状況になった」等
- ロケ地近隣や通行される方々と本番時にトラブルになる等、中断・中止になる可能性が本当でないか、対応できるか、状況変化も踏まえ、最悪の可能性も想定の上選択する
- ロケーション独自の感染対策ルールや使用中止ルール(得意先敷地の場合は得意先ルール)がないか、要確認
→ある場合は「対応可能か」「スケジュールや予算に影響がないか」、得意先含めて協議・検討する
※事前にPCR検査等の陰性証明を求められる可能性も想定する(検査～判定迄は「接触不可」のスタッフ拘束期間となる)
- ロケ地施設全体を事前消毒する必要があるかどうか(施設側・制作側どちらが行うのか等含め)検討・メディックと検討する
※3日間以上「使用無し」「人の出入り無し」のロケーションは「基本的に消毒の必要は無い」ことを念頭に検討
- 従来より関係車両の台数が増える想定でも、駐車スペースは十分に確保できるか
- 特にハウススタジオや屋内ロケセットでは、スタッフが密にならない十分な広さが確保でき、かつ換気を考慮した場所を選定
※狭いハウススタジオ等の屋内ロケーションで「密集や換気不良」が想定される場合は、基本的には選択回避が望ましい
どうしても実施する場合、「十分なスペースを確保することを前提に、参加人数を厳格に制限して行う必要があること」
また、「参加者の手指に触れる物が多くなる為、より厳重な消毒等の衛生管理を行う必要があること」も考慮して判断

【地方ロケーション、海外ロケーションの可能性について】

- 「地方ロケーション」は、政府や各自自治体の状況に従い、極力小規模での実施可能性を検討
※感染拡大中の大都市から地方への移動は、風評リスクの観点からも現状では特に要注意であり、極力回避する
- 公共交通機関の利用や長時間の車両移動等、移動時の感染・風評リスク、対策も充分検討して実施可否を判断
- 地方/海外で「撮影可能な地域/国」があり「スロージョーニング等でリモート可能」な体制が取れる場合は、リアル参加をせず、現地スタッフによる「完全リモート」が成立するか検討(特に「海外」の場合は詳細・具体的な確認の上で慎重に進行)
- 将来的に海外渡航解禁となっても、煩瑣な手続き(PCR検査等の陰性証明取得や未知の難条件)に対応可能か、さらには入国・帰国が突然不可となるような最悪の場合のリスクも想定し、無理な実施としないよう熟慮・検討が必要

「感染」又は「感染の疑い」が突発的に発生する可能性も含め、リスクについて得意先に共有の上1stロケーションを選定し、2nd撮影ロケーションを撮影当日まで残す判断についても、コストも含め協議・検討する。

● ロケハン

可能な限りリモート実施

ロケコーディネーター・ロケーション担当者にリモート、感染予防対策への協力をお願いする。

- (1) 既存の写真・映像資料を従来以上に充実・活用して、候補ロケーションを最少限に絞り込む
- (2) 可能なロケーションでは、リモートツールや現地でも撮影してもらった映像を活用した遠隔ロケハンを行う
- (1)(2)で判断がつかない場合に限り、最少箇所・リアルロケハンを手配し、感染予防対策のもと最少人数・最少時間で実施

リアルに参集して「ロケハン」を実施する場合

- (3) 必要に応じて、コーディネーターもしくは制作部のみのプレロケハンで、できる限り候補を絞り込む。
スタッフへはリモートツールやファイル送り等で共有。
- (4) それでも判断がつかない場合は、最少箇所・最少時間に限定し、必要最低限のスタッフ最少人数でスタッフロケハン実施。
(撮影助手の計測のみとする等の最小レベルから検討)

● 「ロケハン時」及びロケハンに伴う「移動」「宿泊」「食事」等についての注意点

スタッフロケハンを実施する場合は規模に応じて、衛生管理部(メディック部)と事前に十分な感染予防対策・実施体制を検討しておきます。
また、**風評リスク**発生にも注意が必要です。ロケハン中だけでなく、「移動」「食事」「宿泊」時でも「見られて」います。

「ロケハン時」の注意点 ※ロケ本番の場合もほぼ同様／参照してください

「09-01」の《基本対策》を必ず励行し、同じく「09-01」の「対応詳細例」も参考にして実施します。

追加注意事項例

⑥ 体制・前提等

- ☐ 衛生管理部(メディック部)の指示に従い感染予防を実施、備品担当の衛生管理PAを必要に応じ任命・配置
 - ☐ ロケーション管理者が、必要な衛生管理を行っているか実施事前に確認しておく
 - ☐ 「広さ」と「換気」を必須条件として考慮し、個々のロケーションを選択する
 - ☐ 情報セキュリティの観点から、実施中の案件名の守秘・漏洩防止には注意を払い、書類置き忘れ等をしないよう徹底する
- ※「移動(車両関連含む)」「宿泊」「食事」については次頁以降を参照

④ 「少なくする」

- ☐ 極力最少人数・最短時間で実施できるよう、時間厳守を確認し、事前に段取りや狙いを絞り込み共有しておく
- ☐ 得意先の参加は可能な限り控えてもらい、ロケ地の確認はリモートにて後日の共有を行うようにする
- ☐ 当日、参加スタッフに体調不良が発生する可能性を考慮し、必要に応じ代替スタッフを決めておく
- ☐ ロケーションにより予め一度に入れる定員を決めておく(部署ごとにチェックする時間や場所をずらす等)、事前に伝えておく
- ☐ 必要のない人の立ち入りはしないように段取り、不要不急の訪問者を受け付けない

② 「判断する」

- ☐ 参加者への体調確認(事前/毎日集合時/業務中)・参加可否判断は「09-01」の「対応詳細例②」に準じて実施
- ☐ ロケーション等の条件として「PCR検査」「抗原検査」等の陰性証明が参加可否判断に必要な場合も想定される

③ 「離す」④ 「分ける」

- ☐ 可能な限り常に2m以上のフィジカルディスタンスを保つ
ex.「チェック用モニターがある場合は複数名で見ることを避ける(可能であれば1人1台)」

⑤ 「消す」

- ☐ 衛生管理PAは、手袋を着用して*感染予防備品の各所配置や補充を担当
(*石鹸・ハンドソープ・各種消毒液・ペーパータオル・トイレトペーパー・ゴミ袋・ウエス・虫除け等)
- ☐ 衛生管理PAは前日迄にトランシーバー等のデバイスを誰がどれを使うか予め決め、個別に袋詰めしておく
→使用当日は袋ごと各スタッフに配布し、デバイスの共有は控えるようにする
バッテリーを交換する際は、新しいバッテリーを袋ごと渡し、古いバッテリーは消毒したうえで包装する
- ☐ 準備する機材(撮影機材等)・備品は、機材会社に事前消毒を依頼の上、各担当部署が随時消毒を実施
- ☐ 消毒によって傷つくロケ施設や小道具、備品等がないかチェックし、消毒剤の選定に気をつけ、使用の前後に消毒を行う
- ☐ 床にも感染リスクがあることから、直接座ることは避ける(ex.畳や絨毯等の屋内ロケーション)
- ☐ 椅子を使用する場合は消毒のしやすいプラスチック製のものに、使用前後に消毒を行う
- ☐ **トイレは感染リスクが高い**ので設備・状態を必ずチェックし、他の消毒箇所も含め本番時の消毒プランを決める ※「13-08」参照
- ☐ できるだけドアや窓2方向の換気を徹底(換気が出来ないエアコンは外気取り込みを併用)し、本番時の換気プランを決める
- ☐ 直接の会話は極力控え、口頭等で同時に全体/個別伝達が必要な場合は、トラメガ、PA、トランシーバー、モバイル等を活用する(特に屋内では徹底)
- ☐ 各種資料はデータ共有を基本とし、極力ペーパーレスとする(ペンや紙の共用・使い回しをしない)

ロケハンに伴う「移動」の注意点 ※ロケ本番の場合もほぼ同様／参照してください

移動機会が最小となるよう努め、移動の際は「3密」にならないような工夫を。

出発集合時

- ☐ 集合時出発前に、参加者への体調確認(その場での検温含む)・参加可否判断を必ず実施する
- ☐ 消毒液等、随時必要となる感染予防備品は小分けして「個人用キット」としてまとめ、出発集合時(迄)に渡しておく

電車・バス・航空機等での移動

- ☐ 乗車・搭乗時は、「最少人数で」「距離をとり(離れて着席)」「可能なら窓を開け」「マスクをして」「会話は極力慎む」
- ☐ 極力混雑を避けた日時・列車・便を選択し、同行スタッフは離れて着席するよう手配する
- ☐ チケット予約・手配は可能な限りペーパーレスで行う

ロケバスでの移動

最少人数・最少時間で充分な間隔と換気を確保する。

- ☐ フィジカルディスタンスを保つために、車両 1 台あたりの乗車人数を制限することが必須
 - ・コンピューターはドライバーを除く各社規程の人数(ex.2名以内～4名以内)で距離を置いて着席
 - ・マイクロバスはドライバーを除く各社規程の人数(ex.6名以内～8名以内)を目安に距離を置いて着席
- ※ 下図参照
- ※ ただし、1人で座ることが困難な幼児のいる「親子」や「家族」については、フィジカルディスタンスをとらない着席も可とする



[6名乗車例]



[8名乗車例]

- ☐ スペースの広い「マイクロバス」を可能な限り使用することが推奨される
 - ☐ 車両に人数制限がかかる為、従来より多い台数の車両レンタルも考慮に入れる
 - ☐ 台数を抑えてシャトルの回数を増やす場合は、待ち時間が増える事も考慮し台数を決定する
 - ☐ 車両会社に使用車両を事前に消毒するよう依頼しておく
 - ☐ 人が乗降する毎に運転手は、座席、座席裏、手すり、窓、ハンドル等、人が多く触れるパーツ(「頭まわり」も注意)、また、手が触れそうな箇所を消毒する
 - ☐ 車両部と連携・又は依頼して、消毒液をはじめとする必要十分な感染予防備品を車内に完備しておく
 - ☐ 消毒液を車内の前・真ん中・後ろの3箇所に常備し、乗降の度に手指消毒を励行するよう参加者に依頼する
 - ☐ 車内で相乗りする際は全員にマスクを着用を義務付け、マスク着用であっても会話は控える(必要な会話なるべく車外で)
 - ☐ 人が乗車している際は、常に対角線で窓を開け、外気孔を常時開放させ換気する(可能な限り四隅を開ける／前部は広め・後部は狭めに開けるのが効果的)
 - ☐ 駐車中に車両を使用する場合は、上記の窓・外気孔に加え、できるだけドアも開けておく
 - ☐ 雨天時走行中や高速道路走行中でも、対角線(ex. 最前列左助手席脇と最後列右の窓)は必ず5cm程度は開ける
 - ☐ 移動中は食事はNGとするのが基本、ただし、手指消毒後の飲料はOK(熱中症の観点からも十分な水分補給を)
- ※止むを得ず停車中食事をする場合は限定して食事席を設ける(ex. 最前列左助手席と最後列右のみ、脇の窓は必ず開放)

車両数が増えることになるので、車両数をきちんと精査した上で見積に反映させ、事前に得意先と協議しておく

その他車両等での移動

- ☐ 感染リスク軽減の観点で、参加者がタクシー、社用車、自家用車、自転車等を利用することについては、各社規程と照らして費用や事故リスク(使用者個々の自己責任とできるか等)の面からも検討し、可能な範囲で利用する
- ☐ 「相乗り」を避ける観点から、個々が自車を使用することもあり得るが、上記同様の問題認識において各社で検討する(何らかの必要で「相乗り」となる場合は、フィジカルディスタンスを確保の上、マスクを着用し、窓を開け換気を行う)

ロケハンに伴う「宿泊」の注意点 ※ロケ本番の場合もほぼ同様／参照してください

宿泊を伴う業務は、現状では極力回避すべきです。しかし止むを得ず実施の場合は最少日数・最少人数とします。宿泊時はプライベートな時間もあり気が緩みがちです。「感染リスク」「風評リスク」低減のため充分に注意します。

- ☐ 宿泊予約・精算は可能な限りペーパーレスで行う
- ☐ 相部屋は極力回避、基本的に「1室1名」を徹底する
- ☐ 宿泊先の「感染予防対策」に関する規約やルールについて、特に厳格なものはないか等、予め確認しておく
[ルール例]：「居住地制限がある」「来訪時検温があり、37.0℃以上は宿泊NGとなる」等
- ☐ 宿泊先の消毒液配備や検温設備について予め確認しておき、不足であれば参加者への小分け「個人用キット」に加える
- ☐ 宿泊施設チェックイン時には、可能な限り参加者への体調確認(その場での検温含む)を実施する
- ☐ 業務外の外出は基本的に禁止、制作部はチェックイン時にその旨アナウンスし徹底する
- ☐ 入室後は各自「手洗い」「うがい」「着替え等必要な物のみ出す(以後荷には極力触れない)」「シャワー」を実行してもらう
- ☐ 実施中の案件名や社名の守秘・漏洩防止には注意を払い、書類置き忘れ等をしないよう徹底する

「外出」は厳に慎んでいただくよう、宿泊者にはチェックイン事前に必ず周知する(例えば下記)

「業務時間外においても、単独・複数名問わず、飲食等、関係者外の方と接触する可能性のある外出は慎んでください！」

「感染を予防して、明日の業務をより安全に行う為、ひいては皆様自身の健康を守る為です。ご協力ください！」

ロケハンに伴う「食事」の注意点 ※ロケ本番の場合もほぼ同様／参照してください

※「打合せ」「撮影」に伴う「食事」については「9-02」「13-07」を参照

●可能な限り、食事提供の機会を少なくすることが大原則です。

食事提供時の基本は「打合せに伴う食事」と同様です。 ※「09-02」を参照

ただしロケハンでは本来回避すべき「外食」や「宿泊先」での食事となる可能性が高く、いっそうの注意が必要です。

再掲 《食事提供時の基本原則》

- ・できるだけ「単独」環境で、「手洗い後」「個別・密閉性の高い弁当提供」が原則、「飲食店での提供(外食)は避ける」
- ・複数名同席の場合は、「手洗い後」「個別・密閉性の高い弁当提供」「飲食店での提供(外食)は避ける」だけでなく、
「可能な限り広く風通しの良い場所で」「最少人数」「最短時間」「対面しない」「2m離れる」「会話は控える」
- 「食事以外のことはしない(携帯にも触らない)」

「飲料」追加事項 ※「9-02」と合わせて対策してください

- ☐ カフェカー、お茶場の設置はしない
- ☐ 移動中は食事はNGとするのが基本、ただし、手指消毒後の飲料はOK(熱中症の観点からも十分な水分補給を)

「食事(弁当・出前・外食)」追加事項 ※「9-02」と合わせて対策してください

- ☐ ロケハン現場で食事(弁当等)を提供する際は、より広く風通しの良い場所(屋外等)を選択することを基本とする
- ☐ 停車中1名1台であれば消毒済の車内での提供も可とする(マイクロバス規模であれば、対角着席で最大2名まで可)
- ☐ ロケハン現場で屋内の場合は「9-02」「13-07」を参照
- ☐ 宿泊に伴い食事(弁当等)を提供する際は、
(1)各自の部屋で弁当・出前・ルームサービス等を提供
(2)上記(1)が難しい場合は宿泊施設内の3密を避けられる(広く・風通しの良い)食堂・広間等で、《基本原則》を遵守して提供する。
(3)上記(2)も難しい場合は3密を避けられる(広く・風通しの良い)近隣の食堂で《基本原則》を遵守して提供する
- ☐ 宿泊施設とは、食事(主に夕食/朝食)提供の方法について、感染対策の要望を伝え、対応可能か事前に打合せをしておく
- ☐ どうしても「外食」となる場合は「ステッカーがある対策店舗」を選択し、できれば店と事前に感染対策の打合せをした上で利用する
- ☐ 「外食」となっても「打合せ」「会話」「観光」の為の食事ではないので、極力最短時間で終了するよう段取る
- ☐ 特に大都市圏からの来訪に意識的なロケーションでは、食事中でも風評リスクがあり、社名・案件名等の漏洩には要注意

※プライベートの「飲食」について

- ☐ 参加者独自の「外出しての飲食」や「自室で複数名集まってる飲食」は厳に慎んでもらうことを、事前にお願ひしておく
「〇〇から来た撮影スタッフが大騒ぎしていた。」等と、尾鰭のついた噂が拡散し収拾できなくなる可能性もある

※喫煙について

- ☐ 現場喫煙所(喫煙エリア)は、通気性・換気性の高い場所のみ設置可能とする(可能な限り「横並び」での使用とする)
- ☐ 人数制限を設け、密集しないよう配慮する(マスクを外すため「私語は厳禁」)

PPMは基本的にリモートで実施

- ☐ リモートの方法などに広告主の「ルール」「方針」があるか確認し、ある場合は広告会社担当者と相談の上、可能な限り尊重・対応して実施する。
- ☐ 制約が多い状況下なので撮影直前に内容の変更がないようしっかり確認する
- ☐ PPM前の早い時期に、制作担当P、PMは、社内チェック担当者と「感染予防対策」ができていますか事前会議を実施する
- ☐ PPM資料には具体的な感染予防対策実施方針（対策香盤や対策配置図も含む）や注意事項を、リスク条件も含めて組み込み、**PPM時に得意先としっかり確認・共有する**〔感染対策実施は新規追加事項であり、事前共有は重要・不可欠〕
- ☐ 感染予防対策内容を反映したPPM見積を提出する

PPMに向けた「制作会社社内感染対策チェック」

制作会社各社が独自に撮影事前に実施している「リスク」「バジェット」等の社内確認会議のチェックリストに、「撮影や編集実施時の感染予防対策」のチェックリストも追加し、対策が設計できているか事前確認して、社として安全な実施環境の確保に努めることを推奨します

《チェックリスト例》

新型コロナ感染予防対策チェックリスト（PPM前チェック用）

このチェックリストを用いてコロナ対策におけるリスクヘッジを行うとともに、撮影・編集時のコロナ対策プランをPPM時に資料として広告主・広告会社へ提案、また対策内容も反映した見積も同時に作成し提出する。

● 撮影時

- ☐ メディック担当者と予め、作業内容の共有・打合せはしっかりと行っていますか
- ☐ 看護師・感染予防管理担当者・衛生管理PAなどをアサインし、撮影現場での体制をきちんと整えていますか
- ☐ メディックゲートなど、衛生管理できる場所を十分に検討、かつ適切な場所で確保できていますか
- ☐ 撮影現場、スタッフの待機スペース、食事スペース等は密集を避けられる場所で確保できていますか
- ☐ 撮影現場、スタッフの待機スペース、食事スペース等は扉・窓のあるしっかりと換気が行える場所ですか
- ☐ 各担当スタッフに撮影・照明機材・備品などの消毒が現場でも行えるよう事前に相談していますか
- ☐ 車両移動がある場合、スタッフが密にならない車両の台数を確保できていますか
- ☐ マスク着用の呼びかけ・準備、石鹸・流水による手洗い・手指消毒の環境は整えていますか
- ☐ マスク着用による熱中症対策の準備はできていますか
(水分補給、塩分タブレットの摂取、十分な休息・睡眠、日陰など冷えた環境で休み、食事をしっかりとるなど)
- ☐ 撮影の参加人数は最小限に心掛けスタッフングしていますか
- ☐ スタッフへの情報セキュリティ誓約書・ご協力のお願ひなどは事前に確認が取れていますか
- ☐ ペーパーレス対応はできていますか／データ共有の情報セキュリティ対応(QRコード厳格運用含む)は万全ですか
- ☐ 入場時の検温・体調チェック、撮影途中の換気など、十分に時間を確保した香盤になっていますか
- ☐ 建込み・撮影時の香盤表は事前にスタッフと内容の共有はできていますか（紙資料配布禁止）
- ☐ キャスト・スタッフに対し、コロナ対策の事前説明を十分に行い、共有ができていますか
- ☐ リモート撮影・またはチェックの場合、使用システムの確認・準備・段取りの共有はできていますか
- ☐ カメラ前の作業（人との間隔が2m以内）の場合、フェイスシールド(or ゴーグル)着用の準備はできていますか
- ☐ キャストまわりのケアはできていますか。そして、その共有をきちんとできていますか
- ☐ 飲みカット・食ベカットの撮影について、十分な衛生対応策が検討できていますか
- ☐ 食事はお弁当（密閉型）にしていますか（ケータリングは禁止）
- ☐ 各スタッフ用に配る飲料水は十分に確保できていますか（500ML以下ペットボトル可。紙コップ・2Lボトル不可）
- ☐ 特にロケで発生したゴミの回収・廃棄～撤収のための備品準備・段取りはできていますか

● 編集時仕上げ

- ☐ リモート環境（特に編集まわり）が整えられるポスプロを選んでいますか
- ☐ 使用するポスプロのwithコロナの作業規定・方針などしっかり理解して選んでいますか
- ☐ 使用する編集室・MAルームの消毒をポスプロ側に事前に依頼していますか
- ☐ 使用する編集室・MAルームは扉・窓がある換気がしっかり行える場所ですか
- ☐ 使用するポスプロのコロナ対策に関して、事前にチェックしていますか（特にケアまわり）
- ☐ お立合いが必要な場合、最小人数のスタッフで作業できるよう準備していますか

- ☐ 当社ガイドラインを遵守し、また、得意先や外注先のガイドラインとも協調して進行できていますか
- ☐ 広告主・広告会社に対し、コロナ対策の説明を十分に行い、それを見積に反映できていますか

感染予防対策資料の作成

PPM資料には「現場での具体的な感染予防対策」「注意事項」「リスク条件」等を組み込みます。

※「現場での具体的な感染予防対策」には、(1)制作部が主体の【フィジカルディスタンス確保の徹底】、
(2)衛生管理(メディック)部が主体の【衛生管理の徹底】がありますが、ここでは(1)の為の2つの資料となる、
「香盤表(時間的バッファ設計資料)」「現場配置図(空間的バッファ設計資料)」の例を紹介します。

〈感染予防対策〉香盤表 (時間的バッファ設計資料)

「香盤表」には「時間差業務」「検温・換気・消毒」「感染予防に関する注意」等を分かりやすくを記載する。

下記にも留意して衛生管理部(メディック部)と共に作成。

- 撮影場所での準備(美術建込み・プリライト・撮影機材セッティング)は、密集を避ける為に「完全入替制(各部署ごと)の搬出入およびセッティング時間を明確に分ける」とし、香盤上にもそれを反映させる
→その分の日数、時間を確保することが必要(状況によっては、建込・撤収の日を設けることが望ましい)
- 各部署「完全入替」だけでなく、手洗い・消毒・換気・再検温等「感染予防対策」も明確に盛り込んだ「香盤表」とする
→従来より余裕のある日数、時間配分にする必要がある
- 通常より多くの時間がかかっても、スタッフの人数を抑えることを優先する(ex. 撮影当日の人数を減らす為準備日数を増やす)
- 深夜までの撮影は避けて、必要ならば撮影日数を追加する
- タレント撮影の際は、通常より拘束時間がかかってしまうことをマネジメント事務所にもご理解いただき、適切な(充分に余裕のある)撮影時間を確保させてもらうようにする

《香盤表作成例》

TIME	(撮影カット)	撮影部	照明部	美術部	出演者	MEMO
		スタジオ入室最大人数 4名/(24名)	スタジオ入室最大人数 6名/(24名)	スタジオ入室最大人数 3名/(24名)		
5:30	制作部／衛生管理部 IN	一度にロケーション・セット内に入る人数を部署ごとに限定				衛生管理部： ◆各所消毒、感染予防備品配備 ◆メディックゲート設置 スタジオINの際は、必ずメディックゲートを通り、 ◆「手洗い」「持ち物消毒」 ◆「検温」「問診・視診」 ◆「マスク交換」「スクリーン貼付」の後に入室してください。
		6:20 IN →メディカルチェック 6:30 搬入開始 7:00 OUT	6:50 IN →メディカルチェック 7:00 搬入開始 7:30 OUT	7:20 IN →メディカルチェック 7:30 搬入開始		
9:00	オールスタッフ IN			8:30 OUT	8:30 IN →メディカルチェック HM、着替え	
9:15	アドバイザー IN					
9:30	朝礼				(90min)	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、 ◆マスクの常時着用 ◆人数最少化(コントロール) ◆頻繁な手洗い・手指消毒 ◆常時開放・換気(SHOOT時以外) ◆... にご協力ください。
10:00	準備 → SHOOT #3					
20min						
10:20	セッティング チェンジ 30min (各部署10min×3)	10:30 チェンジ 10:40 OUT	10:40 チェンジ 10:50 OUT	10:50 チェンジ 11:00 OUT		
11:20	準備 → SHOOT #4					

A : 各部署ごとに同時にスタジオに入室できる最大人数を明記

※「スタジオ入室最大人数」の考え方・算出方法は「12-03」を参照

B : 各部署ごとに、搬入・搬出、セッティングチェンジ時のIN/OUTを明記 (一度に滞在できる人数はAの数を最大とする)

C : 新型コロナウイルス感染拡大防止に関する基本的な注意事項を明記

※エアコンを使用する場合は、エアコンをつけたまま窓やドアを開放、または10分が20分ごとに窓やドアを開放し、大型扇風機を(屋外向き)につけて換気を行うこと

D : できる限り朝礼を行い、各対策の周知を全体に徹底する

※ : 必要に応じ、さらに「全面換気休憩」「消毒」「参加者検温・問診」等も盛り込みます

香盤表の形式・考え方は、制作会社によって異なります。

※「巻末資料 (6)撮影香盤表例」も参照

《感染予防対策》現場配置図 (空間的バッファ設計資料)

「現場配置図」には「各部署のスタジオ内スペース」「得意先スペース」「食事/待機スペース」「メディックゲート」「手洗い場所」「モニター配備プラン」「換気用送風機設置プラン」等を明記する。下記にも留意して衛生管理部(メディック部)と共に作成。

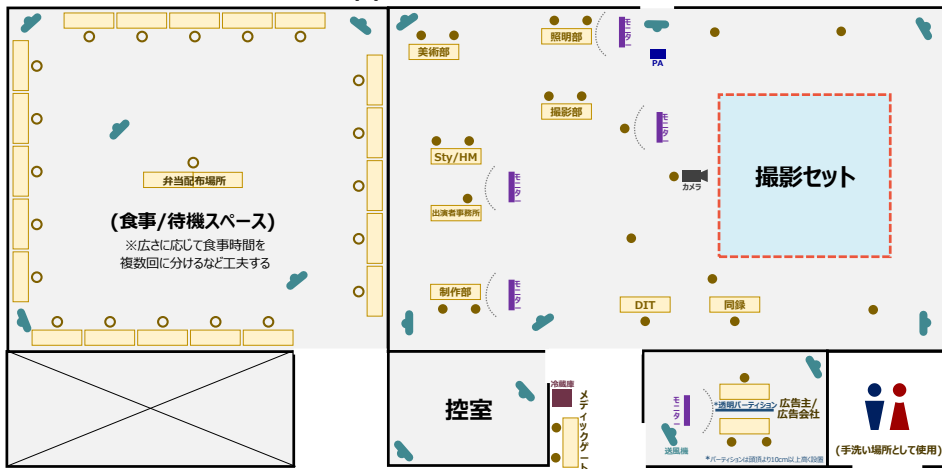
- 撮影スタジオ内に「各部署ごとの専用スペース」を設け、スタッフを基本配置から分散させる等、極力「離す」「分ける」工夫を行う
- 撮影スタジオ内でも「モニター周辺」は人が密集しがちなので、部署ごとに決まったモニターを複数台設置する等、人の拡散を徹底(モニター前の床に2〜3名用・2〜3枚の「立ち位置マーク」を貼ることも有効/小型タブレット端末をレンタルして配備することも有効)
- スタジオが「密閉状態」となり、スタジオ入室人数も増える(全体最終調整→)撮影本番」の配置を想定して配置図を設計する(カメラセッティング/ライティング等の個別部署作業は「スタジオ開放が基本」)&「可能であれば完全入替性」によりスタジオ入室は少人数に限られる)※本番時は各部の責任者・実働者のみ撮影スタジオ入室可とする等、少人数化を徹底する(責任者とそれ以外をカラーリストバンド等で区分しておくことも有効)
- 各部署が距離をとってコミュニケーションがとれるよう、トランシーバー(或いはPA、トラメガ)を使用する
- 「スタジオ入室最大人数」を算出(下記「算出の考え方」参照)しておき、それ以上の人数を同時にスタジオ入室させないことが基本
- 参加者総数が「スタジオ入室最大人数」を超える場合は、必ず待機スペースを確保しておく(別スタジオ・別部屋・屋外(テント等)・待機用車両、等を検討)

【広告主、広告会社、タレント関係スタッフについて】

- ※撮影の同時チェックが必要な場合は、まずリポートにできないか検討→難しい場合は最少人数で撮影現場立会となる(可能な限り、例えば広告主1名、広告会社2名(営業担当・CR担当各1名)、マネージャーの方1名とする等、最大人数をお願いしておく)
- 現場スタジオ外にチェック用別室を設けることが基本(消毒・換気を行い、十分な間隔をとって着席できるように予め座席配置しておく)

《現場配置図作成例》

※「巻末資料 (7)スタジオ内配置例」も参照



【スタジオ入室最大人数「算出の考え方」例】

スタジオ入室最大人数は、撮影場所・待機場所それぞれのスペースに対し「1人あたりの占有面積5㎡(1.5坪)」から算出すること。

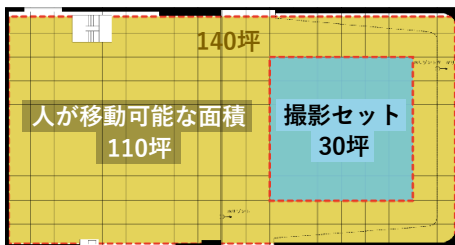
また、セットなど、人が自由に移動できないスペースは差し引いて考えること。



【フィジカルディスタンス確保】1名あたりのセーフティゾーン：5㎡(1.5坪)必要 (これを元に現場面積に対し、実働可能な参加人数を割り出すことを推奨する)

人間の肩幅を50cmとした場合、2mのフィジカルディスタンスを保つためには上図のように、1人につき直径2.5mのセーフティゾーンを守る必要がある。

室内撮影において、同時・同空間にいる全員が 5㎡(1.5坪)の面積を必要とする。



【スタジオ入室最大人数算出例】

140坪のスタジオに、撮影セット(30坪：自由に出入りできないエリア)が組まれた撮影の場合、撮影セット面積を除いた面積(110坪)から算出。自由な移動ができないスペース(機材やテーブル等)や各人の作業・移動スペースを考慮すれば、単純な割算の商の3割以下が望ましいと思われる。…「作業バッファ係数」を「0.3」と仮定。
(140坪 - 30坪) ÷ 1.5坪 × 0.3 (作業バッファ係数)
≒ 約24名(実働可能な「スタジオ入室最大人数」)

※「ペーパーレス推進」の為の「データ共有の方法」について

「PPM資料」等、未発表作品の諸資料は、「極秘資料」であり、万が一にも流出を許してはいけません。
データ共有は利便性の高い「新しい」方法ですが、情報セキュリティの観点での「正しい」運用が必須です。

特に「演出コンテ」や「香盤表」等は、撮影等の参加スタッフと共有されることの多いものですが、
「ペーパーレス化により利便性が高まる＝逆に注意すべきリスクも高まる」ことに意識的にならねばなりません。

- 「演出コンテ」や「香盤表」等「極秘情報」を、サーバにUPしてそのURLを撮影参加者等スタッフ・得意先に共有する場合は、下記に注意します。
 - サーバは、個々の会社が指定する、信頼のおけるもののみを使用する
 - 共有資料内の「機微な箇所」は全て「伏字」となっている書面を使用する
 - 参加者へ個別にメール等で「URLを共有」し、別のメールで「PW(パスワード)」も送り、少なくとも「URL」「PW」双方が揃わないと閲覧できないようにする(会社によってはこれ以上の「二段認証」を要する場合もある)
 - 特定であっても「多数」で見える場合には、「閲覧のみ」の設定とし、DL(ダウンロード)は不可とするのが基本
(DLが必要となるのは特定の少数名であるはずであるから、サーバ共有とは別の手段で共有するのが基本)
- また、特に撮影準備に向けてデータ共有をする上で「QRコード」が活用される機会も増えていますが、「演出コンテ」や「香盤表」等「極秘情報」を扱う場合は、厳重な注意が必要です。
 - 「QRコード」をURL共有に活用する場合、共有する情報が「演出コンテ」「香盤表」等「極秘情報」の場合は、「QRコード」の扱い自体を「極秘情報」同様に考える…**〈極秘QR〉**
 - **〈極秘QR〉**を撮影現場で使用する場合は「関係者以外が絶対に見ることができない場所」に「極少数枚数のみ設置」する
 - 特に**〈極秘QR〉**を「貼り出す」必要がある場合は「離れた場所からでも無関係の第三者が視認・活用し得る」ことに留意し、厳重に注意する(「スタジオ外」「入口近辺」には絶対掲出ししない)
ex1. 関係者以外が立ち入る可能性のない撮影スタジオ奥の確認用モニター近辺等のみ掲出する
ex2. 制作部が常時伏せて(制作部携帯上の画像データ等として)管理し、個別スタッフから利用要望を受けた場合等、必要な場合のみ開示する
 - 閲覧可能期間は最短に設定しておく
ex. スタッフインの時刻に「QRコード掲出」「データUP」、撮影終了時(毎日)「QRコード掲出終了」「データ消去」
 - 開示情報(ex. 体調チェックシート入力フォーム)の現場共有用QRコードは利便性を優先して掲出できるが、同様の利便性優先の運用を〈極秘QR〉に適用することは大きなリスクを伴うものであり、混同してはいけない

※ その他、動画の共有、リアルタイムチェックが増加していきますが、「作成中途の映像情報」は全て「極秘情報」と考え、各社の情報セキュリティルに則っているかもチェックし、慎重に活用していくことが必要です。

- 「最少人数」「フィジカルディスタンスの確保」「換気・消毒を徹底」が基本。
- 「同時リモートチェック」「ファイル送りによる時間差チェック」も可能なパートでは実施検討します。

撮影でも下記「09-01」で示した《基本対策》や「対応詳細例」の参照・実施が基本であることに変わりませんが、撮影は(最少にするとはいえ)多くのスタッフに集合していただき着実な進行を実施していく大きなイベントであり、感染予防対策も、特別に組織立った準備・体制・実行が必須になります。

再掲 《基本対策》5つのアクション

- ①「少なくする」：参加人数・実施時間を極力最少化、広い部屋で密度を最少化
- ②「判断する」：検温・体調報告(事前&実施中)、その他感染可能性の報告に基づき参加可否判断
- ③「離す」：参加時はフィジカルディスタンス(2m以上)確保、移動時もラッシュを回避
- ④「分ける」：マスク着用義務化、密接時は「フェイスシールド/ゴーグル」、場合により「間仕切り」「別室」も活用
- ⑤「消す」：「手洗い」「手指・設備消毒」「換気(開放&送風)」を頻繁に実施、「ペーパーレス」「高唱回避」徹底

● 撮影における「感染予防対策」の考え方について

特に撮影については、「(1)制作部の役割」「(2)衛生管理部の役割」を分け、実施に即して具体的に考えます。

(1)制作部主体の対策【フィジカルディスタンス確保の徹底】

制作部が軸足となるのは、《基本対策 5つのアクション》のうち主に、①「少なくする」③「離す」④「分ける」。

具体的に言い換えれば、下記となります。 ※これについては「12-02」「12-03」で既述、そちらを参照

1. 事前のリモート化・最少化の設計・実施
2. ④時間的バッファの確保≒「香盤表」の設計・実施 / ⑥空間的バッファの確保≒現場配置図の設計・実施
※「(1)-2 ④⑥」では、衛生管理部(メディック部)と相談・協力して設計・実施となる

(2)衛生管理部(メディック部)主体の対策【衛生管理の徹底】

衛生管理部が軸足となるのは、《基本対策 5つのアクション》のうち主に、②「判断する」④「分ける」⑤「消す」。

具体的に言い換えれば、下記となります。 ※「13」ではこれを中心に扱います

1. 「メディックゲート設置・運営」…入場時の参加可否判断と、参加者への継続的な体調確認
2. 「④消毒プランの設計・実施」「⑥換気プランの設計・実施」…現場の衛生管理

● 衛生管理部(メディック部)と実施する【撮影準備～撮影】業務

衛生管理部(メディック部)の【体制・業務 事前確認】

プロデューサーは、早い段階から衛生管理部の体制を現場の規模・対策の難度に合わせ決定し、必ず配置します。

- ☐ メディック(看護師等)を(どこに/何人)外注するか、社内セフトオフィサーに依頼するか、衛生管理PAは何人配置するか
- ☐ 「感染予防管理責任者」となるのはプロデューサーかメディックか、明確にしておく(個社の方針で決まっている場合もある)

プロデューサーは衛生管理部と共に「撮影内容」「参加人数」「香盤」「現場配置」等を確認の上、感染予防対策を事前に検討・立案し、必要事項を確認しておきます。

- ☐ 部署別、役割別(消毒/換気/備品担当等)、場所別(ゲート/控室/車両/トイレ等)の衛生管理PAを必要に応じ配置
- ☐ 対策難度の確認(「広さ」と「換気」等の環境、食ベカッ・飲みカッの有無、密接・密集・密閉が懸念される設定の有無..)
- ☐ スタジオ等の撮影場所で、必要な衛生管理を行っているか、役割分担できる業務はあるか、実施事前に確認しておく
- ☐ 撮影場所や使用箇所(トイレ含む)が消毒済みかどうか、使用されていない期間が3日以上あったか、事前確認しておく
- ☐ 「メディックゲート設置場所」や、その「運営方法・運営人員」の確認
- ☐ 「食事場所」や、食事・飲み物の提供方法、提供人員の確認
- ☐ 「待機場所」「手洗い場所」「透明パーティションの設置場所」「注意喚起ポスター掲出場所」等の確認
- ☐ マスクの配布方法や、フェースシールド/ゴーグル/高性能マスクの使用の必要性/使用者/使用機会の確認
- ☐ 《消毒プラン》の確認：消毒液の設置場所、消毒箇所、配布する消毒液の種類/使用者、配布方法、担当者等を確認
- ☐ トイレは感染リスクが高いので設備・状態を必ずチェックし、本番時の消毒プランを検討する ※「13-08」参照
- ☐ 撮影・照明等準備する機材・備品は、機材会社に事前消毒を依頼/車輛会社には、車輛を事前に消毒するよう依頼
- ☐ 《換気プラン》の確認：扉や窓等の開口部、開放の可能性、送風機の数・設置プラン、担当者等を確認
 - ※換気の為開放にする際、情報セキュリティ面での問題は生じないか確認(リスクがあれば得意先とも協議・検討)
- ☐ 必要な感染予防備品(※下記参照)の確認、在庫不足はないか早めに確認し必要に応じ追加発注
- ☐ 体調チェックシート(「13-04」「巻末資料(6)」参照)の内容の質問フォームへの参加者からの参加前日の回答や、それ以前の参加者からの報告で「感染」や「濃厚接触」が疑われる場合の対処(代替者への変更/検査受診等)を想定しておく
- ex. 参加必須のスタッフやキャストの場合は早めの報告をもらいPCR検査(短期間で結果が出る施設がベター)を実施、等

0. 感染予防備品の準備

衛生管理部が制作部と相談し、下記に限らず、必要な備品を必要な分量準備します。(過多・過少にならないよう注意！)

消毒液 ※ 設置場所(または個々に配布)により「100～300cc程度のスプレーボトル」に小分けすることが望ましい

- ☐ 消毒液(手指専用)：ベンザルコニウム塩化物配合の消毒液各種
- ☐ 消毒液(手指・モノ兼用)：消毒用アルコール ※ [参考]消毒用アルコール濃度は76.9～81.4vol%
- ☐ 消毒液(モノ(金属以外)用) 次亜塩素酸ナトリウム液…「ハイター」「ブリーチ」等を希釈して使用
- ☐ 石鹸 ※石鹸は消毒液ではありませんが、「石鹸による手洗い」が手指には最も有効です

マスク等 飛沫感染予防備品

マスクは「飛沫を出さない対策」、フェイスシールドやゴーグルは「飛沫を受けない対策」です。使い分けてください。

- ☐ マスク：現場では基本的に新品の「不織布マスク」を使用することを推奨
 - ※ N95等の特別なマスクや、跡のつかない紐式マスク等は、必要があれば使い分ける
- ☐ フェイスシールド：基本はゴム止め式(額側から飛沫が入らない)を使用、跡がつかない眼鏡式は必要に応じて使用
 - ※ 他者との2m以内近接時にマスクと併用で着用するのが基本
- ☐ ゴーグル ※ フェイスシールドより確実に目への飛沫防止が可能/呼吸による内部からの曇りは生じない
- ☐ 透明パーティション(アクリル/ビニール) ※ 繰り返し使用する材質としては消毒しやすいアクリルが望ましい

体温計 ※ 「非接触型」で簡易に検温し発熱が認められた場合でも、「腋窩用」で再計測するのが基本

- ☐ 体温計(腋窩用) ☐ 体温計(非接触型)

その他

- 【消耗品】** ☐ 使い捨て手袋 ☐ ジッパー袋 ☐ ボトル/スプレーボトル(消毒液小分け用)
- ☐ ウェットティッシュ ☐ ペーパータオル ☐ ポリ袋(大/小(マスク保管&廃棄時使用))
- 【レンタル品】** ☐ 送風機 ☐ 手洗いユニット(手洗い場所が適切な場所にない場合)
- 【その他】** ☐ 参加スタッフシール ☐ 感染予防注意喚起ポスター ☐ ビブス(衛生管理部着用用)

事前からよく計画して、適切で過不足のない感染予防対策備品を準備し使用します。

感染予防対策は新しい業務として注目されています。例えば「過多な備品が整理されず放置」とならないよう管理徹底します。

※消毒液等の感染予防備品の準備においては、担当制作がまだ対策に習熟していない状況で準備時間が無くなる等の理由により、買い過ぎの「ムダ」、大幅に不足となる「ムラ」が生じる懸念もあります。「ムダ」「ムラ」は絶対回避すべきです。「消毒液等感染予防備品の一括購入・ストック→個別現場への過不足のない配備」とする等、制作会社個社としての調達方法を講じることも、安定的・効率的な対策には効果的と考えられます。

衛生管理部(メディック部)による【現場での事前準備】

リハーサルや撮影の前日または当日スタッフイン前までに、衛生管理部は現場で下記を準備します。

1. 手で触れる可能性のある箇所の消毒を実施

参加者が触れる可能性・頻度高い箇所から実施。(すぐに触れそうもない箇所はスタッフイン後の消毒でも可)

- ☐ 現場ドアノブ、机、椅子 等 ☐ 各部署専用スペース/モニター周辺 ☐ トランシーバーの事前消毒
 - ☐ 出演者控室/マイクルーム ☐ 得意先スペース ☐ トイレ ☐ 手洗い場 (☐ 食事/待機/喫煙スペース)
- ※ スタジオ側が消毒実施する箇所を事前に確認しておき、分担を決めておく

2. 感染予防備品の配備

適切な備品を、適切な場所へ、適切な分量で配備。

消毒液 ※ 下記は配備箇所の例(現場に応じて適切に配備する)

- ☐ スタジオ(現場)入口 ☐ 制作ベース ☐ 各部署専用スペース/モニター周辺 ☐ カメラ前・ディレクター席付近
- ☐ 出演者控室/マイクルーム ☐ 得意先スペース ☐ 食事/待機/喫煙スペース ☐ トイレ ☐ 手洗い場
- ☐ その他、使用する会議室等 ☐ 車庫

マスク等 飛沫感染予防備品

※ マスク/フェイスシールド/ゴーグルは、基本的に入場時にメディックゲートで、マスクは全員に/その他は必要な参加者のみに配布

換気・送風機配備

※ 優先的に必要な箇所から(スタッフイン前から事後にかけて)ドア・窓等をオープンし、送風機を配備・稼働させる。

感染予防注意喚起ポスター ※ 下記は掲出箇所の例(現場に応じて適切に掲出する)

- ☐ スタジオ(現場)入口 ☐ 各部署専用スペース/モニター周辺
- ☐ 出演者控室/マイクルーム ☐ 得意先スペース ☐ 食事/待機/喫煙スペース ☐ トイレ ☐ 手洗い場

3. スタジオ前(またはロケセット前)にメディックゲートを設置

上記「1」「2」と並行して設置し、スタッフインの前には完了して機能する状態にしておく。

※ 「テーブル1つ」等の簡易な設備とするが、屋外・雨天の場合は「テント付」とする等対処が必要

【メディックゲートで設置時に用意しておく備品】

- ☐ 体調チェックシート記入用データ/PC(ペーパーレス推奨/難しい場合は紙シート/ペン(※共用・使い回し不可))
- ☐ 体調チェック確認事項記載ラミネート ☐ 体調チェックアプリ用QRコード(アプリ活用の場合)
- ☐ 消毒液(持ち物消毒用) ☐ 消毒液(手指消毒用) ☐ ペーパータオル ☐ ポリ袋(大/小(マスク保管&廃棄用))
- ☐ ベルトパーティション(行列コントロール用) ☐ 地面用シール(行列時2m以上距離を保つ)
- ☐ 衛生管理部用「ピブス」「フェイスシールド」「使い捨て手袋」(衛生管理部は「ピブス」等を着用し、存在を明確にする)
- ☐ 現場資料用QRコード(取扱注意：「12-04」参照)

【参加者への配布備品】

- ☐ マスク ☐ 持参マスク保管用ジップ袋 ☐ フェイスシールド ☐ ゴーグル ☐ 使い捨て手袋
- ☐ 飲料水(500ml以下のペットボトル/要各自記名) ☐ 小分け消毒液
- ☐ 消毒済トランシーバー ☐ 参加スタッフシール

※「体調チェックシート」と「参加可否判断」について

「体調チェックシート」は、衛生管理部が「参加可否判断」の為に用いるシートです。（「巻末資料(5)」参照）

【運用例】 ※各社で運用方法・ルールを策定しておくことを推奨します

- ✓ 参加事前に制作部が参加者に「質問フォーム」をメールまたはアプリで送る
- ✓ ①参加前日15:00迄に回答・返信→前日判断、②参加当日現場イン直前に回答・返信→当日判断
- ✓ ①の参加可否判断指標(基本)は「体調」「体温」「*海外滞在歴」「*濃厚接触の可能性」(*直近2週間以内)
- ✓ ②の参加可否判断指標(基本)はメディックによる問診・視診も加えた「体調」「体温」「濃厚接触の可能性」
- ✓ ①②とも、「感染」「濃厚接触」が「*疑わしい」場合はどのような立場の参加者でも、「不参加」とすることが基本
→メディックが制作会社Pに進言し、P(または社)が「隔離/リモート参加としてもらう」「代替者へ変更」等も含め最終判断
*ただし判断期間に余裕がある場合、例えば下記のような事例では、参加者に医療機関に相談し検査してもらい、その結果をヒアリングして判断材料とすることも検討
・参加者本人の体調の「疑わしさ」が特に軽微(37.2℃である等)
・参加者本人の体調に問題が無いが、例えば家族に軽微な症状がある(微熱や「風邪」と思われる等)
- ✓ 衛生管理部は参加者全員のヒアリング結果を「体調チェックシート」に記録し、極秘情報として担当管理部に速やかに提出、担当管理部は1ヶ月間保管の上、溶解廃棄
- ✓ 「体調チェックシート」運用は撮影だけでなく「ロケハン」をはじめ大人数が集まったり一時的「密」が避けられない業務で推奨される

衛生管理部(メディック部)による【参加者入場時対応業務】

「参加者入場時」のメディックゲート運営業務は、衛生管理部が全体の中心となる重要な業務です。
全ての参加者(得意先・出演者含む)は入場時「メディックゲート」を通り、下記を実施することが必須となります。

【入場時対応例】

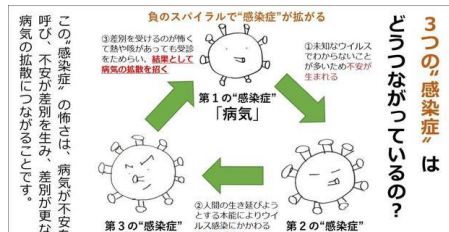
- ①メディックゲートで衛生管理部は「マスク」「フェイスシールド」「使い捨て手袋」「制服またはビブス」を着用して対応
- ①「手洗い」…指定手洗い場所へ誘導し各自実施 ※「うがい」については下記「*うがい実施の際の注意」を参照
- ②「携帯電話の消毒」…メディックゲートに配備のペーパータオル、アルコールスプレーを使用し、各自で消毒する
- ③「検温」「問診・視診」 ※作業中も定期的を実施(ex. 入場が「朝」の場合「午後」「夕方」も実施)
 - ✓ まず非接触型の体温計で検温、発熱(ex. 37～37.5℃以上/平熱により異なる)の場合は20分着席して待機し、腋窩用体温計で再検温
 - ✓ 各自提出済の「体調チェックシート」を参照しながら「問診・視診」して参加可否を判断
※未提出の場合は衛生管理部がその場で書取り(アプリ使用の場合はQRコード読み→その場で記入・提出)
 - ✓ 撮影中に気分が悪くなったら申告いただくよう伝える
- ④「手指消毒」…消毒用アルコールスプレー、アルコールアレルギー対応消毒スプレー等を使用
- ⑤「マスク交換」…着用してきた私物マスクは新品の不織布マスクに交換(私物マスク保管用ポリ袋(小)を渡す)
- ⑥「必要備品配布」 ※スタッフにより、配布内容は異なる
 - トランシーバー(消毒済/ジッパー袋入り) …ex. 各部署代表者に1～2台配布
 - フェイスシールド(orゴーグル) …ex. 出演者、スタイリスト、ヘアメイクだけでなく、カメラ前に関わり、他者との2m以内接近が不可避なスタッフエキスタジオ内に入るスタッフに配布
 - 使い捨て手袋 …ex. 他者と物品のやりとりが不可避なスタッフに配布(「つけたまま」は避け、頻繁に交換・脱いだら手洗い)
 - 消毒用スプレー …ex. 各部署・各自用の「小分けスプレー」を必要な種別・量を個別に決め配布、随時消毒を行ってもらう)
 - 熱中症対策サプリメント …ex. ペットボトルの水(500ml以下の飲み切り)、塩飴(小分け袋入り)等を配布
- ⑦「スタッフシール配布～貼付」…参加スタッフであることを明確にし、入場を厳しく管理する

*うがい実施の際の注意

「うがい」はウイルス除去には有効である可能性もありますが、うがいによる飛沫からの感染事例も報告されていることから、実施する場合は、必ずメディック(医療従事者)の指導の下で、事後の消毒を徹底する等感染リスク低減の為に対策をして行ってください。

[メディックゲートで参加不可となった場合の対応例]

- ✓ 体調不良者(発熱は37.0～37.5℃以上を目安)は入場時だけでなく撮影途中でも直ちにその場から離し、帰宅していただく事が基本です。得意先、出演者、メインスタッフ等、誰でも同様です。



- ✓ 判断に迷ったら、帰宅していただくのが基本です。
- ✓ 帰宅となる方には「かかりつけ医、もしくは受診・相談センターに電話で相談」するよう伝えます
- ✓ PCR検査の対象者(感染や濃厚接触が疑わしい方)が出た場合は、制作会社として保健所への連絡・対応も必要となります。

感染や濃厚接触が疑わしい方が出た場合には冷静に対応します。左図のように、**感染への差別が更なる感染拡大に繋がっていく「負のスパイラル」に加担してはいけません。**

(日本赤十字社ホームページ「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう!」～負のスパイラルを断ち切るために～」より引用)

制作部による【撮影参加スタッフへのお願い(マスク・消毒・3密回避)】

制作部は参加者全員に向け以下の「お願い」を遅くともスタッフイン完了時までに伝え、通常の撮影上の注意に加え、感染予防対策の徹底順守を最終確認します。

(「メール等での事前確認とする」or「3密を回避できる環境」であれば「朝礼」として実施する)…各社方針により方法は異なる)

- ✓ 撮影現場への出入りの際は、毎回必ず、手洗い、手指消毒
 - ※ 手指消毒は作業ごとにこまめに
 - ✓ 接近を避け2m以上の身体的距離をとる(セット・照明チェンジ時も)
 - ※ 2m以内接近時はマスク+フェイスシールド(orゴーグル)着用の上、最短時間で
 - ✓ *常時マスクを着用、汚れたら即交換 (*「熱中症対策」で条件付で外すことは可：次頁「13-06」参照)
 - ※ メディックゲートにて交換、廃棄時は小ビニール袋に入れてからゴミ入れへ
 - ✓ 大声を出さない
 - ※ 配備してあるPA、トラメガ、トランシーバーを必ず使用
 - ✓ メディカルスタッフから機材の消毒について指示があったら適宜実施
 - ✓ 体調に異変を感じた際は、速やかに衛生管理部(制服・ピス着用)に相談
 - ※ 言い出しやすい雰囲気をつくるのが大切
 - ✓ 配布したペットボトル(500ml以下)には各自で記名
 - ※ 紙コップ不可・大ボトル持込不可
 - ✓ 個人の持ち物は本人が管理し、他の人の物には触らない
 - ✓ 他人に不用意に触らない、演技等での必要以外で触れることは厳禁
 - ✓ トイレでは消毒を徹底(「13-08」参照)
 - ※ トイレには注意喚起ポスターを張り、使用時の消毒手順を示しておく
- [使用前] 消毒をして拭く → [洗浄時] 便座の蓋を開けて水を流す →
[使用后] ペーパータオルなどに消毒液をしみこませて、便座・蓋・鍵など触った場所を拭き取ることが基本

マスク着用のポイント



不織布マスクの中にある針金を自分の鼻の形に合わせて折り曲げ、鼻の両脇の隙間をしっかりと塞いでください。口・鼻が覆われ、頬などに隙間がないようにすることが大切です。隙間ができるのであれば上と下を縛り、長さを調整してください。マスク着用後はできるだけ顔周りは触らず、鼻出しマスク・あごマスクも禁止です。

衛生管理部(メディック部)による【撮影中の感染予防対策】

各部署は、衛生管理部から衛生管理上の指導があった場合は必ず従わなければなりません。

- ・衛生管理部は制作部と共に、撮影中も継続的に「フィジカルディスタンス」「換気」「消毒」「適切な備品使用」について参加者に向け「声かけ・注意・指示」して適切な行動を徹底してもらいます。
- ・また、衛生管理部は自ら「換気」「消毒」を継続的に行い、「体調チェック(検温・視診・問診)」も適宜・定期的に実施して参加者の体調管理に努め、場合により追加の「参加可否判断」を行います。
- ・さらに夏期は特に、衛生管理部は「熱中症」も気遣い、できる限りの対策を行います。

フィジカルディスタンス

- ☐ 撮影・セッティング中、スタッフが密集しないよう、事前に定めたスタジオ内及び待機場所での配置を遵守してもらう
- ☐ 大きな集合体、一時的に密となる箇所ができてしまった場合は様子を見て解消するようアナウンスする
- ☐ 直接の会話は極力控えてもらい、口頭等で同時に全体/個別伝達が必要な場合は、トラメガ、PA、トランシーバー、モバイル等を使用するよう、特に屋内では必ず徹底してもらう

換気

- ☐ 本番時以外の撮影準備・セットおよびライティングチェンジの間はスタジオ・ロケセットなどの入口や窓を可能な限り開放した上で、窓やドアに向けて送風機を稼働(室内の空気を早く排出し、換気を促進する)
- ☐ 本番が長くなる場合は、定期的に(ex. 10～20分毎に)一旦上記の状態にして換気を実施

消毒

- ☐ 衛生管理部は、手袋を着用して*感染予防備品の各所補充を担当
(石鹸/ハンドソープ/各種消毒液/ペーパータオル/トイレペーパー/ゴミ袋/ウエス/虫除け等)
- ☐ 衛生管理部は、撮影の合間にスタッフが触れる箇所を随時/定期的に消毒する
(ドアノブ/扉のドアノブより上部の端側/机/椅子/トイレ/窓(換気時に触れる場所)/飲食・休憩・喫煙エリア/モニター周辺..)
- ☐ モノ、人に触れたら必ず「手を洗う」「少なくとも手指消毒する」ことを徹底するよう参加者に促す
※可能であれば、消毒用アルコールを入れたミンスプレーを全参加者に配布しておくことが望ましい
- ☐ 撮影・照明等の機材や備品、美術その他の小道具類等について、各担当部署が随時消毒を実施しているか確認し、必要がある場合は、これらの消毒を行うよう、適宜指示する
- ☐ 参加者各自の私物(携帯電話、ペン等)についても、現場での使用状況に応じて、消毒を行うよう、適宜指示する
- ☐ 車両会社には、車両の随時消毒を実施しているか確認

適切な備品使用/その他

- ☐ トランシーバーバッテリー交換：新しいバッテリーをジッパー・袋ごと渡す(古いバッテリーは消毒した上でジッパー・袋へ入れ保管)
- ☐ 商品などに手渡すものに触れる場合は、必ず手袋を使用するよう徹底
- ☐ コンテ・香盤表等の各種資料はデータ共有とし、必要であれば大型プリント掲出のみとする(個別用出力は極力しない)等、ペーパーレスの徹底を随時指導する
- ☐ 床にも感染リスクがあるので「地べた座り」は禁止、「カバンなどの荷物を床に直に置くことは控える」よう指導する
- ☐ 「単独で作業中のフェイスシールド着用」等、過度な装着があれば注意・指導する
- ☐ 「未使用のものも含め感染予防備品を乱雑に放置しない」「鼻出しマスク類マスクをしない」「各自マスク等を放置しない」「フェイスシールドで扇がない」等、基本的なエチケットの徹底に努め、随時指導する

体調チェック(検温・視診・問診)

- ☐ 参加者の体調に問題のある変化があった場合の報告窓口となり、常時対応できるようにしておく
- ☐ 作業中も定期的(例えば「朝」「午後」「夕方」等/食事や休憩と絡めるなど円滑な実施を図る)にメディックゲートで検温、視診、問診を実施する
- ※ 撮影の途中で発熱や咳などの感染症の症状があったり、何らかのリスクがある場合には、どの様な立場であっても、その状態が認知された時点で退出してもらうことがある

※熱中症対策例

- ✓ 「屋外など換気の良い場所で、フィジカルディスタンスを確保して、マスクを外して休憩する」ことを推奨すると伝える
- ✓ 「フェイスシールドの単独作業中の着用」等、過重装備で熱中症リスクを高めないように注意し、改善を促す
- ✓ 「食事をしっかりとる」「十分な休息・睡眠」が大事であること、これらをお願いすることを事前から伝えておく
- ✓ 「具合が悪くなったら、すぐに申し出てください」と、「声かけ」を適宜実施
- ✓ 「こまめな水分補給」「冷えた環境(屋外では日陰等)で休む」「塩分タブレットの摂取」を促す
- ✓ 定期的な体調チェックの際は、熱中症の観点でも確認する

食事・休憩中・トイレでの注意点

食事 ※「打合せ」「ロケハン/ロケ」に伴う「食事」については「9-02」「11-04」を参照

●可能な限り、食事提供の機会を少なくすることが大原則です。
スタジオ撮影では《食事提供時の基本原則/複数名同席の場合》のルールに従います。

- ・「手洗い後」「個別・密閉性の高い弁当提供」「可能な限り広く風通しの良い場所で」「最少人数」「最短時間」「対面しない」「2m離れる」「会話は控える」「食事以外のことはしない(携帯にも触らない)」
- ・衛生管理部の指示には必ず従ってもらう(「食事」は特に無防備で感染リスクが高い状況であると参加者全員が理解すること)

「食事(弁当・出前)」追加事項 ※「9-02」と合わせて対策してください

- ☐ 食事は各パートごと時間差として場所を分けて行う等、可能な限り分散してできる香盤・配置を予め決めておく
- ☐ 食事スペースは許容人数を設定し、対面着席を避ける為、横一列のレイアウトが望ましい
- ☐ パーティションは飛沫防止の為に有効に使用し、「区切りの中が密」になるような配置をしない
- ☐ できるだけ分散した着席となるよう誘導し、会話・打合せ、携帯電話・PCの使用をしないよう注意する
- ☐ 基本的に「個装の弁当(箸・フォーク・調味料等も個装)」を用意し、ケータリングは禁止(箸・フォーク・調味料等の共用も禁止)
- ☐ 弁当は、衛生管理部/制作部の担当者を受け、手袋着用の上で管理・提供するが原則
 - ・提供方法[例1] 衛生管理部が手袋(新品)をして一人一人に手渡す
 - ・提供方法[例2] 衛生管理部が手袋(新品)をして間隔を空けて弁当を並べ、スタッフは手指消毒の上1m以上離れて選択、衛生管理部がチェックできる状況で自ら取ってもらう(要手指消毒等、提供手順を示すを貼紙も掲示しておく)
- ☐ 食事は食事以外のことはせず極力短時間とするよう、現場で再アナウンスする
- ☐ 食事が終わったら、各自がその場所を消毒するよう依頼する
- ☐ 食食用テーブルは使用の度に衛生管理部が改めて消毒する
- ☐ 弁当ゴミを「弁当箱」「食べ残し」「箸等」に分ける「分別作業」には感染リスクがあるので、分別は控え、弁当ゴミはできるだけ一つにまとめて処理する

「飲料・菓子」追加事項 ※「9-02」と合わせて対策してください

- ☐ カフェー、スタジオのコーヒー・お茶場の設置はしない
- ☐ 飲料は500ml以下「飲み切り」のペットボトルのみの提供し、提供後は各自記名の上で各自管理とすることを徹底
 - ・ペットボトルの飲料は、衛生管理部が冷蔵庫・クーラーBOX等で管理するのが基本(30min~1hに1回消毒)
- ☐ お菓子等、共有出来る食べ物の提供はしないことが原則
 - ・提供する必要がある場合は、「管理場所・提供場所を1ヶ所に限定し」「各自が完食できる小袋サイズを準備」
- ☐ 飲料・菓子は、食事と同様、衛生管理部/制作部が、手袋着用の上で管理・提供するが原則
 - ・提供方法[例1] 衛生管理部が手袋(新品)をして一人一人に手渡す
 - ・提供方法[例2] 衛生管理部が手袋(新品)をして間隔を空けて飲料・菓子を並べ、スタッフは手指消毒の上1m以上離れて選択、衛生管理部がチェックできる状況で自ら取ってもらう(要手指消毒等、提供手順を示すを貼紙も掲示しておく)
- ☐ 「食事」「飲料・菓子」とも、差入れは基本的に受け付けられない(事前に伝えておく)

休憩中

- ☐ 回し読みによるリスク排除のため、雑誌・新聞等は用意しない
- ☐ 携帯電話・PCに触れる際は、事前に消毒する / 使用後も消毒の上「手洗い」をする
- ☐ 生花等の「贈答品」は、基本的に受け付けられない(禁止とする)ことを事前から周知しておく
 - ・どうしても必要な場合は、ビニールをかけ、消毒した上で「贈答者責任」で実施してもらう

「喫煙」

- ・「喫煙」はマスクを外すため「飛沫感染」のリスクが高く、特に注意が必要です。
 - ☐ 現場喫煙所(喫煙エリア)は、通気性・換気性の高い場所のみ設置可能とする(可能な限り「横並び」での使用とする)
 - ☐ 人数制限を設け、密集しないよう配慮する(マスクを外すため「私語は厳禁」)

正しいマスクの外し方



マスク表面には、ウイルスが付着している可能性があります。ゴムバンドのみを触って外し、マスク表面には触らないように注意しましょう。
また、マスクを触った前後は手洗い、手指消毒を行ってください。
食事などでマスクを外す際は、ジッパー袋などで保存しましょう。

トイレ

・トイレは「接触感染」のリスクが高く、特に注意が必要です。

- ☐ 事前にトイレの場所・設備・状態等チェックしておき、予め決めておいた消毒プラン通りに従い消毒を継続的に実施
- ☐ 消毒用アルコールを、「1.トイレの出入口」「2.トイレ内」にそれぞれ設置する。
- ☐ 使い捨てのペーパータオルを洗面台に設置する。
- ☐ トイレには注意喚起ポスターを張り、使用時の消毒手順を示しておく
 [使用前] 消毒をして拭く → [洗浄時] 便座の蓋を開けて水を流す →
 [使用后] ペーパータオルなどに消毒液をしみこませて、便座・蓋・鍵など触った場所を拭き取ることが基本
- ☐ トイレを使用する本人が、使用前/後に、触れる/触れた部分全てを消毒する(可能なら直接触れないようにする)
 ex. 「1.トイレのドアノブ」「2.便座」「3.トイレトペーパーホルダー」「4.ボタン」「5.生理用品入れ」「6.洗面台の蛇口」等
- ☐ 手洗いは、使い捨てペーパータオルで手を拭き、使用済みペーパータオルはゴミ箱(足で開ける蓋つきタイプ推奨)に捨てる
- ☐ トイレの洗面台での「うがい」や「歯磨き」は、衛生管理部に報告して指導の下で行う以外は禁止
 ・実施時は「うがい」のしぶきが洗面台の外に飛びださないよう注意の上、事後の消毒を徹底する等、指導に従う
- ☐ 施設の状況にもよるが、トイレにおいても可能な限りフィジカルディスタンスをとれるように調整する
 (動線確保や間隔を開けた使用制限等)
- ☐ 列が出来る場合は床面に2mのマークをつける等し、意識付けを行う
- ☐ 消毒液の配備、ポスターでの注意喚起等は必ずしっかり実施する

撤収時の注意

「搬入/搬出」も、撮影同様、最少人数にてフィジカルディスタンスの確保、換気・消毒を徹底した上で実施する。

- ☐ 定員を守り、必要であれば部署ごとに時間をズラし(待機場所で順番待ちとなる部署もある)て実施
- ☐ 情報セキュリティに注意しながら、全開放・フル換気状態で実施
- ☐ 予め香盤にも「撤収」の段取りを明記し、予期せぬ部署間重複による混乱が起きないように進行する
- ☐ 感染予防備品の「消耗品」の廃棄や、「レンタル品」「再使用品」の消毒・持ち帰りもしっかり実施する
- ☐ 「体調チェックシート(個人情報も含まれる)」の管理には特に注意して確実に持ち帰り、速やかに管理部署に受け渡す

ゴミの回収時は手袋も着用



ゴミを取り扱う場合は、マスク・フェイスシールド(orゴーグル)に加え、手袋を着用してください。
 また手袋を外す際は、手首から裏返すように外し、素手で表面を触らないようにしてください。

マスク・フェイスシールドの廃棄



使用済みマスクには、ウイルスが付着している可能性があります。表面や内側に触れないようにマスクを外し、各自で小ビニール袋に入れて封をし、大袋にまとめて捨ててください。
 また、ゴミ袋の処理時はマスク・フェイスシールド(orゴーグル)・手袋を着用し、体から離してゴミ袋の封は開けてください。ゴミ袋を現場で捨てず持ち帰る場合は袋を二重にしてください。

● スタッフ部署ごとの確認・準備

衛生管理部監修のもと、撮影に向けた対策を事前から共有し、協力・実施していただきます。

全部署共通

- ☐ 衛生管理部の指示に従い感染予防を実施
- ☐ 可能な限り遠隔チェックを検討する
- ☐ 部署ごとに最少人数・最短時間で実施できるよう「時間厳守」を確認し、事前に段取りや狙いを絞り込み共有しておく
- ☐ 当日、参加スタッフに体調不良が発生する可能性を考慮し、必要に応じ代替スタッフを決めておく
- ☐ 時間差作業・各部署専用スペース使用・決められたモニターのみでの確認・トランシーバー使用等高唱を避けコミュニケーションする等、予め決められたルールを順守
- ☐ スタジオに入る者は全員メディックゲートを通り、随時の「体調チェック」「参加可否判断」への協力を確認
- ☐ マスク着用(場合によりフェイスシールドやゴーグル)を徹底し、体調に問題が生じた場合以外では自分の判断で外さない
- ☐ 手洗い、手指消毒、自己の物品消毒を励行する
- ☐ 食事、トイレは感染リスクが高まることをよく理解し各人が気を付ける
- ☐ 各部署・各人が持ち込む各種機材・道具(不必要な道具は持ち込まない)は、基本的に担当部署・担当者しか触らず、担当部署ごとに消毒する
- ☐ 貸与された「トランシーバー」含め「ペン・紙」等の共用・使いまわしはせず、ペーパーレスに努める
- ☐ 演技・演技指導・メイク等で絶対必要な場合を除き、「他者には触れない」を徹底
- ☐ 特に、飲みカット・食べカット・シズル・化粧シーン等「口に入る表現」「肌に触れる表現」がある場合は、必ず事前に個別の対策を練って安全な方法を確立して現場に臨む
- ☐ 「無理をせず休む」ことを念頭に、熱中症も含め現場で不調を感じたら衛生管理部に必ず申し出て、指示に従う
- ☐ 技師・チーフの方だけでなく、助手の方々にも対策遵守を徹底してもらう

得意先とのコミュニケーション

- ☐ 「リモート」を基本とするが、必要に応じ最少人数・最短時間で「リアルに参加」
- ☐ 得意先チェックの事前に「決めてもらうべきポイント」や「選択肢(提案タイプ数等)」を充分絞り込んでおくことに、プロデューサーは従来以上に留意する
- ☐ 「リモート」の場合、得意先にリモート等に関する「ルール」「方針」がある場合は可能な限り尊重する
- ☐ 撮影立会「リアル参加」の場合は、基本的に別室等の得意先専用スペースでのモニターチェックとなる
- ☐ 撮影立会「リアル参加」人数は、クライアント、営業、CR共に、最小人数(ex. 各1名)にて実施
- ☐ 出演者に触れることは、握手等も含め控えていただく(出演者のサインも極力避けることを推奨するが、実施の場合は消毒したビニール等の包装に色紙を入れ、消毒したペンと共に渡して、サイン後は袋に戻してもらい受け取る)

演出部

- ☐ 過度な接触・出演者同士が近い距離となる等の「3密な演出」は極力避け、事前に対策が練られた方法以外では実施しない
- ☐ 出演者・エキストラ含め「撮影参加者」の絶対数を減らす等、感染予防対策の実施について理解・協力してもらう
ex. 出演者が複数の場合でも「出演者同士の距離をできるだけ離す」為に「カット割」「アングル・レンズ」等を工夫する必要があり、立ち位置や動きなどを決める間は、出演者間に衝立等を置くことにも協力してもらう
(準備中のみ設置の場合と、設置したまま撮影して編集・消込の場合とが考えられる)
- ☐ 演技指導等で他者と2m以内に近接する場合は「マスクに加えフェイスシールド(orゴーグル)」を着用

撮影部/特機部/照明部/VE・DIT/録音部/美術部/仕掛け/車両部..

共通

- ☐ 感染リスクを防ぐため、助手は最小人数にし、専門が異なる場合はイン・アウトの時間を各助手ごとに決める
- ☐ 担当部署しか機材・備品に触れず、扱う場合はマスクに加え手袋着用を推奨
- ☐ 車両搬入時に機材・備品等の収納ケースを消毒する
- ☐ 機材・備品等は使用前後に消毒、機材の共有を避け、消毒は小まめに行う
- ☐ 感染対策・最少人数化に見合った適切な機材量・美術セット・使用日時を予め計画する
- ☐ 作業中に他者と2m以内に近接する場合は「マスクに加えフェイスシールド(orゴーグル)」を着用

撮影部/照明部/VE・DIT

- ☐ カートやケース、テープなど撮影部の所有物は、撮影部スタッフのみが取り扱うようにする
- ☐ カメラアングルやレンズ、撮影手法などにおいて、従来以上に出演者の安全面に配慮する
- ☐ カメラマンとフォーカスマンの距離が取れるよう、可能な限りリモートフォーカスを用意
- ☐ 箱馬やスタンドなどは照明部専用のものを用意し、他部署スタッフの利用は控えてもらう

録音部

- ☐ マイクはラベルをして各役者専用にし、可能な限り出演者本人に着けてもらう
- ☐ 可能な場合には、ブームマイクのみで録音する
- ☐ マイクやトランスミッターは、使用の前後に消毒用アルコールで消毒する
- ☐ 消毒が困難な取り付け部品などは交換する
- ☐ ヘッドホンやイヤホンはできるだけ使用するスタッフ(演出・クリエイティブ)が各自用意して、機器の共有を避けるようにする
(難しい場合は都度消毒を徹底)

美術部/仕掛け

- ☐ 飾り込みなどの準備日とバラシ日には、ロケ施設の消毒作業を求められる可能性があることに注意する
- ☐ 美術セットはスタジオに対して従来より余裕のある入れ込みとする
(状況に応じ「大きめのスタジオ」とするが「セットを小さく」するか判断)
- ☐ 建込、撤収など、大道具、塗装、装飾スタッフが一緒に作業することないよう、交代できる時間の余裕を作る
(必要であれば、準備日を追加する)
- ☐ 出演者が持つ小道具に関しては、スタイリストとも相談して担当を決めておく
- ☐ 仕掛けスタッフも出演者等に触れたり近距離で作業する場合はスタイリスト・ヘアメイク同様に要注意
- ☐ 「着ぐるみ」を使用する場合は事前に消毒(直前3日以上誰も触れないことが望ましい)し、関係者以外は触らない
- ☐ 消えモノは専門の担当者をおく

車両部

- ☐ 車内でもマスク着用を義務付け、会話は避ける
- ☐ 車両 1 台あたりの乗車人数を制限し、車外の目立つ場所に「乗車〇人まで」と乗車人数を明記する。
ex. 制作車、機材車については、ドライバー以外に 1 名のみ乗車可とする
- ☐ 車両運転手は、人が降車するたびに座席やハンドル(運転手が替わる場合など)ははじめ車内外の消毒を徹底して行う
- ☐ 可能ならば、1車両の担当運転手を一人に定め、飛沫感染予防のため、待機中のドライバー同士の交流も極力控える
- ☐ 換気のため常時対角に窓を開けておく
- ☐ 車両に関しては「11-03」ロケーション時の注意も参照

出演者への対応(出演者/スタイリスト/ヘアメイク..)

基本

- ☐ 衛生管理部(メディック部)と出演者周辺の注意点について事前にしっかり打合せし、体制を整備
- ☐ 食ベカッ、飲みカッ、商品手持ちなどの予定がある場合は必ず早めに対策し、実施する
- ☐ 着替えやメイク等作業前後には、出演者も含め手洗い(難しければ手指消毒)を励行する
- ☐ 出演者に近づく場合はマスクに加えフェイスシールド(orゴーグル)を必ず着用
(スタイリスト、ヘアメイクだけでなく、ディレクター・録音部・シズル..等カメラ前スタッフも必須)
- ☐ マスクやフェイスシールドを着着中であっても、作業上必要のない会話は可能な限り慎む
- ☐ 必要無く出演者に触れることは厳禁(得意先も握手等は回避、サイン等も「その場でもう」ことはせずまとめて別途実施)
- ☐ 出演者に触れる作業の際は、手袋を使用。手袋は一回毎に新品に交換
(手袋が装着しづらい状況であれば、接触直前に必ず手洗い・手指消毒を行う)
- ☐ 担当部署しか衣装・道具・備品に触れず、扱う場合はマスクに加え手袋着用を推奨
- ☐ 車両搬入時に衣装・道具・備品等の収納ケースを消毒する
- ☐ 衣装・道具・備品等は使用前後に可能な限り消毒、共有を避け、消毒は小まめに行う
- ☐ 出演者の私物(衣装・装身具・メイク道具)の使用は、出演者による完全セルフスタイリング&メイクの場合を除き、原則避けるようにする

・「出演者の方に不用意に接触しない」「自分の判断でフェイスシールドやマスクを外さない」ことを徹底。
 多くの目で「見られている」ことを忘れずに。(※フェイスシールドは自分を感染リスクから守るものでもあります)
 ・技師の方だけでなく、助手の方々にも対策遵守を徹底してもらいます。

[控室について]

- ☐ 控室内に入るメンバーを最小人数にするため、事前にキャスティング及び関連スタッフと協議しておく
- ☐ 控室・衣装部屋・メイクルームは可能な限り換気の良いところとし、必要に応じて透明パーティションなども活用
- ☐ 人数に応じた広さの控室を準備する
 ex. 12坪の控室の場合、「12-03」の式「坪数÷1.5坪×0.3≒入室最大人数」を適用すると2～3名が定員となる
 →控室でのスタイリング、ヘアメイクのスタンバイがスペース上困難な場合、別室、メイク車・衣装車の準備を検討
 (タレント以外の場合、可能であれば屋外でのメイク作業も検討する)
- ☐ 控室では、密閉空間にならないよう、出入り口や窓を開放し、常時換気状態をつくる
- ☐ 密閉された場所での待機(ロケバス、メイクバスでの待機等)が長時間になる場合は、可能な限り別途待機場所を用意
- ☐ 控室には基本的にスタイリスト・ヘアメイク・出演者・出演者事務所関係者以外の入室はしないようにする
- ☐ 控室に同時に入る人数を可能な限り最小限にし、必要に応じて入れ替え制にて対応
- ☐ 「マスク」「フェイスシールド(or ゴーグル)」「使い捨て手袋」「消毒液」を控室内に用意し、出演者他にも使用を依頼する
- ☐ 必要であれば控室用として大型プリントの「コンテ」「番盤」を貼り出すようにする(個別用出力は極力控える)

スタイリスト/ヘアメイク

出演者と近い距離で作業を行うため、細心の注意が必要。「必要最低限の接触」とするよう努めてもらいます。

【共通】

- ☐ 感染予防対策に関しては、衛生管理部の指示に従って実施する
- ☐ 作業前後には、必ず手洗いを励行する
- ☐ スタイリスト、ヘアメイク(アシスタント含め)には消毒用アルコール(手指用・モノ用)を配布
- ☐ 衣装スペースとヘアメイクスペースが共有の場所となる場合は、一旦換気してスタイリスト/ヘアメイクが交代して着替え/メイクを行う

【スタイリスト】

- ☐ 衣装に触れるのは基本的に衣装・スタイリスト部のみとする
- ☐ 衣装を扱う際、出演者のスタイリングの際は、マスクに加え、フェイスシールド(orゴーグル)、手袋を着用(手袋は都度交換)
- ☐ 衣装や装着具は、新品もしくはしっかりクリーニングがされていることを確認する
- ☐ 衣装や装着具は、可能であれば使用前の3日間は誰も触れずに保管しておく(ウイルスが死滅する期間)
- ☐ 着替えはできるだけ出演者 1 人ずつ行うようにする
- ☐ 眼鏡や宝石・アクセサリなどは、使用するたびに消毒する(適切な消毒液を用い、傷傷しない程度とするよう注意)
- ☐ 衣装等を日をまたいで使用する場合は、日光を当てなるべく風通しの良いところで保管する
- ☐ 衣装の搬出入は、出演者別に衣装をひとまとめにして袋詰めする

【ヘアメイク】

出演者と最も近い距離で作業を行うスタッフです。極力「必要最低限の接触」とするよう努めてもらいます。出演者に感染させないだけでなく、自らの感染リスクを低減する為にも、細心の注意が必要です。

- ☐ マスクに加え、フェイスシールド(orゴーグル)、手袋を着用(手袋は都度交換)
- ☐ 出演者、スタッフともに支度前後に手を洗う(出演者の顔に触れる場合は、特に念入りに手洗いを)
- ☐ メイク時、キャスト間の座り位置を 2m以上離すか、パーティションなどで遮断
- ☐ 出演者のヘアエクステンション、装着具、被り物は、なるべく新品を使用(どうしても中古使用となる場合は、しっかりとディープクリーニングを依頼する)
- ☐ 肌に触れるメイクツール(アイライナー、アイブローブラシ、パフ、リップブラシ等)は新品を用意し使用
- ☐ パレットをはじめ、使い捨てのメイク道具、ヘアブラシ、櫛の使用を心掛ける
- ☐ 使い捨てではないものはキャスト毎に準備し、出演者間で同じものを使用しない(その上で適切な消毒液を用いて使用後すぐに消毒する)
- ☐ メイク中、可能な場合(アイメイクやヘアセットの間等)は出演者にもマスクやフェイスシールドを着用してもらう(可能なら跡のつかない「紐式のマスク」「眼鏡式等のフェイスシールド」を使用)
- ☐ 必要最低限の接触に努め、直しの作業は最小限にする
- ☐ メイクの対象者も可能な限り最小限にする(ex. 可能な限り、子役やスタンドイン・代役のメイク・ヘアセットは控える等)
- ☐ 可能なならば、スタッフによるメイク自体をなくす事も検討(出演者自身による完全「自前メイク(メイクやヘアセット用の道具も私物)」とする等)
- ☐ マッサージは原則禁止

出演者関連

キャストやマネージャーの検温と体調把握を必ず行い、体調不良の方は参加を控えるよう周知徹底する。

- ☐ 衛生管理者の指示に従い感染予防を実施
- ☐ 感染予防対策上リスクの高い出演者（高齢の人、基礎疾患を持つ人、妊娠中の人）の参加がある場合は、事前に対策を立て、十分に配慮する
- ☐ 出演者（エキストラ含む）・出演事務所関係者も「参加者」として検温と体調確認を徹底し、体調不良の場合「参加可否判断」の上、帰宅の判断もある
- ☐ 「参加者」として、マスク、フェイスシールド(orゴーグル)着用、手洗い・手指消毒徹底等のルールを遵守する
- ☐ 出演者は着替え・メイク、リハーサルや本番等、他スタッフと近接する前後には必ず手を洗う
(接触がある場合は特に念入りに)
- ☐ スタンドインを入れてのチェック時は、スタンドインにもマスクとフェイスシールド(or ゴーグル)を着用してもらう
- ☐ 子役への感染予防備品提供については、メディックとよく相談し、マスクの着用の可否や、キッズサイズのマスク・手袋・フェイスシールド等の用意を検討する
- ☐ 未成年出演者の場合等で保護者と共に参加する場合は、必要不可欠でない人を参加させないよう予め注意しておく
- ☐ 特にタレント関連では「感染予防対策」についても、担当プロデューサーが担当営業・キャストと密に連携をとる

[エキストラ等、多数の出演者が参加する場合]

撮影時や待機時に「1 m以内に15分以上共にいる『密な配置』」があって、1名感染者が出た場合、「濃厚接触者」を複数出してしまう、という「大きなリスク」があります。

ex. 多数のエキストラのうち1名が感染者であった場合、メイン出演者が「濃厚接触者」となるリスクがあります。

…「大人数」による現場の「3密」には大きなリスクがあることを忘れずに進行する必要があります。

- ☐ 出来る限り人数を少なくし、現場での接触時間を減らす
(JACガイドラインでは当面は「1日の延べ参加者：100名以下」とすることを推奨)
- ☐ 企画・演出の時点から出演者同士の距離をできるだけ離すために、カット、カメラアングル・レンズなどを工夫しておく
- ☐ 場合により「別撮り→合成」として、時間差でスタジオインしてもらうことも検討
- ☐ 立ち位置や動き等を決める間は、出演者たちの間に「衝立」を設置することを検討する
(準備中のみ設置の場合と、設置したまま撮影して編集・消込の場合とが考えられる)
- ☐ 大人数の場合、待機中も自由に動き回ると密室・密接・密集が発生しやすい環境となるので、待機場所でのテーブルと椅子の配置自体を十分な距離が保てるようにしておく等、予め構造から対策しておく
- ☐ 大人数の待機場所は可能な限り密閉された場所での待機とせず、フィジカルディスタンスが保てる場所を用意する
(屋外も活用を検討)
- ☐ 会話やコミュニケーション・交流は極力控えてもらい、ペンや持ち物の共有が待機場所でききないように予め注意しておく
- ☐ 撮影準備中は、その都度、待機場所に移動してもらう等、接触時間を減らす進行とする

従来の「逐次指示型」から、「発注→UP型」へ

ポストプロダクション業務の進め方は、withコロナを契機に変革します。

プロデューサーはポストプロダクション業務について、下記に従来以上に留意します。

- 実施すること(実施内容や作成タイプ数)を事前から決め、Dir.や得意先とも握っておく。
 - 得意先チェックの事前に「決めてもらべきポイント」や「選択肢(提案タイプ数等)」を充分絞り込んでおくこと。
- ※「CG発注→チェック」の進め方と近くなりますが、実施方向が拡散しないよう、より狙いを絞ってこれを進めます。

リモート業務の実施

ポストプロダクション業務は3密になりやすいので、可能な限り「リモート」で実施するのが基本です。

- 「仕込み作業」は、基本的に「お任せ作業」+「要所で『ファイル送り』(or 必要に応じリアルタイムリモート)」
- Dir.による逐次指示が必要な作業の場合でも、可能な限り画面共有等により「リアルタイムリモート」で進行する
- 得意先の確認が必要な場合でも、「『ファイル送り』(or 必要に応じリアルタイムリモート)」とすることが基本(試写も同様)
- ファイル送付等によるチェック期間には余裕をもって「1日」単位でスケジュールを予定しておく

リアル参集する場合の注意点

どうしてもリアルに参集しての「逐次指示」が有効となる(リモートでは時間がかかると想定される)場合は、「最少人数」「最少時間」で、リアルにポストプロダクションに集まり、効率的にチェックを実施します。

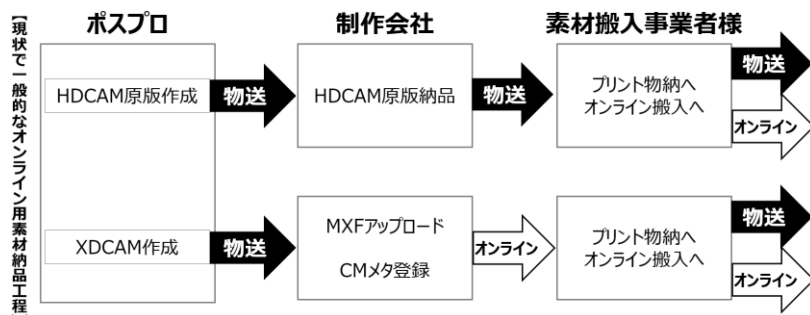
- 「Dir.のみ」「Dir.+PM」「Dir.+PM+広告会社CR」「Dir.+P/PM+広告会社CR/BP+広告主」等で、どのリアル参加パターンが最も有効となるか、リモート参加との組合せは有効か、等を検討して実施
- 「09-01」に準じ、「最少化」「参加可否判断」「フィジカルディスタンス」「感染予防備品の使用」「消毒・換気」を、ポストプロと協働して実施する
- 事前に使用ポストプロの感染予防対策方針(「検温」「消毒」「換気」の方法や「情報セキュリティ」面の安全措置について)確認しておく
- 各ポストプロダクションの人数規定を遵守し、場合により「入替」も実施して最少人数にとどめる
(ex. 「同時・同所に3～5名以下」が目安)
- どうしても「人数規定」以上の同時参加が避けられない場合は、ポストプロダクション担当者と相談し、ポストプロダクションの別の部屋(会議室等)に分けて、別モニターを視聴してリモート参加とすることも検討する
- できる限り、換気が可能な広い編集室で、ドアは極力開放することを推奨
- 常時開放状態にできない場合は、2～30分毎に開放による換気を行うようにする
- 食事・飲料・菓子は提供しないことが基本(必要な場合は「09-02」に準じて実施)

withコロナにおけるTVCM素材の納品遅延の可能性について

withコロナにおいては、突発的な事態発生や情勢に応じた在宅業務促進等の影響により、TVCM素材の納品においても「遅延リスク」への懸念が議論されています。
下記に注意して、制作フェーズ・搬入フェーズの業務を安全に実施するようにしてください。

- ◆納品遅延リスクの可能性は、「プリント物納」「オンライン搬入」どちらにおいてもあり得ます。
→ 局納品のスケジュールについて、事前に広告会社担当者とリスクも含め検討し、**これまで以上に余裕をもって「充分な納期」を予定しておくことが安全・安心です。**
- ◆「プリント物納」予定の案件で、突発的に「『物納』は不可能となった」等の已むを得ない理由により、制作中途での「オンライン搬入」への変更を求められる可能性も否定できなくなっています。
→「制作中途のオンライン運用要請」は混乱を招くため、「要請しない/応じない」ことが業界慣例となっていました。今後はイレギュラーに応じていかざるを得ない場合も想定されます。
この場合、納期の変更(延長)、費用面の変更に応じて、担当者間での協議・検討が必要です。
- ◆「オンライン搬入」のほうが「リアルな物送」を伴う「プリント物納」よりも納期短縮でき安全である、という考えが主張される可能性もありますが、必ずしもそうではありませんので注意が必要です。
→**オンライン搬入においては、プリント物納にはない「素材作成・受け渡し」「原版引渡し」の工程があることを再確認して対応してください。**

現状では「素材作成・受け渡し」「原版引渡し」の工程には「リアルな物送」を伴う場合が多く、オンライン搬入を選択したとしても、全ての工程がオンライン化されているのではないことをご理解いただく必要があります。(下図参照)
平常時においてもこの工程にはプリント物納の場合より「+1日以上」かかることを、改めて理解していただく必要があります。



withコロナでの特別《対応例》

「withコロナでの特別な事情」により「オンライン搬入への切替」を求められた場合には、特例的に下記対応を検討します。

制作途中で「プリント物納」予定を「オンライン搬入」に切替えたいという要望への《対応例》

- ◆ 通常時では基本的にこれに応じることはできませんが、突発的に物納の「高リスク化」や「不可能」が現実となった場合には、充分な納期延長や搬入サポート費用変更について協議の上、下記の実施を検討します。
 - ✓ 「初号原版納品」は受けられない。(もとよりOAフォーマット作成予定の案件である為)
 - ✓ 「OA原版納品」或いは「MXFアップロード納品」のどちらかを選択してもらう。
- ◎ 「OA原版納品」の場合、物納リスク回避の必要から、下記の納品方法も選択肢となる。
 - … 「ProRes422HQファイル[DF]のOA原版」を「*アップロード納品」。
- ◎ 「MXFアップロード納品」の場合は通例通り、下記作業・費用計上費目となる。
 - … (1)MXFファイル作成、(2)CMメタ登録、(3)アップロード

既にプリント用サブマスター(総合受注時代であればプリント用原版)が作成されている案件で「プリント物納」予定を「オンライン搬入」に切替えたいという要望への《対応例》

- ◆ 充分な納期や搬入サポート費用について協議の上、下記の実施を検討します。
 - ✓ 「初号原版納品」は受けられない。(既にOAフォーマットのサブマスター又は原版がある為)
 - ✓ 「OA原版納品」或いは「MXFアップロード納品」のどちらかを選択してもらう。
- ① HDCAM-SR(長尺OAフォーマット)サブマスター又は原版が既存・保管中(下記②③はない)の場合
 - ◎ 「OA原版納品」の場合、物納リスク回避の必要から、下記の納品方法も選択肢となる。
 - … 「ProRes422HQファイル[DF/長尺]のOA原版」を「*アップロード納品」。
 - ◎ 「MXFアップロード納品」の場合は通例通り、下記作業・費用計上費目となる。
 - … (1)MXFファイル作成、(2)CMメタ登録、(3)アップロード
- ② XDCAM (長尺OAフォーマット)サブマスターが既存・保管中の場合
 - ◎ 「OA原版納品」の場合、物納リスク回避の必要から、下記の納品方法も選択肢となる。
 - … 「MXFファイル[DF/長尺]のOA原版(既存・作成費用なし)」を「*アップロード納品」。
 - ◎ 「MXFアップロード納品」の場合は通例通り、下記作業・費用計上費目となる。
 - … (1)MXFファイル作成、(2)CMメタ登録、(3)アップロード
- ③ XDCAM (短尺OAフォーマット)サブマスターが既存・保管中の場合
 - ◎ 「MXFアップロード納品」を推奨。 ※ (1)MXFファイル作成の必要はない。
 - … (2)CMメタ登録、(3)アップロード

※「OA原版を*アップロード納品」する場合:

「OA原版ファイル アップロード費」を「搬入サポート見積(制作費とは別途)」で計上
 ([比較]: 上記《対応例》にはないが、「初号原版ファイル アップロード費」は制作費で計上)

16⁻⁰¹ 見積の考え方

制作過程には「密閉」を避け難い業務が多数あります。withコロナ制作業務の実施にあたり、企画フィジビリティを検証し、可能な限り「リモート作業」への切替え・あるいは参加スタッフを「最少人数」に限ってシンプルな業務とし、また段取りや決済プロセスを事前に明確にして、より一層の効率的な進行を目指します。

✓ 新型コロナウイルス感染予防策の実施においては、従来より物理的にコストがかかる可能性も生じます。

下記は3つに大別されます。

- 【感染予防関連費】①のみは、従来になかった新たな対策費用であり、独立してまとめ「その他制作費」で計上します。
- 【withコロナ制作費】②～⑥は従来より定められた「制作費の各費目」での計上となります。withコロナの影響下での従来とは異なる要請に応じた「新しい制作費の在り方」です。
- 【キャンセル費】⑦は突発的な事情でキャンセルがあった場合のみの計上となります。

撮影(スタジオ/ロケーション)などを中心とした対策

① 衛生管理部(メディック部)を起用した対策実施 [感染者・濃厚接触者の参加可能性低減/感染予防]

- 「感染予防管理責任者(またはメディックが兼務)」「感染予防管理担当者(人件費追加)」をおき、現場参加を実施する。下記「メディック」「衛生管理PA」を任命して感染予防策を実施させ、「参加可否」などの重要な判断を担う
- 「メディック」「衛生管理PA(衛生管理部補助業務)」の起用現場参加を実施。監修費・人件費が追加となる
- 「救急キット(後述)」「感染予防キット(各種消毒液など消耗品後述)」の費用が追加となる
- 参加者への「PCR検査」「抗原検査」等が必要・有効として求められる場合は、検査費用が追加となる(検査から判定迄のスタッフ拘束費用も追加となる場合もある→検査から判定迄短期間で実施できる施設が必要)

②「密閉」対策：換気の実施 [感染拡大予防]

- 換気のための時間が必要…「スタッフ拘束時間」「レンタル時間」が長くなる可能性がある
- 複数の換気用機材が必要になる可能性がある(サーキュレーター・扇風機など)

③「密集・密接」回避：フィジカルディスタンスの実施 [感染予防/濃厚接触者発生抑止]

- 「広いスペース」「多くのスペース(待機用/チェック用など)」「多くの車輛」などが必要になる
- 「入替作業」が必要な場合は「スタッフ拘束時間」「レンタル時間」が長くなる可能性がある(ex.1日→1.5日)
- 「密集・密接」カット撮影では、モーションコントロール(別撮)やパーティション、編集時に合成・消込が必要な場合がある。
- 複数のスペースへ個別の機材配備が必要な場合がある(チェック用モニターなど)

④ 施設、レンタル機材、購入小道具・衣装・メイク道具などの消毒対策実施 [感染予防]

- ロケーションなどで使用する施設の大規模な消毒に費用がかかる可能性がある
- 飲みカット・食ベカット等の為の消毒について、準備や本番時に時間を要し、費用がかかる可能性がある
- 消毒済の物品の手早い交換・使用のため、消毒済あるいは新品の機材・小道具・衣装・メイク道具をダブル/トリプルで用意し、追加費用となる可能性がある

バスプロなどを中心とした対策

⑤ リモートチェックの実施 [感染リスクの排除]

- Dir.や広告会社、広告主への「オフライン編集」「グレーディング」「オンライン編集」「MA」などのリモートチェックにより、作業時間が長くなる可能性がある
- 有料のリモートサービスを使用する場合は追加費用がかかる

ダブルスタンバイ

⑥ 制作業務中断リスク回避のための予備的なダブル(トリプル)スタンバイの実施

- 「スタッフ(Dir.、制作チーム、撮影スタッフ、エディター)」「出演者」「施設(スタジオなど)」など追加の可能性

●「感染予防関連費①」は撮影規模の大小に応じて必要となる費用であり、効率化には撮影実施規模縮小が求められます。

●「withコロナ制作費②～⑥」は、企画内容や(特に⑥は)リスク軽減の考え方により変わり得る費用であり、効率化には、企画自体の内容・タイプ数をどうするか、どのレベルまでの感染予防対策を実施で済ませることができるか、発注者と検討する必要があります。

→ これらについて、事前の「企画方針・制作方針策定打合せ」で確認し合意してスタートすることが必要になります。

※ 巻末資料 ① プライズ表・見積例を参照

感染予防関連費

※ 巻末資料 ② プライズ表・見積例を参照

withコロナ制作費

目的と
ポイント

業務再開

前提

5つの
アクション

衛生管理部
の創設

受注

企画
～
プレゼン

スケジ
ュール

スタッフ
インテュ

移動/打合せ
/食事

キャス
ティング

ロケー
ション

P
P
M

撮影

ポスト
プロダク
ション

搬入
サポート

見積
01

16⁻⁰²

見積の考え方

✓突然の感染発生により、キャンセル費用が生じる可能性があります。

キャンセル費

- ⑦ 制作業務が突発的に中断となった場合の、既に準備していた部分のキャンセル
- 「スタッフ」「出演者」「機材」「美術」「施設(スタジオなど)」「車両」「交通・宿泊」などのキャンセル費がかかる可能性

✓感染予防対策に伴うバックオフィス経費増は、取引見積の「プロダクション管理費」の考え方で補っていきます。

※ 制作会社に業績上のダメージがある場合には、支払い条件の変更(例えば受注時に50%前払い)等について、受発注双方で柔軟な対応の検討が必要になることも考えられます。

目的と
ポイント

業務再開

前提

5つの
アクション

衛生管理部
の創設

受注

企画～
プレゼン

スケジ
ュール

スタッ
フ

打合せ/
移動/食事

キャス
ティング

ロケ
ーション

P
P
M

撮影

ポスト
プロダク
ション

搬入
サポート

見積
02

巻末資料

- P001～002 **(1)感染予防関連費 プライス表・見積例**
- P003～009 **(2)withコロナ制作費 プライス表・見積例**
- P010～011 **(3)仕様書**
- P012 **(4)リアル業務参加者へのお願い文書例**
- P013 **(5)体調チェックシート例**
- P014 **(6)撮影香盤表例**
- P015 **(7)スタジオ内配置例**
- P016 **(8)現場掲出注意喚起ポスター一覧**
- P017～035 **(9)制作業務感染予防マニュアル**

14 その他制作費

カテゴリ	費目	備考/説明	旧プライス	→	新プライス
14 その他制作費	◎ 感染予防関連運費				
	○ 感染予防関連人員費 「衛生管理部(ディック部)」を構成するスタッフの人員費。「医療従事者スタッフ」の「ディック」、「制作会社スタッフ」の「セフトイフサイー」「衛生管理PA」に大別される。 ※「衛生管理部(ディック部)」:「ディック」と「セフトイフサイー」は連繫(または単独で)、「衛生管理PA」をアシスタントにして、撮影等の現場で部署担当業務を遂行する。				
	「ディック」とは ※ 看護師などの資格を持つ医療従事者スタッフ。専門の知見をもって必要に応じ企画段階から制作業務の設計に参画し、撮影等の現場に参加する。 ディックは現場参加者の参加可否について医療面から判断し、プロデューサーは案件全体の責任者としてこの医療判断を尊重し(場合により社判断も仰いで)実施する。 ※ ディックが担当する主な業務は次の通り。 「感染予防策提案・監修・現場指導」「検温・体調確認の実施ー医療面からの参加可否判断」「体調不良者が発生した場合の応急対応・病院手配」「ディックゲートの現場設置・運営」「救急キット、感染予防キット、注意喚起ボタン等などの手配、現場配備」「スタッフへの3密回避の継続的指導」「現場消毒の作業事前・作業中の継続的実施」「飲みカト、食べカト等特別対応がある場合の実施指導」				
	● ディック人員費 ※ ディックが撮影前日R、R、R、R等に参加する場合にかかる人員費				
	ディック(看護師)	・1hあたり	NEW	→	0～/人・h
	チームディック	・日当(10h迄)	NEW	→	0～/人・日
	チームディック(オーバータイム)	・1hあたり	NEW	→	0～/人・h
	アシスタントディック	・日当(10h迄)	NEW	→	0～/人・日
	アシスタントディック(オーバータイム)	・1hあたり	NEW	→	0～/人・h
	● ディックアドバース費 ※ ディックや医師から、「事前の撮影等制作業務実施段取り・感染予防策」「撮影等現場での判断」について、リモート等でアドバイスを受ける場合に発生する費用。				
	ディックアドバース費	・1案件につき (重要度、内容による)	ディックが対応	NEW	→ 0～/件
			医師等専門家が対応	NEW	→ 0～/件
	● セフトイフサイー(制作会社の感染予防管理担当者) ※ ディックと同程度に「感染予防管理業務」を実施できる制作会社スタッフが、「感染予防管理担当者」の立場で撮影等の現場に参加する場合の人員費。 ※ ディックと連繫し(またはディックが不在の現場でも)「衛生管理PA」をアシスタントにして「衛生管理部(ディック部)」を形成し「問診」等を除きディックと同様の業務を担う。 ※ とくにスタッフへの「医療面からの参加可否判断(リモートの場合もある)」をディックから受けた際は、安全を第一として判断を尊重し、この判断を現場の責任者であるプロデューサーに進言・勧告する役割を担う。				
	セフトイフサイー (感染予防管理担当者)	・日当(*8h基準)	NEW	→	0～/人・日
	● 衛生管理PA(衛生管理プロダクションアシスタント) ※ ディックやセフトイフサイーのアシスタントとして現場に参加し、専任でディック部の業務を担う制作会社PAの人員費。				
	衛生管理PA(プロダクションアシスタント)	・日当(*8h基準)	NEW	→	0～/人・日
	○ 感染予防備品・設備費 ディック部の業務に必要な「備品」「消耗品」の費用。また、現場に設置するディックゲートの規模が大きい場合はその設備・設置の費用をここで計上します。				
	● 救急キット ※ ディックが検温・体調確認・応急対応等の為に使用する備品キット。計測機器各種、応急救急処置セット等を案件に合わせ各種多数を準備・持参する。				
	救急キット	・1キット、1日あたり	NEW	→	0～/キット・日
	● 感染予防キット ※ 消毒・清掃・注意喚起等の為の下記等消耗品一式のキットです。(～20名目安) マスク、フェイスシールド、ビニール手袋、アルコールスプレー、手指消毒液、次亜塩素酸ナトリウム液、ハンコソープ、ペーパータオル、養生テープ、パーティション、ゴミビニール袋、ジップロック、注意喚起ステッカー等				
	感染予防キット	・1キット(～20名目安)	NEW	→	0～/キット
	● 感染予防備品(消耗品) ※ 下記は主要な消耗品です。人数・規模・内容により、上記「感染予防キット」に追加します。				
	物・手指用アルコール消毒液 (アルコール濃度70%以上)	・500MLにつき ※現場では～200ML小分け(10～20)配備	NEW	→	0～/本
	手指消毒液(ベンザルコニウム塩化物) (アルボナース等)	・1Lにつき ※現場では～200ML小分け(5～10)配備	NEW	→	0～/本
	物用消毒液(次亜塩素酸ナトリウム) (ヒューラックス、ハイター等)	・600MLにつき	NEW	→	0～/本
	サージカルマスク(不織布マスク)	・1枚につき	NEW	→	0～/枚
	フェイスシールド	・1枚につき	NEW	→	0～/枚
	● 感染予防備品(レンタル) ※ 撮影等現場のコンディションにより、必要や要望があった場合に使用します。				
	サーキュレーター(換気用)	・1日あたり	NEW	→	0～/台・日
	● ディックゲート等設備費 ※ 現場入場の際の「検温・問診」ゲートであり、ディックの基地となる「ディックゲート」の設備・設置規模が大きい場合に計上します。				
	ディックゲート設備・設置費	・1件につき	NEW	→	0～/件
	可動式手洗いユニット	・1日あたり	NEW	→	0～/台・日
	可動式手洗いユニット(運用人員込)	・3hまで/専門の人員が設置・運用/延長費 ¥X,000/h別)	NEW	→	0～/台・日
	● ディック車両費 ※ 「ディックゲート」の設備、手洗いユニット、感染予防備品等の一式の運搬車両費です。				
	ディック車両(ワゴン)	・1日(7h)あたり ※OT等は[08][09]の「ワゴン」と同じ	NEW	→	0～/台・日
	○ 施設消毒関連費 ディック部が通常業務で対応できる規模・範囲を超える「施設の消毒」が必要な場合は、専門の消毒業者に外注して例えば04地等の消毒を実施します。				
	施設消毒費	・消毒1坪あたり	NEW	→	0～/坪
	○ 諸掛(交通費、送料、通信費、その他雑費) ※「交通費」:ディック等が現場参加する場合の公共交通機関や場合によりタクシー代等の実費等 / 「送料」:ディック等が感染予防備品を送る場合の送料等				
	交通費	・規模・内容による			規模・内容により実費を計上
	備品送料	・規模・内容による	NEW	→	0～
	● 検査費 ※ PCR検査や抗原検査が渡航条件・ロケーション使用条件等により必要とされる場合の費用です。(検査一結果迄のスタッフ拘束費用は「制作人員費」で計上)				
	検査費	・PCR検査」「抗原検査」等:規模・内容による	NEW	→	0～

「感染予防関連費」見積例

※「14」の記載事例は想定される一例です。リアル集合がある業務(撮影、ロケハン等)では、その人数・作業時間・場所の条件の難度に比例する額で必ず「追加」になるものです。

科目	費目	摘要	起用スタッフ名	起用会社名	単価	数量	金額
14 その他 制作費	【感染予防関連費】 (例1) スタジオ(200坪)撮影／前日リハ(5h)×1日(30名)、撮影(12h)×1日(50名(テント1名、サブキャスト2名、広告主1名、広告会社2名))						
	ディレクター	看護師(前日リハ:1名×5h、撮影:1名×5h+1名×12h)	〇〇〇〇	〇〇医療コ-プ・イ-ター		22 人・h	
		ディレクターバイロ	●●●●	〇〇医療コ-プ・イ-ター		1 件	
	セーフティオペレーター		◇◇◇◇	〇〇ア・09*クォン			
	衛生管理PA	前日リハ:2名×1.0日、撮影:2名×2.0日	◆◆◆◆	〇〇ア・09*クォン		6 人・日	
	救急セット	ディレクター医療計測機器各種、応急救急処置セット等		〇〇医療コ-プ・イ-ター		1 セット	
	感染予防セット	感染予防消耗品各種(20名迄)×4セット		〇〇ア・09*クォン		4 セット	
	感染予防備品(消耗品)	物・手指用アルコール消毒液		〇〇ア・09*クォン			
		手指消毒液(非アルコール)×2本		〇〇ア・09*クォン		2 本	
		物用消毒液		〇〇ア・09*クォン			
		サージ加工紙(不織布入り)		〇〇ア・09*クォン			
		フェイスシールド		〇〇ア・09*クォン			
	感染予防備品(レンタル)	サーキュレーター(換気用) 15台×2日		〇〇撮影スタジオ		30 台・日	
	ディレクター等設備費	ディレクター設備・設置費		〇〇ア・09*クォン		1 件	
		可動式手洗いユニット		〇〇インテック			
		可動式手洗いユニット(運用人員込)		〇〇コ-プ・イ-ター			
その他	車両費	ディレクター車(ワゴン) 1台×1日		〇〇車両部		1 台・日	
	諸掛	交通費 ディレクター×のべ3名		〇〇医療コ-プ・イ-ター		3 名	
		備品送料		〇〇医療コ-プ・イ-ター		1 件	
	その他	施設消毒費		〇〇施設消毒			
	その他制作費					小計	

科目	費目	摘要	起用スタッフ名	起用会社名	単価	数量	金額
14 その他 制作費	【感染予防関連費】 (例2) スタジオ(100坪)撮影／撮影(8h)×1日(15名(キャスト2名、広告主1名、広告会社1名))						
	ディレクター	看護師(撮影:1名×8h)	〇〇〇〇	〇〇医療コ-プ・イ-ター		8 人・h	
		ディレクターバイロ	●●●●	〇〇医療コ-プ・イ-ター		1 件	
	セーフティオペレーター		◇◇◇◇	〇〇ア・09*クォン			
	衛生管理PA	撮影:1名×1.5日	◆◆◆◆	〇〇ア・09*クォン		1.5 人・日	
	救急セット	ディレクター医療計測機器各種、応急救急処置セット等		〇〇医療コ-プ・イ-ター		1 セット	
	感染予防セット	感染予防消耗品各種(20名迄)×1セット		〇〇ア・09*クォン		1 セット	
	感染予防備品(消耗品)	物・手指用アルコール消毒液		〇〇ア・09*クォン			
		手指消毒液(非アルコール)		〇〇ア・09*クォン			
		物用消毒液		〇〇ア・09*クォン			
		サージ加工紙(不織布入り)		〇〇ア・09*クォン			
		フェイスシールド		〇〇ア・09*クォン			
	感染予防備品(レンタル)	サーキュレーター(換気用) 10台×1日		〇〇撮影スタジオ		10 台・日	
	ディレクター等設備費	ディレクター設備・設置費		〇〇ア・09*クォン			
		可動式手洗いユニット		〇〇インテック			
		可動式手洗いユニット(運用人員込)		〇〇コ-プ・イ-ター			
その他	車両費	ディレクター車(ワゴン)		〇〇車両部			
	諸掛	交通費 ディレクター×1名		〇〇医療コ-プ・イ-ター		1 名	
		備品送料		〇〇医療コ-プ・イ-ター			
	その他	施設消毒費		〇〇施設消毒			
その他制作費					小計		

08 スタジオ撮影費（追加・新費目）

カテゴリ	費目	備考/説明	旧プライス	→	新プライス
08 スタジオ 撮影費	○ スタジオ撮影費				
	● 待機用スタジオレンタル(待機用「キープ」する場合)				
	(基本)	撮影スタジオ ○○坪	・1日単価(9:00～19:00)	設定なし	→ 0/日
	(OT)	撮影スタジオ ○○坪	・1h単価(19:00～21:00)	設定なし	→ 0/h
	● ストックルーム、控室				
		ストックルーム	・1日単価	0/日	→ 0/日
		控室	・1日単価	0/日	→ 0/日
	● 清掃 ※感染対策を考慮したトイレ、水回り等のスタジオ施設清掃費です。				
	【新】	スタジオ施設清掃費	・1日あたり	NEW	→ 0～/日

12 ホストプロダクション費（新費目）

カテゴリ	費目	備考/説明	旧プライス	→	新プライス
12 ホスト プロダク ション費	◎ 編集費				
	● リモート試写システム使用費				
	※ ホスプロからリモート試写を実施する場合の、ホスプロのシステム使用費およびサポート人員の人件費です。				
	【新】	リモート試写システム使用費 (Teams等の一般アプリ使用)	・1日あたり ・コンバータ、専用PC使用	NEW	→ 0～/日
	【新】	リモート試写システム使用費 (ホスプロ独自アプリ使用)	・1hあたり ・システム・回線使用+サポート人員	NEW	→ 0～/h
	◎ 納品物作成関連費				
	● 原版ファイルアップロード費 ※ここでは「初号原版」のみ扱います。「OA原版」アップロードの場合は「21 制作費外オプション作業費」で計上します。				
	※ ProRes422HQ等で作成したファイルを、原版として素材搬入事業者等のシステムにアップロード納品する場合にかかる費用です。				
	【新】	初号原版ファイルアップロード費	・CM1タイフにつき	NEW	→ 0/タイフ

21 制作費外オプション作業費（新費目）

カテゴリ	費目	備考/説明	旧プライス	→	新プライス
	◎ 搬入サポート関連費				
	○ 納品原版作成費（この費目では「OA原版」を扱います）				
	● 原版ファイルアップロード費 ※ここでは「OA原版」のみ扱います。「初号原版」アップロードの場合は「12 ホストプロダクション費」で計上します。				
	※ ProRes422HQ等で作成したファイルを、原版として素材搬入事業者等のシステムにアップロード納品する場合にかかる費用です。				
	【新】	OA原版ファイルアップロード費	・CM1タイフにつき	NEW	→ 0/タイフ

※ 記載事例は想定される一例であり、企画時・制作事前での検討の目安として提示しています。全て回避するのは難しいですが、必ず「追加」になるものでもなく、減らすことはできます。

科目	費目	摘要	計上追加事例(「数量」含め「例」です)	単価	数量	金額	
企 業 関 連 費	企画構成人件費						
	P〇Pのデザイン人件費	A〇Pデザイナー(1名/3日/2.0日分)	-企画のイメージ検討打合せ -ポスターの原稿提出・校閲 -印刷データ作り(機材代含む)		2人・日		
		A〇Pのグラフィックデザイナー(1名/3日/2.0日分)	-ポスター制作 -チラシ制作・一貫図案実行作業、A〇Pデザイナー作成		2人・日		
		A〇Pのグラフィックデザイナー(1名/3日/2.0日分)	-with3D対策資料収集→作成		2人・日		
	調査・資料	リサーチ(1名/2日/2.0日分)	-07候補地(with3D実施)でのインタビュー -出演者候補(with3D実施)でのインタビュー		2人・日		
	画面制作・加工	画面制作・加工(1名×3h) PCソフト利用(1台×3h)	-with3D対策資料仕上 -with3D対策資料仕上		3人・h 3台・h		
	出力	A3以下①×30枚	-with3D対策資料出力 ※出力は必要最小枚数にします		90枚		
	打ち合せ・会議	会議室(10〜25名/3h) ※7/16出席者は6名	-従来より近い会議室を使用 ※打合さは極力1日とし、7/16実施の場合は最少人数		3h		
		企画関連費			小計		
制 作 準 備 費	打ち合せ・会議	会議室(25〜35名/3h×2回) ※7/16出席者は10名	-従来より近い会議室を使用 ※打合さは極力1日とし、7/16実施の場合は最少人数		6h		
	交通						
	調査・資料	PCモニター(1名×4h) PCソフト利用(1台×4h)	-with3D対策資料仕上 -with3D対策資料仕上		4人・h 4h		
	07/16	3Dデザイナー(1名×1日)	-07候補地(with3D実施)でのインタビュー調整 -07候補地待機場所、駐車場、引手調整		1人・日		
	車両	ミニバス(1台×1日/7h以内)	-with3D対策車定員による+1台		1台・日		
		タクシー(1台×1日/7h以内)	-with3D対策車定員による+1台		1台・日		
		経理代・高速代	-with3D対策車定員による+2台分		2件		
	フォト撮影	人物撮影用ビデオカメラ3台CG作成	-近接人物撮影対応		1件		
	衣装メイク	衣装メイク(1名×1日)	-出演者候補(with3D実施)でのインタビュー -メイクアップ日程+1日		1人・日		
	会場	会場(10〜25名/6h×2日)	-会場利用にするか、7/16実施の場合+1日の可能性 ※近隣より近い会議室を候補、1日取り+1日 ※極力1日とし、7/16実施の場合は最少人数		12h		
			制作準備費			小計	
			(ダブルスタンバイ) 下記はダブルスタンバイの場合に想定される追加費用				
制 作 人 件 費	07/16	3Dデザイナー(1名×2日)	-07/16/17/18(候補地の07) -07候補地(with3D実施)でのインタビュー調整 -07候補地待機場所、駐車場、引手調整 -07/16/17/18(候補地の07)による+1日		2人・日		
	車両	ミニバス(2台×1日/7h以内)	-with3D対策車定員による+1台 -with3D対策車定員による+1台		2台・日		
		タクシー(2台×1日/7h以内)	-with3D対策車定員による+1台 -with3D対策車定員による+2台+1日分		2台・日		
		経理代・高速代	-with3D対策車定員による+1日 -with3D対策車定員による+2台+1日分		4件		
	食費	07/16時食費(10名×2食×1日)	-07/16/17/18(候補地の07)による+1日		20食		
			制作準備費【ダブルスタンバイ分】			小計	
		A〇Pデザイナー	1名/3日/2.0日分	-with3D対策PPM準備+0.5、撮影+1、 編集+1.2+0.5		2人・日	
		A〇Pのグラフィックデザイナー	1名/5日/3.5日分	-07/16/17/18(07)+0.5、編集+1.9+0.5、 with3D対策PPM準備+0.5、撮影+1		3.5人・日	
		A〇Pのグラフィックアシスタント	2名/0.5日/0.6日分	-07/16/17/18(07)+0.5、編集+1.9+0.5、 with3D対策PPM準備+1、撮影+3		6人・日	
			1名/2日/1.5日分	-07/16/17(飲み会等)準備+1.5		1.5人・日	
			【撮影のみ+1日想定(特殊対応、例えば近接演技術振等)による追加は含まない】 ※下記はアシスタント中心の追加想定(これは別に講師の追加費用の可能性もある)				
		アシスタント・イラストレーター	1名/1日/1.5日分	-撮影+1		1人・日	
	シェイクグラフィーアシスタント	1名/2日/2.5日分	-撮影準備+1、撮影+1		2人・日		
	アシスタントマネージャー(ファースト)	1名/2日/1.5日分	-撮影準備+0.5、撮影+1		1.5人・日		
	アシスタントマネージャー(セカンド)	1名/2日/1.5日分	-撮影準備+0.5、撮影+1		1.5人・日		
	アシスタントマネージャー(サード)	1名/2日/1.5日分	-撮影準備+0.5、撮影+1		1.5人・日		
	アシスタントマネージャー(フォース)	1名/2日/1.5日分×5名	-撮影準備+0.5、撮影+1		7.5人・日		
	デモマネージャー	1名/1日/1.5分	-撮影+1		1人・日		
	オーディエンスガイド(同録)	1名/1日/1.5分	-撮影+1		1人・日		
	アシスタントディレクター	1名/1日/1.5分	-撮影+1		1人・日		
	スクリプト	1名(対価増または準備人員増)	-特に衣装収集、準備の感染対策が重い場合の追加		1人・日		
	A〇P・メイク	1名(対価増)	-特にメイク道具が増加し、現場業務が重い場合の追加		1人・日		
		制作人件費【ダブルスタンバイ分】			小計		

内 訳 書 (2)

※ 記載事例は想定される一例であり、企画時・制作事前での検討の目安として提示しています。全て回避するのは難しいですが、必ず「追加」になるものでもなく、減らすことはできます。

科目	費目	摘要	計上追加事例(「数量」含め「例」です)	単価	数量	金額
04	出演者		※追加となる要素がないか検討してください			
	バックモデル					
	1人1日					
	スタンドイン					
	動物					
	フレーター					
	保険					
	出演費				小計	
	【ダブルスタンバイ】 下記はダブルスタンバイの場合に想定される追加費用／乳幼児/小中高生/高齢/基礎疾患/渡航歴を持つ出演者の場合は特にダブルスタンバイ実施検討					
	出演者	モデル(メイン) 1名			1 名	
		モデル(サブ) 1名			1 名	
	バックモデル	1名			1 名	
05	1人1日	2名×1日			2 名・日	
	スタンドイン	1名			1 名	
	動物	猫×1匹	※3種の動物には感染の可能性(9科も懸念がある)		1 匹	
	フレーター				1 名	
	保険					
	出演費【ダブルスタンバイ分】				小計	
	【撮影のみ+1日想定】 ※「一式」でおよその額を示します					
	カメラ/レンズ/付属品 一式	1台×1日			1 台・日	
	特殊機材	1台×1日			1 台・日	
	出張録音機材 一式	1台×1日			1 台・日	
	保険					
06	※感染防止対策に伴う追加費用					
	モニター/分配機/コード 等 一式	3台×2日	・カメラ/マイク/ベイス等 追加3箇所として		6 台・日	
	モーションコントロール 一式	1台×2日(準備1日+撮影1日)	・撮合など近接演技を移動別撮する場合に使用		2 台・日	
	PA/ツア/スピーカー/マイク 一式	1台×2日	・フレーター指示 飛沫防止		2 台・日	
	保険					
	撮影機材費				小計	
	【撮影のみ+1日想定】 ※「一式」でおよその額を示します					
	照明機器/関連機材 一式	1台×1日			1 台・日	
	フレーター 40kw	1台×1日			1 台・日	
	照明機材車	1台×1日			1 台・日	
	保険					
	照明機材費				小計	

内 訳 書 (3)

※ 記載事例は想定される一例であり、企画時・制作事前での検討の目安として提示しています。全て回避するのは難しいですが、必ず追加になるものでもなく、減らすことはできます。

科目	費目	摘要	計上追加事例(数量)含め(例)です	単価	数量	金額
美術費	セット制作材料(大道具)		※A・Cに対し従来より小さく入れ込むようにします			
	装飾・小道具/園芸・電飾・背景					
	小道具	持道具など+2箱	・消毒の必要から同じものを複数用意する可能性		2 個	
	小道具	透明P・テイクアウト2m×2m/バ・ラック等2m/設置加工)	・2名以上の組合など近接演技がある場合に使用		1 個	
	セット制作(セット準備・制作)	大道具製作(4名×1日)	・3密を避けながらの制作業務：従来より時間がかかる		4 人・日	
	セット制作(セット組立・撮影立会)	大道具撮影立会(2名×1日)	・撮影のみ+1日想定		2 人・日	
	装飾/小道具(セット準備・制作)	小道具収集・加工(2名×1日)	・3密を避け、消毒も業務に追加：従来より時間がかる		2 人・日	
	装飾/小道具(セット組立・撮影立会)	小道具配置・装飾・撮影立会(2名×1日)	・撮影のみ+1日想定		2 人・日	
	その他美術(セット準備・制作)	園芸(セット準備(1名×1日)	・3密を避け、消毒も業務に追加：従来より時間がかる		1 人・日	
	その他美術(セット組立・撮影立会)	園芸(セット撮影立会(1名×1日)	・撮影のみ+1日想定		1 人・日	
	特殊造型		※消毒・清掃等のため従来より時間がかる可能性			
	特殊効果/操演		※消毒・清掃等のため従来より時間がかる可能性			
	劇車		※消毒・清掃等のため従来より時間がかる可能性			
	美術資材運搬車両	トラック(1台×1日)	・撮影のみ+1日想定		1 台・日	
	解体残材処理		※消毒・清掃等のため従来より時間がかる可能性			
	カットバック 材料	カットバック 道具、食器等追加	※準備時の音紙消毒等に備品・時間がかる可能性		1 式	
	衣装	衣装、靴、帽子など+2セット×2名分	・接触→消毒の必要から同衣装を複数用意する可能性		4 人・日	
	衣装/小道具/その他保管費		※保管前消毒・バ・ラック・ラック等が厳密になる可能性			
美術費	諸掛					
	保険					
美術費					小計	
スタジオ撮影費	【撮影+1日、準備&撮影時間追加、待機場所追加、200坪(従来より建込規模に対し広め)想定】					
	セット・レンタル	建込2日、前日01日(セット1規模 +50坪)	・建込規模に対し広め(セット1使用の差額)		3 日	
	セット・レンタル(カー・タイム)	200坪 前日01 3h追加(夜)	・セット入替、換気、消毒、分在設置の為の時間追加 ・セット2(2名)は設置、セット、バ・ラック(2名)はセット、バ・ラック		3 h	
	冷暖房空調					
	使用電力	前日01 40kw×5h			200 kw・h	
	セット・1付要員	前日01 2名×3h			6 人・h	
	セット・タイム	前日01 セット待機場所	・入替時のセット待機(入・退)		1 日	
	控室					
	交通					
	車両・運搬		・機材車、制作車は定額を減らす(車検)投入は電單車(会社)			
	宿泊					
	準備諸掛	前日01 食費(夕食代支給) 30名×1食×1日			30 食	
	セット・レンタル	撮影1日(セット1規模 +50坪)	・建込規模に対し広め(セット1使用の差額)		1 日	
	セット・レンタル(カー・タイム)	200坪 撮影 6h追加(朝&夜)	・セット入替、換気、消毒、分在設置の為の時間追加 ・セット2(2名)は撮影、人物用(入・退)は撮影、人物用		6 h	
	待機用セット・レンタル	160坪 1日	・入替時のセット待機(入・退)、食事(入・退)等を使用		1 日	
	待機用セット・レンタル(カー・タイム)	160坪 6h追加(朝&夜)				
	冷暖房空調	2箱×1日			2 箱・日	
	使用電力					
	セット・1付要員					
	セット・タイム	撮影時 夕方(セット1入・退) 1室×1日	・夕方(セット1入・退)や入替時のセット待機(入・退)等を使用		1 室・日	
	控室	撮影時 出演者回り +2室×1日	・出演関係者・sty衣装部屋、夕方(セット1入・退)等を使用		2 室・日	
	交通					
	車両・運搬					
	宿泊					
	撮影諸掛	撮影 食費(夕食代支給) 50名×1食×1日			50 食	
スタジオ撮影費	セット・1施設清掃費	建込2日、前日01日、撮影1日	・感染対策を考慮したバ・ラック等(セット1施設清掃費)		4 日	
	保険	+3名分			3 名	
スタジオ撮影費					小計	
【ダブルスタンバイ】 下記はダブルスタンバイの場合に想定される追加費用						
準備	セット・レンタル	200坪 建込2日、前日01日			3 日	
	セット・タイム	前日01 セット待機場所			1 室・日	
撮影	セット・レンタル	200坪 撮影1日			1 日	
	待機用セット・レンタル	160坪 1日			1 日	
	セット・タイム	撮影時 夕方(セット1入・退) 1室×1日			1 室・日	
	控室	撮影時 出演者回り +2室×1日			2 室・日	
保険						
スタジオ撮影費【ダブルスタンバイ分】					小計	

内 訳 書 (4)

※ 記載事例は想定される一例であり、企画時・制作事前での検討の目安として提示しています。全て回避するのは難しいですが、必ず「追加」になるものでもなく、減らすことはできます。

科目	費目	摘要	計上追加事例(「数量」含め「例」です)	単価	数量	金額
09 ロ ケ ー シ ョ ン 映 影 費	【撮影+1日、待機場所追加想定】					
	ロケ地レンタル	準備2日、撮影1日(ロケーション規模…従来より広め)	-従来より広めロケ地への運搬		3 日	
		準備+2日	-消毒、周囲目隠し設置等の為日数追加		2 日	
	ロケ地設営	ロケ地周囲目隠し設営	-撮影のスケジュール実施のため		1 式	
	コマーシャル俳優	コマーシャル俳優参加 1名×+2日(準備)	-消毒、周囲目隠し設置等の為日数追加		2 日	
	航空運賃	衛生管理部(メンバー7部)+2名分	-感染対策業務実施のため		2 名	
	交通	衛生管理部(メンバー7部)+2名分	-感染対策業務実施のため		2 名	
	車両	ワゴン +3台×2日/7h以内	-感染対策のための乗車定員制限による車両台数追加		6 台・日	
		ワゴンバス +2台×1日/7h以内	-感染対策のための乗車定員制限による車両台数追加		2 台・日	
	通信連絡					
	宿泊	衛生管理部(メンバー7部)+2名×1泊、その他+3泊	-衛生管理部の追加のほか、「相部屋」回避+3泊		5 名・日	
	ロケ諸掛	食事 +2名×4食			4 食	
	保険	+2名分			2 名	
		ロケーション撮影費		小計		
10 記 録 メ タ デ ィ ア 費 ／ 変 換 費	【ダブルスタンバイ】 下記はダブルスタンバイの場合に想定される追加費用					
	ロケ地レンタル	準備2日、撮影1日(ロケーション規模…従来より広め)	-決定ロケ地と近接したロケ地をダブルスタンバイした場合		3 日	
	コマーシャル俳優		-決定ロケ地と近接したロケ地をダブルスタンバイした場合			
	航空運賃		-決定ロケ地と近接したロケ地をダブルスタンバイした場合			
	交通		-決定ロケ地と近接したロケ地をダブルスタンバイした場合			
	車両		-決定ロケ地と近接したロケ地をダブルスタンバイした場合			
	通信連絡		-決定ロケ地と近接したロケ地をダブルスタンバイした場合			
	宿泊		-決定ロケ地と近接したロケ地をダブルスタンバイした場合			
	ロケ諸掛		-決定ロケ地と近接したロケ地をダブルスタンバイした場合			
	保険					
			ロケーション撮影費【ダブルスタンバイ分】		小計	
	【リモートチェックでスタジオ時間追加】&【例えば複数人物を別撮りして素材が×2倍(になった)想定】					
	デジタルカメラ(収録カメラ)	※撮影機材費で計上	-例えば複数人物を別撮りして素材が×2倍(になった)場合			
デジタルカメラ(加工用カメラ)	HDD 2TB×1台	→通常の撮影素材量であれば追加無				
デジタルカメラ(編集素材用カメラ)	HDD 2TB×1台					
デジタルカメラ(最終保管用カメラ)						
テープ						
グレードアップ	DaVinci Resolve 別機素材追加+2h			2 h		
リスト	別機素材追加+2h	-リトによる追加は無として		2 h		
アスファルトリスト	別機素材追加+2h	-近接演技別機素材OK分が多量である場合		2 h		
デジタル現像(ワライ用)	ARRI RAW→ProRes422HQ +30min	-近接演技別機素材が多量である場合		30 min		
デジタル外現像(ワライ用)	ARRI RAW→DPX +10min	-近接演技別機素材OK分が多量である場合		10 min		
リミックス / フォーマット						
T to D / D to T						
加工作成						
レビュー用リスト	リモートワーク用ファイル書出し ワライ: 1774K(10947)×5回 グレードアップ: 1774K(10747)×3回 ワライ: 1774K(3947)×3回 MA: 1774K(3947)×2回			13 ファイル		
初号リスト						
映像レンタル デジタルカメラ等						
		記録カメラ費/変換費		小計		
【ダブルスタンバイ】 下記はダブルスタンバイの場合に想定される追加費用						
グレードアップ	DaVinci Resolve 1日			2 番・日		
リスト	1日			2 人・日		
		記録カメラ費/変換費【ダブルスタンバイ分】		小計		

内 訳 書 (5)

※ 記載事例は想定される一例であり、企画時・制作事前での検討の目安として提示しています。全て回避するのは難しいですが、必ず「追加」になるものでもなく、減らすことはできます。

科目	費目	概要	計上追加事例(「数量」含め「例」です)	単価	数量	金額
C G / ア ニ メ ー シ ョ ン 関 連 費	CGI人件費		※追加となる要素がないか検討してください			
	企画構成					
	データ作成関連費					
	ハード・ソフト関連					
	3D・2D変換					
	特注作業					
	CGI制作諸掛					
	CGI制作費					
	アニメーション人件費					
	企画構成					
	アニメーション制作費					
	レンド映像使用					
		CG/アニメーションタイトル関連費			小計	
11	【リモートチェックでスタジオ時間追加】&【(例えば近接演技別撮→合成、パーティション消込を想定)】					
	ワイヤーノリコ	Premiere 10-11ヶ月+3h、別撮素材追加+6h	・リモートにより指示や手戻りの作業が煩雑になった場合		9 h	
	ワイヤー編集 12-13ヶ月	10-11ヶ月+3h、別撮素材追加+6h	・近接演技別撮素材が大量の場合、立上げ・選択・編集時間が大幅増の可能性		9 h	
	ワイヤー編集 14-15ヶ月	10-11ヶ月+3h、別撮素材追加+6h			9 h	
	ワイヤーノリコ	Flame 10-11ヶ月+3h、合成+8h、消込+6h	・リモートにより指示や手戻りの作業が煩雑になった場合		17 h	
	ワイヤー編集 12-13ヶ月	10-11ヶ月+3h、合成+8h、消込+6h	・近接演技別撮素材・パーティションの対応で、立上げ・合成・消込時間が大幅増の可能性		17 h	
	ワイヤー編集 14-15ヶ月	10-11ヶ月+3h、合成+8h、消込+6h			17 h	
	編集諸掛	食費 3名×2食×3日			12 食	
	リモート試写システム使用費	リモート試写システム使用3h	・2020-9、専用PC、専用回線、リモート人員等の費用		3 h	
	映像・音声素材・3Dデータ保管費		・素材量によっては追加の可能性			
	映像3Dデータ保管費					
	MAスタジオ費	10-11ヶ月+2h、Na録音+1h	・リモートにより指示や手戻りの作業が煩雑になった場合		2 h	
	技術費ミラー	10-11ヶ月+2h、Na録音+1h	・リモートにより指示や手戻りの作業が煩雑になった場合		2 h	
	技術費14-15ヶ月	10-11ヶ月+2h、Na録音+1h	・リモートにより指示や手戻りの作業が煩雑になった場合		2 h	
	録音諸掛					
	初号フォーマット作成費					
	初号原版作成費		・特に追加無			
	初号原版14-15ヶ月 費	初号原版14-15ヶ月 納品×29ヶ月として	・物納の場合は追加無		2 9ヶ月	
		※スタジオロケーション費			小計	
	【ダブルスタンバイ】 下記はダブルスタンバイの場合に想定される追加費用					
	ワイヤーノリコ	Premiere 2日			2 箱・日	
	ワイヤー編集 12-13ヶ月	2日			2 人・日	
	ワイヤーノリコ	Flame 5日			5 箱・日	
	ワイヤー編集 14-15ヶ月	5日			5 人・日	
	MAスタジオ費	1日			1 箱・日	
	技術費ミラー	1日			1 人・日	
		※スタジオロケーション費【ダブルスタンバイ分】			小計	

内 訳 書 (6)

※ 記載事例は想定される一例であり、企画時・制作事前での検討の目安として提示しています。全て回避するのは難しいですが、必ず「追加」になるものでもなく、減らすことはできます。

科目	費目	摘要	計上追加事例(「数量」含め「例」です)	単価	数量	金額
音楽・効果費	音楽制作	音楽録音時間追加	-特に歌唱や音楽集がある場合、消音等対応時間増		1 式	
	選曲					
	著作権使用					
	サウンド・エフェクト					
		音楽・効果費			小計	
	{ダブルスタンバイ} 下記はダブルスタンバイの場合に想定される追加費用					
	音楽制作	歌手、演奏者			1 式	
		音楽・効果費{ダブルスタンバイ分}			小計	

※ 「14」の記載事例は想定される一例です。リアル集合がある業務(撮影、ロケハン等)では、その人数・作業時間・場所の条件の難度に比例する額で必ず「追加」になるものです。

科目	費目	摘要	計上事例(「数量」含め「例」です)	単価	数量	金額
その他制作費	{感染予防関連費}					
	{感染予防関連人員費}					
	マスク・イヤル	看護師(前日)1名×4h、撮影:1名×4h+1名×10h	-看護師、フ・257・イヤ、エ・71(42)イヤは「何れか」の場合も		18 人・h	
		チーフマスク・イヤル(前日)1名、撮影1名)10h超OT無	-看護師、フ・257・イヤ、エ・71(42)イヤは「何れか」の場合も		2 人・h	
		アシスタントマスク・イヤル(撮影1名)10h超OT無	-アシスタントマスク・イヤ、衛生管理PA、看護師は「何れか」の場合も		1 人・日	
		マスク・イヤルトド・イヤル費	-事前相談、事前打合せ時のマスク・イヤル費		1 件	
	セティフィカ	前日)1名×0.5日、撮影:1名×1.5日	-看護師、フ・257・イヤ、エ・71(42)イヤは「何れか」の場合も		2 人・日	
	衛生管理PA	前日)2名×0.5日、撮影:2名×1.5日	-アシスタントマスク・イヤ、衛生管理PA、看護師は「何れか」の場合も		4 人・日	
	{感染予防備品・設備費}					
	救急キット	マスク・イヤル医療計測機器各種、応急救急処置キット等			1 キット	
その他制作費	感染予防キット	感染予防消耗品各種(20名迄)×44キット			4 4 キット	
	感染予防備品(消耗品)	物・手指用アルコール消毒液×2本	-「感染予防キット」で不足がある場合の追加購入分		2 本	
		手指消毒液(非アルコール)×2本	-「感染予防キット」で不足がある場合の追加購入分		2 本	
		物用消毒液×1本	-「感染予防キット」で不足がある場合の追加購入分		1 本	
		サージ・加圧マスク(不織布マスク)×30枚	-「感染予防キット」で不足がある場合の追加購入分		30 枚	
		フェイスシールド×10枚	-「感染予防キット」で不足がある場合の追加購入分		10 枚	
	感染予防備品(レンタル)	サービレター(換気用) 10台×2日			20 台・日	
	マスク・イヤルキット等設備費	マスク・イヤルキット設備・設置費	-相談・必要相談がある場合、場合に計上		1 件	
		可動式手洗いユニット 1台×1日	-必要の場合に計上		1 台・日	
		可動式手洗いユニット(運用人員込) 1台×1日(OT7h)	-必要の場合に計上		1 台・日	
その他制作費	車面費	マスク・イヤル車(ワゴン) 1台×1日	-運搬する設備・備品等の規模が大きく、場合に計上		1 台・日	
	諸掛	交通費 マスク・イヤル×の3名			3 名	
		備品送料			1 件	
		PCR検査 10名分	-必要の場合に計上		10 名	
	その他	施設消毒費	-計費等々に消毒が必要の場合に計上		100 坪	
		その他制作費			小計	

※ 記載事例は想定される一例であり、企画時・制作事前での検討の目安として提示しています。全て回避するのは難しいですが、必ず「追加」になるものでもなく、減らすことはできます。

科目	費目	摘要	計上事例(「数量」含め「例」です)	単価	数量	金額
海外制作費	15 現地制作費		※追加となる要素がないか検討してください			
	保険(日本人クルー)					
		海外制作費			小計	

※ 制作業務現場対応だけでなく、制作会社では社内の感染予防対策等諸対応を進めており、バックオフィス業務はますます増大しています。
※ 「間接費」を「プロダクション管理費」として料率を見直し「新プライス」を導入することは、この逼迫した状況において制作会社にとり必須となっています。

21		withコロナ制作費 直接費 計 (01～13、15)				
22		プロダクション管理費		%		
23		プロダクション制作費 合計				
21		ダブルスタンバイ分 直接費 計 (01～13、15)				
22		プロダクション管理費		%		
23		プロダクション制作費 合計				
21		感染予防関連費 直接費 計 (14)				
22		プロダクション管理費		%		
23		プロダクション制作費 合計				

【制作費外バックオフィス作業費】

科目	費目	摘要	計上事例(「数量」含め「例」です)	単価	数量	金額
	OA原版アップロード費	OA原版アップロード・納品×24127として	-物納の場合は追加無		2 4127	
		制作費外バックオフィス作業費			小計	

仕様オリエンテーション

《広告会社指定項目》

記入者	〇〇〇〇			記入日	2020/4/1		
広告主	(株)〇〇〇〇〇			商品名	◇◇◇◇◇◇◇		
件名/タイトル	△△△△△△△△△△			広告会社	(株)〇〇		
作業期間	2020/4/1	～	2020/6/30	BP局	AA	担当	●●●●
CR局	XCRP	CD	〇〇〇〇	CP	▼▼▼▼		

【企画フェーズ】制作会社への発注業務/条件

業務内容 下記のほか、ビデオコンテンツ作成							
☐ 企画 (企画スクリプト選定含む)		☒ 企画協力 (資料探し含む)		☒ 提案資料作成 (制作費見積含む)			
リビジョン	2020/4/1	アフレコ予定日	2020/4/21	企画決定予定日	2020/4/24	初号納品予定日	2020/6/30
アフレコ予算 (予定)		¥3,000,000		発注金額 (概算)		¥50,000,000	
TVCMワイド送稿予定		☒ あり ☐ なし		TVCM7" リット納品予定		☐ あり ☒ なし	
出演者 (外注) の出演契約予定		☒ あり ☐ なし ☐ 未定					
契約		☐ 制作会社 ☒ 制作会社以外					
↓ 条件 (契約範囲、共演可否、WEB可否、競合条件の指定、契約開始日前の協力可否等の注意事項を記入)							
契約期間 ☐ 1クール ☐ 2クール ☒ 年契 ☐ 複数年 ☐ その他						契約開始日 2020/7/1	

【制作フェーズ】制作会社への発注業務/条件

使用期間	2020/7/15	～	2021/1/14	使用エリア	日本全国		
使用媒体	☒ 地上波 ☒ BS ☒ CS/CATV ☐ ラジオ ☐ OOH						
	☒ 車内ビジョン ☐ 店頭 ☐ イベント ☐ 機内ビジョン ☐ シネマ						
	☒ ウェブサイト (自社HP) ☐ パナー動画 ☒ SNS ☐ 無料配信動画 ☐ その他						
搬入 (後工程) 業務	☒ あり ☐ なし ← (※初号送の場合「なし」)	仕上がり種別		☒ HD ☐ 4K以上			
☐ PPMから撮影日まで6営業日以上ある		☒ 未定		☐ 制作会社社員の22時以降/短納期業務がある ☒ 未定			
出演者 (外注以外) の出演契約予定		☒ あり ☐ なし ☐ 未定					
契約		☒ 制作会社 ☐ 制作会社以外					
条件	競合対象: ◆◆◆◆			契約開始日 2020/7/15			
契約期間		☐ 1クール ☒ 2クール ☐ 年契 ☐ 複数年 ☐ その他					
☒ 競合排除のように条件の必要な1行は付かない		☐ 海外招聘の出演者がいる		☐ 未定			
未成年出演者 (児童・年少者・未成年者)		☒ あり ☐ なし ☐ 未定					
☒ 児童 (中学生以下) の時間制限違反 (「20-5時の役務」「7時間以上の拘束」等) はない							
☒ 年少者 (18歳未満) の22-5時の役務はない							

撮影	☒ あり ☐ なし ☐ 未定	撮影予定日	2020/6月上旬予定		
撮影施設	☒ スタジオ ☒ 町 ☐ 未定				
撮影地域	☒ 国内 ☐ 海外 ☐ 未定	具体的地域 東京近郊			
☐ 香盤が22時以降になる可能性がある ☒ 未定					
音楽	☒ あり ☐ なし ☒ オリジナル制作 ☐ 既存楽曲 ☐ ライブ・音源				
TVCM	☒ あり ☐ なし	初号納品予定日 (複数ある場合は一番早い日)		2020/6/30	
初号納品物 (初号原画)	☐ 要 ☒ 不要 ← (※搬入フェーズで制作会社にカメラリポートを発注する場合は基本的に「不要」)	☐ HDCAM-SR ☐ その他			
WEB動画/VP	☒ あり ☐ なし	初号納品予定日 (複数ある場合は一番早い日)		2020/6/30	
初号納品物 (初号原画)	☐ 要 ☒ 不要 ← (※制作会社にリポートを発注する場合は基本的に「不要」)	☒ MP4ファイル ☐ WMVファイル ☐ その他			
納品物用途		ウェブ・スマートフォン (自社HP)、SNS			

【搬入フェーズ】制作会社への発注業務/条件

オンライン送稿	☒ あり ☐ なし	アップロード 予定日 (複数ある場合は一番早い日)	2020/7/7	
納品物	☐ 初号原画 ☒ OA原画 (☐ Proresファイル ☐ HDCAM-SR ☐ その他	☒ MXFアップロード		
プリント納品	☐ あり ☒ なし	局納品予定日 (複数ある場合は一番早い日)		
納品物	☐ OA用XDCAM7" リット ☐ OA用HDCAM7" リット ☐ その他			

◇ 未定の事項は空欄/未選択とするが「未定」をチェックし、明らかになった時点で追記してください。
※「仕様オリエンテーション」記入時には、右書面「キックオフ～実施仕様書」上部の「企画発注時広告会社指定」の各項目にも記入してください。

キックオフ～実施仕様書

《広告会社＝制作会社検討項目》

制作会社		(株)XXXXXXXXXXXX		Pr	XXXXXX		PM	YYYYYY			
		【企画発注時】制作仕様(予定)		【企画プレゼン事前】提案タイプ別制作仕様							
		企画発注時広告会社指定		A		B		C		D	
記入日		2020/4/1		2020/4/17							
発注金額(概算)		¥50,000,000		¥50,000,000		¥60,000,000		¥60,000,000		¥70,000,000	
初号納品予定日		2020/6/30		2020/7/3		2020/6/30		2020/7/6		2020/6/30	
納品物		☒ CM ☒ WEB動 ☐ VP		☒ CM ☒ WEB動 ☐ VP		☒ CM ☒ WEB動 ☐ VP		☒ CM ☒ WEB動 ☐ VP		☒ CM ☒ WEB動 ☐ VP	
TVCM秒数		☒ 15" ☒ 30" ☐ 60"～		☒ 15" ☒ 30" ☐ 60"～		☒ 15" ☒ 30" ☐ 60"～		☒ 15" ☒ 30" ☐ 60"～		☒ 15" ☒ 30" ☐ 60"～	
タイ"数		×3 ×2		×2 ×2		×2 ×2		×3 ×2		×3 ×2	
WEB動画/VP秒数		☒ ～30" ☐ ～60" ☒ ～120"		☒ ～30" ☐ ～60" ☒ ～120"		☒ ～30" ☐ ～60" ☒ ～120"		☒ ～30" ☐ ～60" ☒ ～120"		☒ ～30" ☐ ～60" ☒ ～120"	
タイ"数		×5		×5		×5		×10		×2	
		☐ ～240" ☐ 240"～		☐ ～240" ☐ 240"～		☐ ～240" ☐ 240"～		☐ ～240" ☐ 240"～		☐ ～240" ☐ 240"～	
撮影時の条件		☒ CM ☒ 動画 ☐ GR		☒ CM ☒ 動画 ☐ GR		☒ CM ☒ 動画 ☐ GR		☒ CM ☒ 動画 ☐ GR		☒ CM ☒ 動画 ☐ GR	
撮影日数(予定)		未定		01日(予備1日)、ｽﾀｼﾞｵ2日		02日(予備1日)、ｽﾀｼﾞｵ1日		01日(予備1日)、ｽﾀｼﾞｵ2日		02日(予備1日)、ｽﾀｼﾞｵ1日	
01予定地		東京近郊		東京近郊		東京近郊		〇〇県		〇〇県	
予備日使用の場合の費用		☒ 含まない ☐ 含む		☒ 含まない ☐ 含む		☒ 含まない ☐ 含む		☒ 含まない ☐ 含む		☒ 含まない ☐ 含む	
Dir.等主要ｽﾀｼﾞｵ指定		ｽﾛｯﾄ指定(sty/HM)以外はPC一任		ｽﾛｯﾄ指定(sty/HM)以外はPC一任		ｽﾛｯﾄ指定(sty/HM)以外はPC一任		ｽﾛｯﾄ指定(sty/HM)以外はPC一任		ｽﾛｯﾄ指定(sty/HM)以外はPC一任	
出演者人数・規模		ｽﾛｯﾄ×1、ﾌﾞﾛｸﾞﾅｰﾙ×3、ﾃﾚﾅｰﾙ×020		ｽﾛｯﾄ×1、ﾌﾞﾛｸﾞﾅｰﾙ×3、ﾃﾚﾅｰﾙ×20		ｽﾛｯﾄ×1、ﾌﾞﾛｸﾞﾅｰﾙ×5、ﾃﾚﾅｰﾙ×30		ｽﾛｯﾄ×1、ﾌﾞﾛｸﾞﾅｰﾙ×5、ﾃﾚﾅｰﾙ×20		ｽﾛｯﾄ×1、ﾌﾞﾛｸﾞﾅｰﾙ×5、ﾃﾚﾅｰﾙ×20	
備考 (制作手法のﾈｰｲﾄ等)				※〇〇県01(下給撮影) ※人物ｽﾀｼﾞｵ撮影→合成 ※飛行船CGなし		※〇〇県01にｽﾛｯﾄ・出演者帯同 ※飛行船CGあり		※〇〇県01(下給撮影) ※人物ｽﾀｼﾞｵ撮影→合成 ※飛行船CGなし		※〇〇県01にｽﾛｯﾄ・出演者帯同 ※飛行船CGなし	
記入者(広告会社)		〇〇〇〇		〇〇〇〇							
記入者(制作会社)				XXXXXX							
		【制作開始事前】制作仕様				【制作開始後】制作仕様					
		ﾏｻｸﾞﾙMtg①		ﾏｻｸﾞﾙMtg②		仕様変更①		制作事後		ｺｽﾄ/ｽﾀｼﾞｵ1ｰﾙMtg	
記入日		2020/4/28		2020/4/30		2020/6/15		2020/7/3		2020/7/9	
発注金額		¥5,800万(未定)		¥52,000,000		¥5,900万(未定)		¥5,400万(提示額)		¥59,000,000	
初号納品予定日		2020/7/3(未定)		2020/7/2		2020/7/3		2020/7/3		2020/7/3	
納品物		☒ CM ☒ WEB動 ☐ VP		☒ CM ☒ WEB動 ☐ VP		☒ CM ☒ WEB動 ☐ VP		☒ CM ☒ WEB動 ☐ VP		☒ CM ☒ WEB動 ☐ VP	
TVCM秒数		☒ 15" ☒ 30" ☐ 60"～		☒ 15" ☒ 30" ☐ 60"～		☒ 15" ☒ 30" ☐ 60"～		☒ 15" ☒ 30" ☐ 60"～		☒ 15" ☒ 30" ☐ 60"～	
タイ"数		×3 ×2		×3 ×2		×4 ×2		×4 ×2		×4 ×2	
WEB動画/VP秒数		☒ ～30" ☐ ～60" ☒ ～120"		☒ ～30" ☐ ～60" ☒ ～120"		☒ ～30" ☐ ～60" ☒ ～120"		☒ ～30" ☐ ～60" ☒ ～120"		☒ ～30" ☐ ～60" ☒ ～120"	
タイ"数		×10		×1		×10		×1		×10	
		☐ ～240" ☐ 240"～		☐ ～240" ☐ 240"～		☐ ～240" ☐ 240"～		☐ ～240" ☐ 240"～		☐ ～240" ☐ 240"～	
撮影時の条件		☒ CM ☒ 動画 ☐ GR		☒ CM ☒ 動画 ☐ GR		☒ CM ☒ 動画 ☐ GR		☒ CM ☒ 動画 ☐ GR		☒ CM ☒ 動画 ☐ GR	
撮影日数(予定)		01日(予備1日)、ｽﾀｼﾞｵ2日		01日(予備1日)、ｽﾀｼﾞｵ2日		01日(予備1日)、ｽﾀｼﾞｵ2日		01日(予備1日)、ｽﾀｼﾞｵ2日		01日(予備1日)、ｽﾀｼﾞｵ2日	
01予定地		東京近郊		東京近郊		東京近郊		東京近郊		東京近郊	
予備日使用の場合の費用		☒ 含まない ☐ 含む		☒ 含まない ☐ 含む		☒ 含まない ☐ 含む		☒ 含まない ☐ 含む		☒ 含まない ☐ 含む	
Dir.等主要ｽﾀｼﾞｵ指定		ｽﾛｯﾄ指定(sty/HM)+Dir.		ｽﾛｯﾄ指定(sty/HM)以外はPC一任		ｽﾛｯﾄ指定(sty/HM)以外はPC一任		ｽﾛｯﾄ指定(sty/HM)以外はPC一任		ｽﾛｯﾄ指定(sty/HM)以外はPC一任	
ﾏｻｸﾞﾙ編集日数(予定)		4日		3日		3日		3日		3日	
ﾏｻｸﾞﾙ編集日数(予定)		4日		4日		5日		5日		5日	
出演者人数・規模		ｽﾛｯﾄ×1、ﾌﾞﾛｸﾞﾅｰﾙ×3、ﾃﾚﾅｰﾙ×20		ｽﾛｯﾄ×1、ﾌﾞﾛｸﾞﾅｰﾙ×3、ﾃﾚﾅｰﾙ×20		ｽﾛｯﾄ×1、ﾌﾞﾛｸﾞﾅｰﾙ×3、ﾃﾚﾅｰﾙ×20		ｽﾛｯﾄ×1、ﾌﾞﾛｸﾞﾅｰﾙ×3、ﾃﾚﾅｰﾙ×20		ｽﾛｯﾄ×1、ﾌﾞﾛｸﾞﾅｰﾙ×3、ﾃﾚﾅｰﾙ×20	
備考 (制作手法のﾈｰｲﾄ等)		A9ｲﾌﾞの企画 ※〇〇県01(下給撮影) ※人物ｽﾀｼﾞｵ撮影→合成 ※飛行船CGありに変更		A9ｲﾌﾞの企画 ※〇〇県01(下給撮影) ※人物ｽﾀｼﾞｵ撮影→合成 ※飛行船CGなしに変更		A9ｲﾌﾞの企画 ※〇〇県01(下給撮影) ※人物ｽﾀｼﾞｵ撮影→合成 ※飛行船CGありに変更		「仕様変更①」での追加費用+700万円で交渉したが、+200万円で提示され、折合いのつかない状況となっている。			
変更ﾈｰｲﾄ		※20"WEB動画5→10に変更 ※Dir.ｽﾛｯﾄ指定に変更 ※飛行船CGありに変更		※20"WEB動画10→7に変更 ※Dir.ｽﾛｯﾄ指定なしに変更 ※飛行船CGなしに変更		※15"CM2→3に変更 ※20"WEB動画7→10に変更 ※飛行船CGありに変更 ※ﾏｻｸﾞﾙ編集日数4→5日に変更					
記入者(広告会社)		〇〇〇〇		〇〇〇〇		〇〇〇〇		〇〇〇〇		〇〇〇〇	
記入者(制作会社)		XXXXXX		XXXXXX		XXXXXX		XXXXXX		XXXXXX	

協力会社およびスタッフの皆様

株式会社〇〇〇〇

新型コロナウイルス対策に関するご協力をお願い

当社（以下「〇〇〇〇」という）の作業（以下「本件作業」という）へのご参加にあたり、〇〇〇〇の新型コロナウイルス感染拡大防止策に関し、下記についてご理解・ご協力をいただきたく、お願い申し上げます。

1. 本件作業において、マスク着用、国が推奨する方法での手洗い・手指の消毒など 〇〇〇〇が求める新型コロナウイルス感染拡大防止策へのご協力をお願いします。
2. 〇〇〇〇が、本件作業時にご提示いただいた個人情報（本件作業時に行われる体調チェックでの健康情報を含む）を、本件作業の実施・運営および新型コロナウイルス感染拡大防止策を目的として、必要な範囲に限り利用することにご同意ください。
3. 本件作業において、〇〇〇〇が新型コロナウイルス感染拡大防止策および社会情勢に考慮してご参加される方の活動や表現の制限を依頼した場合には、これに協力ください。
4. ご参加いただく方、またはその同居人の方に過去 2 週間以内の感染を疑わせる体調不良や海外渡航歴がある、または感染の疑いがある方との濃厚接触が発生した場合、速やかに申し出てください。〇〇〇〇は、その申し出により、本件作業への不参加などを指示させていただくことがありますが、その場合はこれにご協力ください。
5. 基礎疾患（特に呼吸器系の疾患）をお持ちの方は、本件作業参加前にお申し出ください。
6. 本件作業集合時、〇〇〇〇が検温を含む体調の確認をお願いする場合には、これにご協力ください。検温で 37～37.5℃以上（平熱により異なる）の発熱や感染を疑わせる体調不良（頻回な咳き込み、頻回や長時間続く息苦しさ、倦怠感、味覚異常、湿疹等の皮膚症状など）が判断される場合は、速やかなご帰宅をお願いしますが、これにご協力ください。 + 嗅覚異常
7. 本件作業中に、37～37.5℃以上（平熱により異なる）の発熱が発覚した場合、作業へのご参加を中断し、速やかに感染予防管理責任者を兼務する〇〇〇〇プロデューサー（以下「〇〇〇〇プロデューサー」という）にご報告ください。
8. 本件作業中に、6.に記載された感染を疑わせる症状を自覚された場合、速やかに〇〇〇〇プロデューサーにご報告ください。また、これにより、〇〇〇〇プロデューサーから本件作業への不参加などの指示をさせていただくことがありますが、その場合はこれにご協力ください。
9. 機材・車輛・小道具など本件作業に参加者ご自身が持ち込む物品の衛生管理（消毒など）は、自らの責任で行っていただくようお願いします。
10. 本件作業後 2 週間以内に、新型コロナウイルスの感染を疑わせる症状が発症したとき、または感染が判明したときには、速やかにご自身が所属する会社および/または〇〇〇〇プロデューサーにご報告ください。
11. 広告主・広告会社・制作会社および関連協力会社など、上記すべての感染防止策を遵守する必要最小限の人員が、本件作業に参加することにご同意ください。また、上記の通り、できる限りの感染防止策を徹底した上でも、新型コロナウイルス感染のリスクがゼロではないことを理解した上で、本件作業にご参加いただくようお願いします。

なお、本件作業へのご参加をもって、〇〇〇〇はご参加された方が上記に同意いただいたものとみなしますことをご了承ください。

以上

【個人情報の取扱いについて】

本同意書および本件作業時に提出いただいた個人情報は個人情報保護方針に基づき安全かつ適切に管理し、本件作業の実施・運営および新型コロナウイルス感染拡大防止策のために利用いたします。当該個人情報を、貴殿の同意を得ずに第三者へ提供することはありません。ただし、法令に基づく開示要請があった場合、または違法行為があった場合などの特別の理由のある場合は除きます。（株式会社〇〇〇〇）

撮影関係者がスタジオなどの撮影場所に入る際、衛生管理部担当者が、検温と同時に以下の項目を確認し、体調チェックシートに記入。

※「体調チェックシート」はアプリ等も活用してデータ化し、ペーパーレスでの運用とすることを推奨します

◆「体調チェックシート」で確認させていただくこと

2020年7月XX日
(株)○○○○

- ◆お名前／役職名
- ◆平熱
- ◆体温(検温させていただきます)
- ◆[37～37.5℃以上(平熱により異なる)の発熱] 現在／過去2週間
- ◆[平熱+1℃超の発熱] 現在／過去2週間
- ◆[頻回な咳・息苦しさ] 現在／過去2週間
- ◆[味覚・嗅覚異常] 現在／過去2週間
- ◆[湿疹様の皮膚症状] 現在／過去2週間
- ◆[頭痛、寒気、倦怠感、のどの痛み] 現在／過去2週間
- ◆[その他／目やに・充血など] 現在／過去2週間
- ◆[基礎疾患(特に呼吸器系)]の有無
- ◆[過去2週間以内の海外渡航歴]の有無
- ◆[同居・身近な方の上記症状など]の有無

※「体調チェックシート」で提出いただいた個人情報は、本件撮影の実施・運営および新型コロナウイルス感染拡大防止を目的とし、作業時の体調確認および万が一の緊急事項発生時のみ利用させていただくものです。なお、当該個人情報は、個人情報保護方針に基づき安全かつ適切に1か月間管理したのち溶解・廃棄し、貴殿の同意を得ずに第三者へ提供することはありません。ただし、法令に基づく開示要請があった場合、または違法行為があった場合などの特別の理由のある場合は除きます。(株式会社○○○○)

◆体調チェックシート

2020年 7月 XX日

受付時間		① : ② : ③ :	案件名							
感染予防管理責任者(所属)		()		衛生管理部担当者(所属)		()				
1	氏名		役職		体温	①	②	③		
	[体調不良の有無]				無	有	[同居者・ご家族の発熱、左記の症状]		無	有
	所見									
2	氏名		役職		体温	①	②	③		
	[体調不良の有無]				無	有	[同居者・ご家族の発熱、左記の症状]		無	有
	所見									
3	氏名		役職		体温	①	②	③		
	[体調不良の有無]				無	有	[同居者・ご家族の発熱、左記の症状]		無	有
	所見									
4	氏名		役職		体温	①	②	③		
	[体調不良の有無]				無	有	[同居者・ご家族の発熱、左記の症状]		無	有
	所見									
5	氏名		役職		体温	①	②	③		
	[体調不良の有無]				無	有	[同居者・ご家族の発熱、左記の症状]		無	有
	所見									

撮影香盤表（見本）

スタッフ・出演者の皆さんの健康を守る為、お手数をお掛けしますがご協力ください。

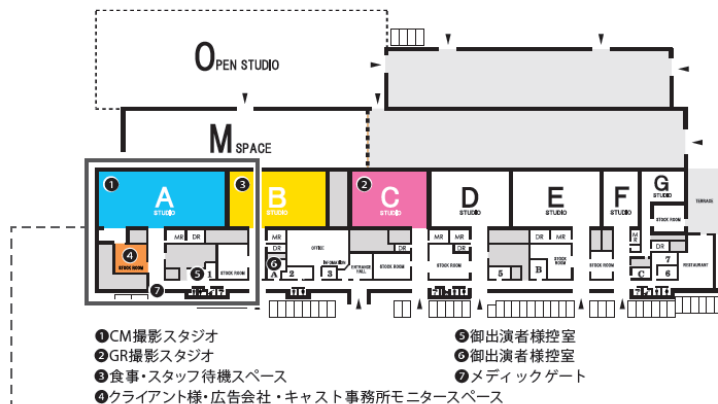
場所●●スタジオ Cst

Start	End		
6:00		制作部IN 衛生用品準備・ベースセッティングおよび各所を消毒 ①手洗い・手指消毒を終えた方からマスク交換 ②メディカルチェック ③必要な方に支給品の受け渡し	
6:10		照明技師、照明部(7名)IN	
6:20		撮影部(3名)IN	
6:30		スタイリスト(2名)IN 特機部(2名)IN→特機搬入⑤番を使って下さい。	出来るだけ換気 (最低1時間に1回)
7:00		録音部IN(2名) 美術部、編集、CG部IN・出演者IN ヘアメイクIN	
7:10		監督、カメラマンIN～	
7:40		CR、CL IN～出演者HM、衣装確認	
8:00		C-1撮影	
		カット画像 ・出演者●●さん ・クッキング・小道具	スタジオ内最小人数
		セッティングチェンジ（この間に流水・石鹸での手洗い・手指消毒を行う）	すみやかに換気
9:30		C-2撮影	
		カット画像 ・出演者●●さん ・特機セッティング ・終了後、特機搬出	すみやかに換気
	10:30	セッティングチェンジ（この間に流水・石鹸での手洗い・手指消毒を行う）	
11:00		C-3撮影	
		カット画像 ・クッキング小道具 ・モニター上、ロゴ&商品ポジ準備	
12:00		【ランチ】→3密にならぬよう、各部署人数ごとにお食事場所を設定しております。 ※食事中の会話や打合せ・対面での着席はNGです	すみやかに換気
13:00		セッティングチェンジ（この間に流水・石鹸での手洗い・手指消毒を行う）	
13:30		C-4撮影	
		カット画像 ・商品 ・出演者●●さん	すみやかに換気
		セッティングチェンジ（この間に流水・石鹸での手洗い・手指消毒を行う）	
15:00		C-5撮影	
		カット画像	すみやかに換気
16:30		セッティングチェンジ（この間に流水・石鹸での手洗い・手指消毒を行う）	
17:00		C-6撮影	
		カット画像 ・出演者●●さん ・菜箸	すみやかに換気
18:00		本日の撮影以上になります。お疲れ様でした。	
19:00	19:30	撮影機材搬出 撮影部→搬出口④番、	
20:00	20:30	照明機材搬出（30分）→搬出口③番	
20:30	21:00	美術搬出（30分）→搬出口⑤番	
20:30	21:00	フードSTY搬出（30分）→搬出口⑦番 制作物搬出・現場復帰（60分）→搬出口⑧番	
	21:45	スタジオ完全撤収	

香盤作成の際は、衛生管理部(メディック部)に必ず相談することを推奨します

スタジオ内配置の考え方[Sample]

全体配置イメージ



ベース設置イメージ

各モニター・ベースは2m以上の間隔を持ち、通常時よりも多いモニターをスタジオ内に設置いたします。

消毒液のないスペースでは消毒液ボトルをお渡しします。



※撮影までに詳細変更の可能性がございます

撮影現場感染対策レイアウト作成の際は、衛生管理部(メディック部)に必ず相談することを推奨します

- ・メディックゲートは、雨天時の場合も想定し、設置候補場所を確認
- ・控室は 3 密にならないように設置
- ・トイレ、手洗い場を複数確保できる場所

※開放できる窓・扉は可能な限り、すべて開けておきましょう

設置場所	内容
食事	食事中携帯電話、PC、タブレット端末等の使用を控える
食事	手洗い・手指消毒後、お弁当お受け取り下さい
食事	この位置からお弁当を選んでください
食事	お弁当を受け取る直前にも手指消毒
食事	食事前後は、テーブル・椅子を消毒して下さい
トイレ	便座の蓋を閉めて水を流してね
トイレ	トイレトペーパーを三角に折らないで
トイレ	使用后、蓋・便座・鍵などに消毒液を吹きかけた後、拭き取ってね
手洗い場	使用后ペーパータオルなどに消毒液をしみこませて、便座・蓋・鍵など触った場所を拭き取ってね
手洗い場	ハンドソープ・石鹸で10秒もみ洗い後、流水で15秒すすぎを2回繰り返す
手洗い場	手をぶらぶら、水気を飛ばすのは禁止
手洗い場	洗面台の上は、水気をふき取って下さい。
飲み物	飲み物を取り出すときは、手洗い・手指消毒後に
飲み物	飲み物を飲む前に、手洗い・手指消毒
飲み物	クーラーボックスに用意をしているため、取り出す人は看護師・制作チームへお声かけ下さい
メディカルチェック	メディカルチェック 立ち位置マークに沿ってお並びください
メディカルチェック	現場に入る前、手洗い・手指消毒後にメディカルチェック
メディカルチェック	受付の流れ 1 手洗い・手指消毒 2 マスク交換 3 メディカルチェック
メディカルチェック	症状の一例は下記です、体調が気になりましたらお声かけ下さい。
メディカルチェック	携帯電話・PC、カバンなど私物の消毒をしてください
メディカルチェック	手指消毒用の小ボトルを貸し出します、ご希望者は申し出ください。
入口	手洗い・手指消毒後、入室してください
スタジオ	マスク作業中は熱中症に注意、水分補給しっかり
スタジオ	作業がない人は待機場所へ、2 m以上の距離を
スタジオ	ドリンクはメディカルコーナー
スタジオ	作業ごとに手指消毒、こまめにモノの消毒してください ※特に携帯電話・PC
待機スペース	この部屋は〇〇人まで
ドア	常に開放、閉じるの禁止
ドア	換気は対角線、できるかぎり窓・扉をあけよう
道具	こちらにあるモノは共用です。使用前手洗い・手指消毒、使用前後はモノの消毒をしてください
バス	この座席使用禁止
バス	この窓開放

新型コロナウイルス感染症 制作業務感染予防マニュアル

新型コロナウイルス禍にある現在、どこにいても感染リスクがゼロとは言えない状況が続いています。とりわけ映像制作の撮影現場は、制作環境の特質上、感染リスクが大きいと言わざるを得ません。そうした環境下においても、社員やスタッフ、キャストやそのマネジャーなど制作に携わる全ての人たちが安全に制作に臨めるように、またクラスターが発生しないようにとの意図のもと、この度「新型コロナウイルス感染症 撮影現場感染予防マニュアル」を作成するに至りました。感染の不安がある中でも、一人ひとりの健康を守り、制作業務を遂行するための一助として、本マニュアルを活用していただけたら幸いです。

なお本マニュアルに掲載した情報は、正確性に万全を期すとともに、一般的な基準に準拠しておりますが、

- ①一般社団法人日本アド・コンテンツ制作協会、及び作成者である医療コーディネータージャパン株式会社は、利用者が本マニュアルの情報をを用いて行う一切の行為、並びに発生した損害について、何ら責任を負うものではないこと、
 - ②掲載情報は予告なく変更等が行われること、
- それぞれにつきまして予めご了承ください。

※ JACの「withコロナ 制作業務実施ガイドブック Ver.1.1」は、本マニュアルの考え方に基づいて書かれています。いくつかの用語等で異なる部分もありますが、骨子は同じであるものとご理解ください。

一般社団法人 日本アド・コンテンツ制作協会
医療コーディネータージャパン株式会社

目次

- I. 新型コロナウイルスに関する基礎知識
- II. 感染予防の基本方針〈5つのポイント〉
- III. 具体的な対応策

【参考】熱中症

I . 新型コロナウイルスに関する基礎知識

① 新型コロナウイルス感染症とは

② 濃厚接触者とは

③ 新型コロナウイルスの生存期間・感染経路

④ 新型コロナウイルス各検査の特徴

① 新型コロナウイルス感染症とは

新型コロナウイルス感染症

- ☐ 咳などの呼吸器の症状が中心。多くは軽症だが重症化することもある。
- ☐ 初期症状は発熱や咳などのため、風邪との区別が非常に難しい一方、風邪とは異なり症状が持続したり、悪化する。

感染した場合

感染者本人のみならず、接触した周囲の人も濃厚接触者として感染の恐れ

【すぐにかかりつけ医や自治体が設置している相談窓口などに相談すべき人】

- * 息苦しさ(呼吸困難)、強いだるさ(倦怠感)、高熱等の強い症状のいずれかがある人
- * 高齢者、基礎疾患(糖尿病、心不全、呼吸器疾患(慢性閉塞性肺疾患など))がある人や透析を受けている人、免疫抑制剤や抗がん剤などを用いている人、妊娠中の人で、発熱や咳などの比較的軽い風邪の症状がある場合
- * 上記以外の人で発熱や咳など比較的軽い風邪の症状が続く場合

② 濃厚接触者とは

濃厚接触者とは？

症状のある感染者と症状出現2日前から、症状のない感染者と検体採取2日前から接触した者(2021/10/7更新)のうち、次に該当するもの

- ☐ 同居あるいは長時間の接触(同一室内、乗用車やバスの車内、航空機内等を含む)があった者
- ☐ 適切な感染防護なしに感染者を介護していた者
- ☐ 気道分泌液もしくは体液等の汚染物質に直接触れた可能性が高い者
- ☐ 手で触れることの出来る距離(目安として1m)で、必要な感染予防策(主にマスク着用を指す)なしで感染者と15分以上の接触があった者

(国立感染症研究所HPより)

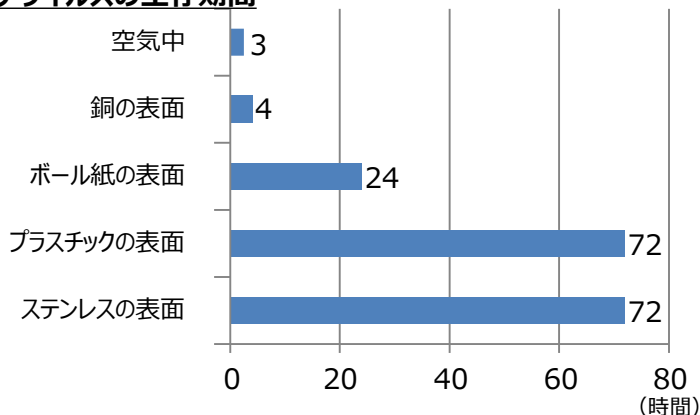
濃厚接触者になった場合

14日間に亘り 自宅などで待機し健康観察

撮影などの制作業務を中断させないためには、
参加者全員が適切な感染予防を徹底し、「感染者を出さない」「濃厚接触者を出さない」ことが重要

③ 新型コロナウイルスの生存期間・感染経路

(1) 新型コロナウイルスの生存期間



プラスチックやステンレスに付着したウイルスは**72時間 (= 3日間)**生存する可能性

(『ニューイングランド医学ジャーナル』より)

(2) ウイルスの感染経路は**飛沫感染**と**接触感染**

飛沫感染



数分の立ち話でも 感染した事例あり

接触感染



共有PC・タブレット、電化製品のリモコンの使用で感染した事例あり

人は無意識に顔を触っているので注意する！

目 3回/1時間

鼻 3回/1時間

口 4回/1時間

1時間に平均23回、顔を触っている



目、鼻、口などの粘膜から接触感染の恐れあり！

④ 新型コロナウイルス各検査の特徴

	PCR検査	抗原検査	抗体検査
検査の目的	<u>現在感染しているか</u> を調べる	<u>現在感染しているか</u> を調べる	<u>過去に感染していたか</u> を調べる
精度	約70%とされている	PCR検査よりも劣る	検査キットによって まちまち
結果判定までの 所要時間	検査後、 数時間～数日	30分ほど	数十分ほど

自費検査を利用する際の注意事項

各検査機関が提供する検査の内容や費用、陽性が判明した際の対応などを理解したうえで検査機関を選択し、検査を受けるようにする。

- ❑ 発熱や咳などの症状がある場合は、自己負担なしで検査を受けることが可能なので、かかりつけ医などの身近な医療機関や受診・相談センターに相談する。
- ❑ 検査機関で提供される検査の内容、費用、検査結果の通知に要する日数などを事前に確認する。
- ❑ 検査機関によっては、検査結果を通知するのみで、医師の診断を伴わない所もあることに留意する（→たとえば検査結果が陰性であっても、医師により感染していないと診断されない限りは、感染していないとは言いきれない）。
- ❑ 医師の診断を伴わない検査で結果が陽性の場合、検査機関に提携医療機関があれば、検査を受ける者の同意に基づき、検査機関から医療機関に検査結果（陽性）が報告されるが、提携医療機関がなければ、自分がかかりつけ医などの身近な医療機関や受診相談センターに電話で相談する。
- ❑ 医師による診断を伴う検査または提携医療機関等の医師によって新型コロナウイルスに感染したと診断された場合、医師が届出を保健所に行うが、医師の診断を受けなければ、このような対応につながらないため、検査は医療機関又は提携医療機関をもつ検査機関で受けるようにする。
- ❑ 検査結果には、実際には感染しているのに結果が陰性になる「偽陰性」や感染していないのに結果が陽性になる「偽陽性」の場合がある。また、たとえ陰性であっても、その結果はあくまで検査時点での感染状況に関するものであるとともに、感染早期のためウイルスが検知されない可能性やその後の感染の可能性もあるため、検査結果にかかわらず引き続き感染予防に努める。

自費検査を提供する検査機関一覧（厚生労働省HP）

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryoku/covid19-jihikensa_00001.html

⑤ 新型コロナウイルス感染症のワクチン

2021/06/29追加ページ

新型コロナウイルス感染症のワクチンは、「発症」「重症化」を減少させることが確認されている。なお「感染」を防ぐか否かについては、その可能性が示唆されているものの、現時点では検証中の段階。

ワクチンに関する注意事項

- ☐ ワクチンの接種は推奨されているものの、強制ではないことについて留意、並びに配慮する。
- ☐ 感染管理責任者（P29）と衛生管理者（P30）は、接種日（ワクチンの種類によって2回目
の接種間隔に違いあり）や副反応、接種しない意思決定に伴うことなど、撮影関係者がワクチンに関する相談をしやすい環境を整える。
- ☐ ワクチン接種後に、接種部位の痛み・腫れ、筋肉や関節の痛み、倦怠感、発熱、頭痛などが生じる場合があるため、接種者の当日とその翌日のスケジュールは無理がないようにする（ex.接種部位の痛みによって車輛の運転に支障が生じる恐れなど）。
- ☐ ワクチンを接種すれば、「**発症」「重症化」が減少するが、完全にそれらの可能性がなくなるわけではない（＝発症や無症状感染する可能性あり）**
加えてワクチン接種者から他者への感染をどの程度予防できるか、ワクチンの効果がどのぐらい続くのかなど、ワクチンを巡っては、まだはっきりしない点も多い。そのようなことから、**接種後もマスクや手洗い等の対策を引き続き徹底する。**

Ⅱ．感染予防の基本方針〈5つのポイント〉

① 現場の責任者を決める

② 適時検温を行い体調報告を義務化する

③ マスク・手洗い・消毒の徹底、手袋着用の励行

飛沫感染予防

接触感染予防

④ 三密回避と換気を常に意識する

飛沫感染予防

接触感染予防

⑤ ケータリングの中止など飲食にも注意を払う

飛沫感染予防

接触感染予防

① 現場の責任者を決める

体制構築

撮影現場において感染管理の指揮を執る「責任者」を指名し、感染予防に関する全ての事柄に留意させる。

1. 撮影現場では、「感染管理責任者」をたて、各部署(撮影部、照明部、録音部、美術部等)に適切な予防を周知。また現場での具体的な感染防止対策の実施する「衛生管理PA」を規模に応じ任命・配置。
2. 感染管理責任者は、密集・密接・密室を回避するよう気を配り、換気などを指示。また手洗いを励行させ、人が触ったモノの消毒の確認などを行う。

- ☐ プロデューサーは、全ての撮影関係者が感染管理責任者の指示に従うよう指導する。
- ☐ 感染管理責任者は、感染者や濃厚接触者の発生に伴い撮影が中断・延期しないよう、各部署の衛生管理者などに撮影現場の感染予防を徹底して行うよう指示を出す。

② 適時検温を行い体調報告を義務化する

検温と体調報告

参加者全員の検温を行う。

また体調を報告させるとともに、家族や同居者に体調の悪い者がいないかなどのチェックも徹底する。

感染管理責任者は、衛生管理者から報告を受けるスタッフ全員の検温結果や体調情報を管理。

発熱(平熱によって異なるが、たとえば37℃～37.5℃以上)や、どこか体調に異変がある者はどのような立場でも直ちに隔離し、帰宅させる(場合によっては、その個人と密に接した者も帰宅させる)。

また、家族等に発熱や咳などの感染症状がある場合も、ロケ・撮影には参加させない。

発熱やどこか体調に異変がある場合、直ちに衛生管理者に報告し、「休む」という意識を徹底する。
「体調不良なので休む」と躊躇なく言い出せる環境作り、関係作りが大切。

『迷惑をかけないためにも、休む』という意識

【検温ルールの設定】非接触型体温計などを用いて適時検温することを義務付ける。

【検温と体調の記録】全撮影関係者の体調把握に努め、異変のある者は帰宅や自宅待機させる。

感染管理責任者と衛生管理者には、事前に講習・指導を行う！

③ マスク・手洗い・消毒の徹底、手袋着用の励行

飛沫感染予防

接触感染予防

(1) *マスクの着用義務化と注意点

移動中含め、参加者全員のマスク着用を義務付ける。あごマスクは禁止。

1. 撮影関係者全員にマスクの着用を義務付ける。あごマスクはウイルスが付着するため禁止。
マスクには飛沫による感染拡大を防止する効果あり。

- ☐ マスクの着用は“適切な感染予防”の重要事項。
- ☐ 濃厚接触者を発生させないために徹底。
- ☐ キャストはフェイスシールドの着用がベスト。



2. マスクの着脱は、必ず耳元のゴムを持つこと。マスクの表面を手で触れると感染する恐れあり。
3. マスクを捨てる際も、マスクの表面に触れないよう耳元のゴムを持って外したうえで、ビニールの袋に入れて袋の口をしぼり、必ずゴミ袋に捨てる。
4. 消毒や除菌効果を謳う商品をマスクに噴霧し、薬剤を吸引してしまうような状態でマスクを使用することは、健康被害のおそれがあるため控える。
5. 第5波の主流となったデルタ株は、感染力が非常に強いいため、不織布マスクの着用を徹底する。2021/9月更新

- マスクは翌日まで使い回さない！
- 使用済みマスクの廃棄にも気を付ける！



*全国マスク工業会会員マークが付いているマスクの使用が望ましいが品薄の場合にはその限りではない。

またマスクの複数日に亘る使用を避けるため、会社側で用意し配布することが好ましい。

マスクやフェイスシールドの効果

スーパーコンピューター「富岳」によるシミュレーション結果

対策方法	なし	マスク			フェイスシールド	マウスシールド
		不織布	布	ウレタン		
	吐き出し飛沫量					
	100%	20%	18-34%	50%	80%	90%
	吸い込み飛沫量					
	100%	30%	55-65%	60-70%	小さな飛沫に対しては効果なし(エアロゾルは防げない)	

(『国立大学法人豊橋技術科学大学Press Release』より)

(2) 手洗いと消毒の励行

各車輛・控え室・ロケ場所出入口・ベースなどに消毒用アルコールを設置し、手指の消毒を徹底する。
消毒用アルコールがない場合は、こまめな手洗いを。

1. 手洗いと手指の消毒を徹底して行う。人・モノに触れたら、「手を洗う」「消毒する」という意識を徹底する。
飲食の前も必ず手洗いをし、手袋をしたままの飲食は控えるようにする。

手洗いの方法	残存ウイルス数
手洗いなし	約百万個
流水で15秒手洗い	約一万個
ハンドソープで10秒、 または30秒もみ洗い後に流水で15秒すぎ	約数百個
ハンドソープで60秒もみ洗い後、 流水で15秒すぎ	約数十個
ハンドソープで10秒もみ洗い後、 流水で15秒すぎを2回繰り返す	約数個

(『感染症学雑誌』より)

【消毒液の設置場所例】

- ☐撮影場所の各出入口
- ☐控え室・支度場所
- ☐撮影ベース
- ☐待機場所
- ☐トイレ出入口とトイレ内
- ☐各車輛
- …など（各自にミニボトルがベスト）



2. キャストは、適宜手指消毒を行うようにする。スタンバイ時はフェイスシールド着用がベスト。

3. 新型コロナウイルス消毒・減少方法一覧（それぞれ所定の濃度・温度あり）

方法	手指	モノ
水及び石鹼による洗浄	○	○
熱水	×	○
消毒用アルコール	○	○
次亜塩素酸ナトリウム	×	○
手指用以外の界面活性剤（洗剤）	未評価	○

(厚生労働省HPより)

(3) 場所やモノの消毒

備品、設備、機材や車輛も消毒を行う。

1. 撮影現場の備品、机や椅子、ドアノブなどの消毒を適時行う。

【以下のような場所やモノなどを消毒】

- ☐撮影現場や控え室の椅子・机・ドアノブなど
- ☐メイク道具
- ☐各車輛のシートや手に触れる部分
- ☐ロケセットのトイレ
- ☐スタジオなどの床

次亜塩素酸ナトリウム液

次亜塩素酸ナトリウム液を染みこませて絞ったウエスで拭くなどして消毒。

[注意点]

- ・手指に使用すると肌荒れするので手指への使用は控えること。
- ・吸い込まないように注意すること。
- ・スプレーボトルでの噴霧は控える。
- ・金属類は錆びる危険があるので、撮影機材などは消毒用アルコールを使う
- ・アルコール過敏のある人用には、アルコール禁忌のため、オスバン(塩化ベンザルコニウム)やヒビテン(クロロヘキシジン)も若干用意しておく。

※吸い込むと有害。必ず手袋・マスク・ゴーグルを着用のうえ、消毒を行う！

以下は、次亜塩素酸ナトリウムを主成分とする製品の例です。
商品によって濃度が異なりますので、以下を参考にしてください。

0.05%以上の次亜塩素酸ナトリウム液の作り方



メーカー (五十音順)	商品名	作り方の例
花王	ハイター	水1Lに本商品 25mL (商品付属のキャップ1杯)
	キッチンハイター	水1Lに本商品 25mL (商品付属のキャップ1杯)
カネヨ石鹼	カネヨブリーチ	水1Lに本商品 10mL (商品付属のキャップ1/2杯)
	カネヨキッチンブリーチ	水1Lに本商品 10mL (商品付属のキャップ1/2杯)
ミツエイ	ブリーチ	水1Lに本商品 10mL (商品付属のキャップ1/2杯)
	キッチンブリーチ	水1Lに本商品 10mL (商品付属のキャップ1/2杯)

(厚生労働省HPより)

家庭用洗剤

洗剤に含まれる界面活性剤で新型コロナウイルスが除去できる。

2021/06/29追加

試験で効果が確認された界面活性剤

- ☐直鎖アルキルベンゼンスルホン酸ナトリウム
- ☐アルキルグリコシド
- ☐アルキルアミノオキシド
- ☐塩化ベンザルコニウム
- ☐塩化ベンゼトニウム
- ☐塩化ジアルキルジメチルアンモニウム
- ☐ポリオキシエチレンアルキルエーテル
- ☐純石けん分 (脂肪酸カリウム)
- ☐純石けん分 (脂肪酸ナトリウム)



用途にあった住宅用・家具用洗剤を使う。なお住宅用・家具用洗剤がない場合には、台所用洗剤を使って代用することも可能。但し、台所用洗剤でプラスチック部分（電話、キーボード、TVリモコン、便座と蓋、照明のスイッチ、時計など）を拭いて、そのまま放置すると傷むことがあるので、必ず水拭きを行う。また塗装面（家具や自動車の塗装面など）、水がしみこむ場所や材質（布製カーテン、木、壁など）は、シミになる恐れがあるので、使用を控える。

なお次亜塩素酸ナトリウムと同様、手指への使用やスプレーボトルでの噴霧は厳禁。

家庭用洗剤

洗剤に含まれる界面活性剤で新型コロナウイルスが除去できる。

試験で効果が確認された界面活性剤

- ☐ 直鎖アルキルベンゼンスルホン酸ナトリウム
- ☐ アルキルグリコシド
- ☐ アルキルアミノオキシド
- ☐ 塩化ベンザルコニウム
- ☐ ポリオキシエチレンアルキルエーテル

用途にあった住宅用・家具用洗剤を使う。なお住宅用・家具用洗剤がない場合には、台所用洗剤を使って代用することも可能。但し、台所用洗剤でプラスチック部分（電話、キーボード、TVリモコン、便座と蓋、照明のスイッチ、時計など）を拭いて、そのまま放置すると傷むことがあるので、必ず水拭きを行う。また塗装面（家具や自動車の塗装面など）、水がしみこむ場所や材質（布製カーテン、木、壁など）は、シミになる恐れがあるので、使用を控える。

なお次亜塩素酸ナトリウムと同様、手指への使用やスプレーボトルでの噴霧は厳禁。

台所用洗剤の使い方



(1)洗剤うすめ液を作る

500mlの水に、台所用洗剤（スポンジなどにつけて使う洗剤。有効な界面活性剤が使われているかも確認）を小さじ1杯（5g）入れ軽く混ぜ合わせる。

(2)対象の表面を拭き取る

キッチンペーパーや布などに、(1)で作った溶液をしみこませ、液が垂れないよう絞る。汚れやウイルスを広げないよう、一方向にしっかり拭き取る。

(3)水拭き

洗剤で拭いてから5分程度たったら、キッチンペーパーや布などで水拭きして洗剤を拭き取る。特に、プラスチック部分は放置すると傷むことがあるので必ず水拭きをする。

(4)乾拭き

最後にキッチンペーパーなどで乾拭き。

（経済産業省HPより）



2. 定期的な消毒の実現のため、消毒チェックシートを作成する。

控室（ドアノブ、机、椅子、リモコン）			
時刻	消毒	換気	担当者
07:00	済	済	●● 太 郎
07:30	済	済	●● 太 郎
08:00			

3. トランシーバーなどの機材は使い回さず、ジップロックで各自が管理し、消毒する。

各部署などで接触感染の予防と消毒を徹底するよう指示。

- ☐ ワイヤレスマイクなどの着脱には細心の注意を払い、必ず消毒を行う。
- ☐ 持ち道具・小道具なども小まめに消毒を行い、取り扱いに注意する。
- ☐ 撮影機材・特殊機材なども使用前後は消毒を行う。

(4) 手袋の着用

手袋の着用を励行する。

1. 配布物は衛生管理者が手袋をして配布する。

「自分がウイルスを保有しているかもしれない」「物にウイルスが付着しているかもしれない」という意識が重要。

- ☐ 多数の人にモノを配る際には、使い捨て手袋を着用して配布する。
- ☐ 手袋は、ニトリル手袋がベストだが、ビニル手袋でも可。天然ゴム手袋は、ラテックスアレルギー（果物アレルギーのある人にも多い）がある人の使用は不可（アナフィラキシーショックを起こす可能性があるため）。

2. ゴミの取り扱いは慎重に。自分以外の人々が接触したモノは危険物との意識を。

- ☐ ゴミ袋はクリップなどで封をする。
- ☐ 弁当のゴミは、担当の衛生管理者が手袋を着用して受け取り、すぐにゴミ袋に入れて封をするなどの対処がベスト。弁当や箸などに付着する唾液は、ウイルスの温床であるという意識を。

④ 三密回避と換気を常に意識する

飛沫感染予防

接触感染予防

三密回避と換気

準備段階での各打合せやリハーサル、撮影ベース・スタジオ前室などで、人が密集しないよう気をつける。
参加人数を絞るなどの工夫を。またセット撮影や室内ロケなどの際は、できる限り換気を行う。
撮影時以外はスタジオ扉や窓を開放すること。車輛移動時は必ず窓を開ける。

1. 各打合せ時や待機中は、2 m以上の距離を置くようにする。また窓や扉を開けて常に換気を行う。

- ☐ 感染者との「接触時間」と「距離」が、感染のリスクを左右するので注意が必要。
- ☐ 打合せは可能な限り、Web会議が望ましい。

2. 美術打合せ・衣装合わせなどは、換気可能な広い場所で行う。
また、参加人数が少なくなるよう調整し、密集・密接を回避する。

- ☐ 各打合せの際も消毒用アルコールを常備し、マスク着用を義務付ける。
- ☐ 台本・資料・スケジュールなどの配布の際も、手袋を着用するよう心掛ける。

3. 車輛移動の際は、乗車時に手指消毒＆マスクを着用し、できる限り分散乗車したうえで、窓は必ず開け換気を行う。

- ☐ 車輛移動中は、密集空間となりやすいので、マスク・消毒・換気を徹底。
- ☐ 各車輛のドライバーは、車内の消毒を徹底するとともに、待機中のドライバー同士の交流も 控える。

4. 撮影時のスタジオ・ロケセットにおいても、密集・密接の状況が発生しないように努める。
リハーサルの参加スタッフ数を制限し、狭い撮影場所では外での待機を促すなどの工夫も。
また、換気もできる限り行う。換気が出来ないタイプのエアコン使用時は、外気を取り込む。

- ☐ 2 mの距離を取れるよう工夫する。
- ☐ できるだけスタジオの前室扉を開放したり、ドア窓2方向の換気を徹底するとともに、サブも 扉を開放しておくなどの換気努力を行う。
- ☐ 控室は、広く換気ができる部屋がベスト。



⑤ ケータリングの中止など飲食にも注意を払う

飛沫感染予防

接触感染予防

飲食に関する留意点

ウイルスが付着し増殖しやすいため、お茶場での飲み物の提供は中止。
ペットボトルを配布したり、水筒を持参してもらうなどで対応。お菓子等の差入れ、ケータリングも禁止に。

1. 食事の際は、飛沫感染の危険が高いため、複数人で集まって食べることは控え、各々距離を取るよう努める。
また感染リスクの高いケータリングの利用は控え、お弁当で対応。ゴミの廃棄などにも注意を払う。

- ☐ お弁当を配る人は、必ず手袋・アルコール消毒を行う。
- ☐ マスクを着用しながら食事することは不可能なので、密集・密接しないように注意する。
- ☐ 撮影中に着用する手袋の表面には、ウイルスが付着している可能性があるため、飲食の直前に手袋をはずして手を洗う。
- ☐ 唾液はウイルスの温床なので、お弁当箱などのゴミの扱いにも細心の注意を払う。

2. お茶・コーヒー・お菓子などの提供中止。差入れやケータリングも禁止。

- ☐ 唾液が付着した紙コップは大変危険なので、使用を控える。
- ☐ ケータリングは、接触感染・飛沫感染の危険が高いため、利用を控える。
- ☐ お茶や水のペットボトルを配布のうえ、各自記名して自己管理するか、水筒持参がベスト。

Ⅲ. 具体的な対応策

① 衛生管理部の構成と役割

② 撮影/ロケハン・ロケ全般での対応策

③ 部署ごとの対応策

④ ポスプロ

⑤ 移動・食事

※本ver.では、②～④の
記載は、「ガイドブック」
内に統合しました。

① 衛生管理部の構成と役割

(1) 感染管理責任者

感染防止や健康・安全管理について、プロデューサーと対等の権限を持たせる。

- ☐ スタッフやキャストなど撮影に携わる人たちの健康・安全面において、マネジメントや意思決定を行う。
- ☐ プロデューサーの兼務は避け、社内専任者か医療の専門家をたてることを推奨。
(プロデューサー兼務の場合、健康・安全管理より経済面を重視する可能性があるため)
- ☐ 各部署スタッフ、キャストやそのマネージャーの体調に関する情報を各部署の衛生管理者を通して集約し、制作活動の可否を判断。プロデューサーへ進言する。
- ☐ プロデューサーは、感染管理責任者からの進言を尊重し、制作活動の可否を最終決定し、必要に応じて保健所等の調査に積極的に協力するよう努める。
- ☐ 撮影関係者に、
 - ① 新型コロナウイルス感染確定者、
 - ② 感染の疑いがある者(=医療機関を受診し、検査結果待ち)
が現れた場合は、制作活動は不可と判断するとともに、保健所に報告し指示を仰ぐ。
 - また、③ 受診はしていないが症状のある者(=発熱、頻回な咳き込みや息苦しさ、倦怠感、味覚異常、嗅覚異常、湿疹様の皮膚症状など)が現れた場合、当該者に撮影への参加が不可であることを通告のうえ帰宅させるとともに、かかりつけ医等へ電話相談のうえ、指示に従うよう義務付ける。
- ☐ 各部署の衛生管理者から、指示に従わない者に関する報告があった場合、指示に従うよう勧告する。

※感染防止や健康・安全管理を司るが、それ以外の目的で感染管理責任者の立場・権限を利用してはならない。
また、個人情報の取扱いに細心の注意を払う。

(2) 衛生管理者

現場での具体的な感染防止対策の実施や衛生管理を担当。規模に応じた人数を任命・配置。

- ☐ 撮影現場などにおける各部署の感染防止対策(検温など)や衛生管理(消毒など)を日常的に 実行・主導し、スタッフ、キャスト及びマネージャーはその指示に従う。万が一、その指示に従わない者が現れた場合には、感染管理責任者に報告する。
- ☐ 感染管理責任者から、安全面等に関する指示があった場合には、所属する各部署のスタッフ、キャスト及びそのマネージャーに指示内容を早急に知らせる。
- ☐ 所属する各部署のスタッフ、キャスト及びそのマネージャーの体調について、体調管理チェックシートなどを活用したうえで情報を集約し、感染管理責任者に毎日報告する。
- ☐ 所属する部署のスタッフ、キャスト及びそのマネージャーに、
 - ① 新型コロナウイルス感染確定者、
 - ② 感染の疑いがある者(=医療機関を受診し、検査結果待ち)、
 - ③ 受診はしていないが症状がある者(=発熱、頻回な咳き込みや息苦しさ、倦怠感、味覚異常、嗅覚異常、湿疹様の皮膚症状など)
が現れていないか体調管理チェックシートなどによって確認し、感染管理責任者に報告する。
- ☐ スタッフ、キャスト及びマネージャーが、体調不良について申し出がしやすい環境・関係を構築する。
- ☐ 各部署などの衛生管理者の中から、ゴミの担当を決め、管理を行う。

※感染防止や健康・安全管理について主導的な役割を担うが、それ以外の目的で衛生管理者の立場・権限を利用してはならない。また、個人情報の取扱いに細心の注意を払う。

(3) 検温

検温を適時適切に実施することにより、スタッフ、キャスト及びマネージャーなどの撮影参加者の健康を管理する。

- 撮影現場での検温は、各部署などの衛生管理者が担当。
- 撮影現場での検温実施のタイミングは、「撮影集合時」に加え、「午後帯」「夕方帯」の都合3回など複数回が望ましい。
- 検温結果は、体調管理チェックシートなどに記録することを義務化する。
- 非接触型体温計は、接触感染予防に寄与する反面、精度に問題のあるものが存在するため、事前に接触型体温計の測定体温と乖離がないか調べておく。
- 接触型体温計を使用する場合には、一人ひとりの使用前後に必ず消毒を行う。
- 感染管理責任者がスタッフ、キャスト及びマネージャーなどの撮影参加の可否を判断する際、体温の判断に関して迷う者が現れたら、該当者を業務には就かせず待機させ、20分後に再検温を行う。再検温後も判断に迷った場合には、慎重を期して帰宅させる。

感染者を出さないために、体温や他の症状含め、判断に迷ったら休ませる！

(4) 検温・体調チェックの実施モデル

1. 撮影/ロケ・ロケハンの初日を基準として、過去2週間の体調申告

撮影/ロケ・ロケハンの全参加者に、撮影/ロケ・ロケハンの初日を基準とした過去2週間に、

- ① 発熱、頻回な咳き込みや息苦しさ、倦怠感、味覚異常、嗅覚異常、湿疹様の皮膚症状などの体調異変、
 - ② 家族や同居人に発熱などの感染症状がある者がいないか、
 - ③ 感染者との濃厚接触があったか
 - ④ 海外渡航歴があったかについて、
- 各部署等の衛生管理者への申告を義務付ける。申告を受けた衛生管理者は、感染管理責任者に報告。

※感染管理責任者は、①～④のいずれかに該当する者に対し、

撮影等への参加を認めない旨を通告(撮影/ロケ・ロケハンの現場に来てしまった者には、併せて帰宅を通告)し、かかりつけ医等へ電話相談のうえ、指示に従うよう義務付ける。

2. 撮影/ロケ・ロケハン当日の検温と体調チェック

① 集合時、② 午後帯、③ 夕方帯に、各部署等の衛生管理者が検温や体調チェックを実施。実施後速やかに、感染管理責任者に結果を報告。

3. 感染管理責任者による参加可否の判断

- ① 発熱がある者。
- ② 発熱はないものの、頻回な咳き込みや息苦しさ、倦怠感、味覚異常、嗅覚異常、湿疹様の皮膚症状などの体調異変がある者。
- ③ 家族や同居人に発熱などの感染症状がある者。

※感染管理責任者は、①～③のいずれかに該当する者に対し、撮影等への参加を認めない旨を通告し帰宅させる。またまた、かかりつけ医等へ電話相談のうえ、指示に従うよう義務付ける

4. 感染の疑いがある者が現れた場合、該当者を隔離した上で本人に保健所に連絡させる。

感染管理責任者は、上記①の発熱が高熱であったり、②の体調異変の症状が強い者が現れた場合、至急該当者を隔離したうえで、該当者本人にかかりつけ医や撮影場所の自治体が設置している受診・相談センターなどに連絡をさせ、指示を仰ぐよう指導する。また該当者本人による連絡が済んだ後、撮影続行の可否などについて保健所等に相談する

(5) 体調管理チェックシート

スタッフ、キャストやマネージャーの体調を把握するために、体調管理チェックシートを作成する。
体温に加え、咳、味覚異常などの症状も記載してもらう。

体 調 管 理 チ ェ ッ ク シ ー ト

名前 □□ 花子 所属部署 美術部 1 ページ

体温	6月1 日			6月2 日			6月3 日			6月4 日			月 日			月 日			月 日		
平熱 36.6℃	朝	昼	夕	朝	昼	夕	朝	昼	夕	朝	昼	夕	朝	昼	夕	朝	昼	夕	朝	昼	夕
40℃																					
39℃																					
38℃																					
37℃	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●											
36℃																					
35℃																					
34℃																					
症状	咳	咳	咳	咳	咳	咳	咳	咳	咳	咳	咳	咳	咳	咳	咳	咳	咳	咳	咳	咳	
	のどの痛み	のどの痛み	のどの痛み	のどの痛み	のどの痛み	のどの痛み	のどの痛み	のどの痛み	のどの痛み	のどの痛み	のどの痛み	のどの痛み	のどの痛み	のどの痛み	のどの痛み	のどの痛み	のどの痛み	のどの痛み	のどの痛み	のどの痛み	
	息苦しさ	息苦しさ	息苦しさ	息苦しさ	息苦しさ	息苦しさ	息苦しさ	息苦しさ	息苦しさ	息苦しさ	息苦しさ	息苦しさ	息苦しさ	息苦しさ	息苦しさ	息苦しさ	息苦しさ	息苦しさ	息苦しさ	息苦しさ	
	鼻水	鼻水	鼻水	鼻水	鼻水	鼻水	鼻水	鼻水	鼻水	鼻水	鼻水	鼻水	鼻水	鼻水	鼻水	鼻水	鼻水	鼻水	鼻水	鼻水	
	寒気	寒気	寒気	寒気	寒気	寒気	寒気	寒気	寒気	寒気	寒気	寒気	寒気	寒気	寒気	寒気	寒気	寒気	寒気	寒気	
	悪寒	悪寒	悪寒	悪寒	悪寒	悪寒	悪寒	悪寒	悪寒	悪寒	悪寒	悪寒	悪寒	悪寒	悪寒	悪寒	悪寒	悪寒	悪寒	悪寒	
	倦怠感	倦怠感	倦怠感	倦怠感	倦怠感	倦怠感	倦怠感	倦怠感	倦怠感	倦怠感	倦怠感	倦怠感	倦怠感	倦怠感	倦怠感	倦怠感	倦怠感	倦怠感	倦怠感	倦怠感	
	湿疹	湿疹	湿疹	湿疹	湿疹	湿疹	湿疹	湿疹	湿疹	湿疹	湿疹	湿疹	湿疹	湿疹	湿疹	湿疹	湿疹	湿疹	湿疹	湿疹	
	頭痛	頭痛	頭痛	頭痛	頭痛	頭痛	頭痛	頭痛	頭痛	頭痛	頭痛	頭痛	頭痛	頭痛	頭痛	頭痛	頭痛	頭痛	頭痛	頭痛	
	味覚異常	味覚異常	味覚異常	味覚異常	味覚異常	味覚異常	味覚異常	味覚異常	味覚異常	味覚異常	味覚異常	味覚異常	味覚異常	味覚異常	味覚異常	味覚異常	味覚異常	味覚異常	味覚異常	味覚異常	
嗅覚異常	嗅覚異常	嗅覚異常	嗅覚異常	嗅覚異常	嗅覚異常	嗅覚異常	嗅覚異常	嗅覚異常	嗅覚異常	嗅覚異常	嗅覚異常	嗅覚異常	嗅覚異常	嗅覚異常	嗅覚異常	嗅覚異常	嗅覚異常	嗅覚異常	嗅覚異常		
その他の症状 (以下に記載)	その他の症状 (以下に記載)	その他の症状 (以下に記載)	その他の症状 (以下に記載)	その他の症状 (以下に記載)	その他の症状 (以下に記載)	その他の症状 (以下に記載)	その他の症状 (以下に記載)	その他の症状 (以下に記載)	その他の症状 (以下に記載)	その他の症状 (以下に記載)	その他の症状 (以下に記載)	その他の症状 (以下に記載)	その他の症状 (以下に記載)	その他の症状 (以下に記載)	その他の症状 (以下に記載)	その他の症状 (以下に記載)	その他の症状 (以下に記載)	その他の症状 (以下に記載)	その他の症状 (以下に記載)	その他の症状 (以下に記載)	
家族・同居人に 症状がある人	あり <u>なし</u>	あり <u>なし</u>	あり <u>なし</u>	あり <u>なし</u>	あり <u>なし</u>	あり <u>なし</u>	あり <u>なし</u>	あり <u>なし</u>	あり <u>なし</u>	あり <u>なし</u>	あり <u>なし</u>	あり <u>なし</u>	あり <u>なし</u>	あり <u>なし</u>	あり <u>なし</u>	あり <u>なし</u>	あり <u>なし</u>	あり <u>なし</u>	あり <u>なし</u>	あり <u>なし</u>	

【参考】熱中症

1. 熱中症の症状区分

分類	重症度	主な症状
I 度	軽症 現場での応急処置が可能	めまい、失神、筋肉痛、筋肉の硬直（こむら返り）、 大量の発汗
II 度	中等症 病院への搬送が必要	頭痛、気分の不快、吐き気、おう吐、力が入らない、 体がぐったりする（熱疲労、熱痙攣）
III 度	重症 入院・集中治療の必要	意識がなくなる、けいれん、歩けない、刺激への反 応がおかしい、高体温（熱射病）

(政府広報オンラインより)

2. 熱中症が疑われる人への応急措置

- ☐ 風通しの良い日陰、クーラーが効いている室内など涼しい場所へ移動させる。

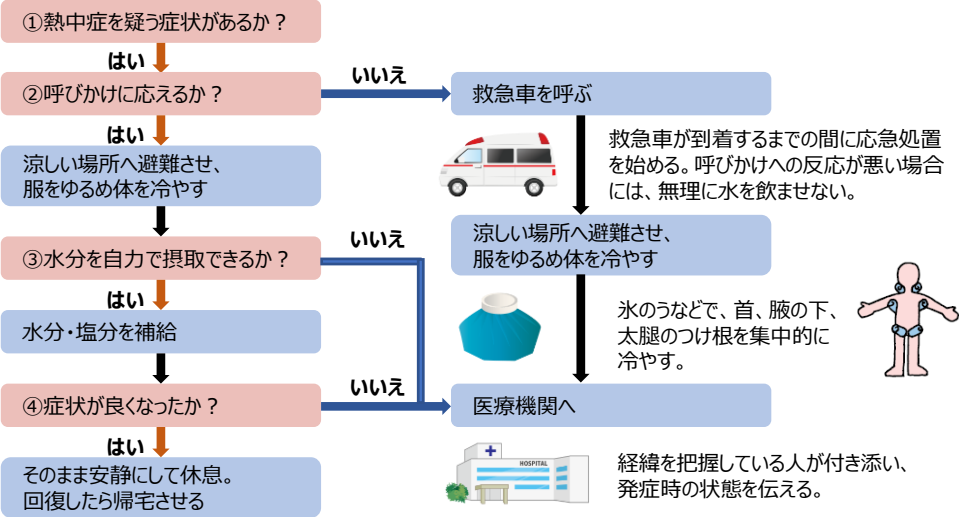
☐ 衣服をゆるめ、氷のうや氷、濡れタオルなどをあてたり、扇子や団扇等で扇ぐなどして、体から熱を放散させ冷やす。

☐ 冷水・経口補水液・スポーツドリンク、塩飴などにより、水分と塩分を補給させる。

☐ 自分の力で水分摂取ができない場合や意識障害が見られる場合は、症状が重くなっているため、すぐに病院に搬送する。

※ 熱中症対策として、氷のうや氷、スポーツドリンク、塩飴などを準備する！

3. 熱中症が疑われる人への対処フロー



4. マスクと熱中症

新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐためには、マスクの着用は必須。
他方、マスクを着用すると、心拍数や呼吸数、血中二酸化炭素濃度、
体感温度が上昇するなど、身体に負担がかかる場合がある。
高温や多湿といった環境下では、熱中症のリスクが高くなるおそれも・・・。

夏季、高温多湿な環境下におけるマスク着用時の注意点

- ☐ 屋外で人と十分な距離（少なくとも 2 m 以上）を確保できる場合には、マスクをはずす。
- ☐ 屋内外問わず、周囲の人との距離を十分にとれる場所で、マスクを一時的にはずして休憩を取る。
- ☐ マスク着用時は、たとえ喉が渇いていなくても、普段以上に小まめな水分補給を心掛ける。